



トレードの教科書ファースト

トレードの教科書ファースト 利用規約

第 1 条（総則）

本書の利用者は本規約を遵守するものとします。

第 2 条（定義）

本書「トレードの教科書ファースト」を以下利用規約内では本書という。

- ・ 本書を利用する者（購入しようとしている者、または購入者）を、以下利用者という。

第 3 条（禁止行為）

- ・ 本書を転売（オークションへの出品を含む）・複製・譲渡する等の不正行為。
- ・ 本書の内容や、本書の内容を想像できるような表現を使い、インターネットや言語などの伝達手段を用いて公開すること。
- ・ 本書の内容を引用するなどして当方に不利益な行為を行うこと。
- ・ その他当方が不相当と判断する一切の行為。禁止行為の有無についての判断は、当方が行うこととし、利用者はその内容、根拠の説明を行う義務を負わないものとします。また、利用者は当方の判断に従うものとします。

第 4 条（著作権）

本書は、著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に関して、以下の点にご注意ください。本書の著作権は、当方に属します。当方の事前許可を得ずにして、本書の一部または全部をあらゆるデータ、著作権手段(印刷物、ビデオ、テープレコーダーおよび電子メディア、インターネット等)により、複製および転載することを禁じます。

第 5 条（損害賠償）

利用者が上記第 3、4 条を侵害した場合は、著作権法など関係法規に基づく手続きにより、法的手段をとらせていただくとともに、違反件数と販売価格を乗じた額の 10 倍の損害賠償金を支払うものとします。また、インターネット上で公開した場合は、一律 1000 万円の損害賠償金を支払うものとします。

第 6 条（販売停止、変更、修正、追加、削除）

当方は、いつでも本書の販売の停止、変更、修正、追加、削除することができるものとします。利用者への通知はその都度ブログ・メールにて行うものとしますが、緊急を要する場合はその限りではないものとします。

第 7 条（取り扱い）

当方は、提供する情報の正確性の確保に努めていますが、完全さを保証するものではありません。本書やメール情報の内容に関するいかなる間違い、不掲載についても一切の責任を負うものではありません。

第 8 条（秘密保持）

当方と利用者は、この規約を通じて知り得る秘密を、事前の承認なしには一切外部に公表することはないものとします。

第 9 条（規約および条件等の改訂）

本規約および条件は、当方の判断により利用者の承諾なく随時変更、改訂を行うことができるものとし、利用者はこれを承諾するものとします。上記改定後の本規約も、当方と利用者との間のすべての関係に適用されるものとします。

第 10 条（免責事項）

本書のすべて（マニュアル・データ等）は、発行時点における当方の見解をまとめたものであり、将来にわたるすべての外国為替証拠金取引（FX）における利益を保証するものではありません。使用・実行は、すべて自己責任で行うものとし、投資によるいかなる損害が発生しても当方は責任を負わないものとします。

第 11 条（返品について）

商品の性質上、当方は返品には一切応じません。

あや流「トレード方法の極意」

第2章 環境認識

- P C開いてからトレードするまでの流れ P007
- いつも、エントリーが遅れてしまう場合の対処法 P008
- 手法の基本 P011
- エントリー条件の数について P017
- 負け方 P020
- 退場しないための4箇条 P021
- 手法の作り方の6工程 P022
- 環境認識とは P023
- 環境認識をするメリット P024
- 環境認識をするデメリット P024
- 環境認識の一例（具体例） P026
- マルチタイムフレーム分析 P032
- 環境認識に使えるテクニカル6選 P040
- ①ダウ理論
 - ダウ理論の基本ルール P043
 - アップトレンドが崩れる時 P054
 - アップトレンドが転換する時 P056
 - ダウトレンドが崩れる時 P059
 - ダウトレンドが転換する時 P061
- ②水平線
 - 水平線の目的 P064
 - 水平線を引いてみよう P068
 - 水平線の正しい引き方 P074
 - 効く水平線を引くコツ P080
 - 反発のカウント方法 P082
 - ・ダブルトップやダブルボトムネックライン P090
 - ・分かりやすい高値や安値 P093
 - ・レンジの上限と下限 P095
 - ・押し安値と戻り高値 P098
 - 近い値幅で水平線が引ける場合 P113
 - 水平線の強弱を捉える P115
 - 水平線を環境認識に使う場合 P117
 - 水平線を決済に使う場合 P120
 - 水平線を自動で引く？ P122

③ MA (ボリンジャーバンド)

横軸 P124

MA とはどのようなもの? P125

MTF_MA を紹介 P127

パーフェクトオーダー P129

パーフェクトオーダーのポイント P133

パーフェクトオーダーを使った勝率の高いエントリーポイント P135

パーフェクトオーダーで負ける2つのパターン P143

(1) トレンドが出過ぎている場合 P144

(2) MA の角度が無くなり横向きになってきた場合 P148

④ フィボナッチチャネル

チャネルラインの角度 P164

MT 4 の出し方 P167

フィボナッチチャネルの引き方 P169

フィボナッチチャネルを使ってはいけない相場 P171

⑤ チャートパターン

(1) ボックス P174

(2) 三尊 (3) 逆三尊 (4) ダブルトップ (5) ダブルトップ P176

トレンドとチャートパターンの組み合わせ P177

チャートパターンの出現位置 P178

高値圏と安値圏とは P180

三尊と逆三尊の肩とは? P183

三尊と逆三尊はダウ理論を重ねて考える P186

⑥ プライスアクション

リバーサルハイ&リバーサルロー P194

リバーサルハイのを見つけ方のコツ P196

リバーサルローのを見つけ方のコツ P201

第2章 環境認識

私はFXで勝つためには資金管理が1番大切だと思っています。
しかしその資金管理も、ある程度勝てる手法を持っていることが大前提です。



損切幅と利確幅の比率（リスクリワード）が1：1の場合、勝率が51%以上ないと、いくら資金管理を頑張っても資金は減ってしまうのです。

そのため、これから手法に関する環境認識やエントリーや決済についてお話をしていきます。エントリーポイントや決済位置などといったトレード方法については、第3章以降に詳しく書いていきます。

※勝ち手法のリスクリワードと勝率の組み合わせは無限にあります。

PCを開いてからトレードするまでの流れ

FXを始めたばかりの方や、勝てないトレーダーの共通点の1つに、パソコンを開いてすぐにトレードをする点があります。

あなたはでしょうか？

もし、あなたもパソコンを開いてすぐにトレードしているようなら、今すぐやめた方が良いでしょう。

なぜなら、このやり方をしているから勝てないとも言えるからです。

トレードで勝つためには念入りな準備が必要です。

勝つための正しいトレードの流れとは、以下の5段階になります。

勝つための正しいトレードの流れ

(1) 環境認識

↓

(2) トレードシナリオ作成

↓

(3) エントリー

↓

(4) 決済

↓

(5) エントリー後のフォロー

いつも、エントリーが遅れてしまう場合の対処法

「いつも、エントリーが遅れてしまいます」という方がいらっしゃいますが、エントリーが遅れるのは、事前に環境認識をしたり、シナリオを作っていないからです。

対処法としては、朝起きてチャートを開いた時や、帰宅してチャートを開いた時など、すぐにトレードをするのではなくて、ドル円、ユーロ円、ユーロドル、ポンド円など複数の通貨ペアがある中で、どの通貨ペアでエントリーすれば1番勝てる見込みがあるかを分析することです。

まず最初にするのは、これです。

それが終わった後、その選んだ通貨ペアは、「売り方勢力」と「買い方勢力」のどちらが勝っているのかを判断をします。

簡単に言うと、「売りパワー」と「買いパワー」のどちらが強いのかということです。

パワーの強い方にエントリーをする方が、当然勝率が高いです。
例えば、買いが優勢なら、買いエントリーを狙った方が勝ちやすいです。

その後、どのポイントでエントリーをすれば勝ちやすいのか具体的な場所を見極めます。

そこまで出来たら、トレードシナリオを作り、そのポイントに来るまで待ちましょう。

そしてたとえ、チャートを開いた時に絶好のエントリーポイントから入りそびれていたとしても、気にすることはありません。

「あと10分早くチャートを見ていたら、絶好のエントリーポイントだったな。」
「ほら、エントリーしていたら利確だったのに！！」

こういう時、よくありますよね？

お分かりの通り、トレーダーにとったら、こんなことは日常茶飯事です。
諦めて次のチャンスまで待ちましょう。

チャンスはいくらでもあります。

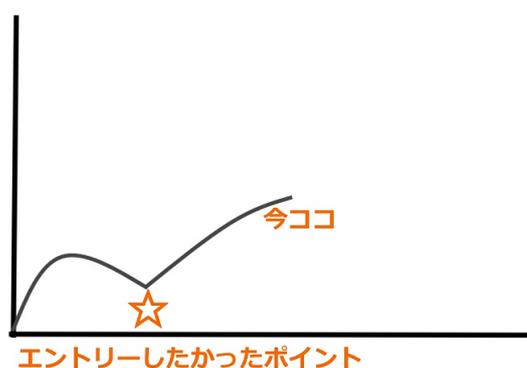
慌てて飛び乗って高値掴みさせられるより、それを見送って
新しく「これは勝てるだろう！」という場面まで待って勝負した方が勝てます。

「諦めるスキル」を身につけることは、勝ち組になるためにとても大事です。

複数の通貨ペアを見ているなら、他の通貨ペアでエントリーチャンスが来るかもしれないですし、今日はもうトレードできる場面は無さそうと思えば明日までノートレで良いのです。

この一連の考え方が重要です。

チャート開いたら・・・



また良いポイントが来るさ！
あきらめよう

追いかけて
エントリーしないぞ！

手法の基本

トレードをする上で覚えておかないといけない大切なことがあります。
それは、エントリー条件や決済条件を明確に言語化する必要があるということです。

分かりやすい例を挙げますね。

エントリー条件の例：

- ① 16：00～23：00に
- ② 4時間足の終値が連続して2本以上、 $+1\sigma$ を上回っている
- ③ 1時間足のMAと $+1\sigma$ が上向き
- ④ 5分足がMAと水平線で交わる所で反発

以上4点全てが当てはまったら、成行買いエントリー。

損切条件の例：

5分足で、エントリー根拠の④の水平線を下に抜けてローソク足が確定したら損切り。

利確条件の例：

損切幅よりも、1.5倍以上の値幅。

もしくは、5分足で、1つ上の水平線に到達したら利確。

といったように、
条件を明確に言語化することです。

特に、「いつ」「どこで」「どうなったら」「どうする」が大事です。

上の例で言うと、
下のようになります。

- ・いつ
→16:00~23:00

- ・どこで
→5分足で

- ・どうなったら
→4時間足の終値が連続して2本以上、 $+1\sigma$ を上回っていて、1時間足のMAと $+1\sigma$ が上向きになって、5分足がMAと水平線で交わる所で反発したら

- ・どうする
→成行で買いエントリーをする

※例として出ただけですので、このままトレードしないようにしてくださいね。

- ①どんな相場環境で
- ②どんな場所で
- ③どんな値動きが出たら
- ④どこでエントリーして
- ⑤どこまで狙い
- ⑥どうなったら手仕舞うのか

①～⑥までが明確になってこそ、初めて手法と呼べます。

つまり、誰かに

「どんな手法でトレードしてるの？」と聞かれた時に

「私のエントリー条件は、〇〇がどうなったらエントリーして、△△がどうなったら利確、□□がどうなったら決済します。」

と分かりやすく説明ができないといけません。

そして、チャートを使っても説明できるようにしておきましょう。

「このチャートなら、ここがエントリーポイントです」と即答できるってことです。

ここまでできないと、リアルトレードでは使えません。

特に1分足や5分足で執行するスキャルピングをしている場合は、俊敏な判断をしないとエントリーも決済も間に合いません。

迷っている暇はなく、1分1秒でも遅れてしまうと、本来利確できたのに損切で終わってしまったり、エントリーチャンスを失ったりしてしまいます。

「買いエントリーしようか迷ってたら行っちゃった。
あーやっぱり上がったわ。」

「決済迷ってたら下がっちゃった。
さっき利確すれば良かった。
1万円損したわ。」



などなど。。

私は1分足でトレードすることが多いので、「一瞬の迷いが命取り」
これは痛感します。

このようにエントリーする時や決済をする時の条件を具体的にし、曖昧性を排除しなければ、

- ・トレードする時に迷いが生じる
- ・裁量度が高くなり再現性が低くなる

こういったことが起きてしまいます。

「同じ相場は二度と来ない」と言う人もいますが、私は似たような相場は何度も来ると思っています。

それは、手法の検証でも相場の原理原則の検証でも構いませんが検証をした事がある人なら分かる事です。

「あっこの場面、前にも似たような場面あったな」
これの繰り返しです。

また同じような場面が来た時に、
同じところでエントリーをして、同じ場所で決済ができないと
その手法は身につけていません。

何度やっても、エントリーと決済の根拠が常に同じであるということが、できて当たり前
なのです。

あなたはのでしょうか？
自分のトレードを見つめなおしてみてください。

感覚的な判断では、長期的なスパンで安定して勝てません。
全て言語化してルールに加えてから、それに従ってトレードをするようにしましょう。

エントリー条件の数について

まず初心者に向けてのメッセージとして、
エントリー条件の数は多すぎると煩雑になり、再現性が低くなります。



エントリーも決済も、条件はできるだけシンプルなものの方が良いです。
コツは、小学生でも理解できるくらいのものが覚えやすく、再現もしやすいです。

例えば昔からある、「MA反発でエントリー」などの古典的な手法も機能しやすくエントリー条件としては有効です。

ただし、MA反発でエントリーという条件だけでは勝率が悪いので、他にも有効な条件を組み合わせるようにしてみましょう。

慣れないうちは、**エントリー条件は最低2つ重なったポイントでエントリーする**ように心がけて下さい。

次に、中上級者さんへのメッセージです。

エントリー条件の数が多い=勝つ根拠の数が多いとも言えますので、慣れて来たら条件は1つでも多くなるようにエントリールールを作りましょう。

根拠を積み重ねれば重ねるほど、ローソク足は思惑方向に動くので、2つよりも3つ、3つよりも4つある方が良いです。

注意としては、根拠が多くなればなるほど、出現率が下がるということです。
「勝率と引き換え」ですね。

そして、再現性が落ちやすいという点もありますが、中上級者さんなら、これはForex Testerなどで何度も練習をすることで、その場面が来たら迷わずエントリーできる状態にすることは可能です。

エントリーの根拠については

初心者さん・・・最低2つ以上
中上級者さん・・・3つ以上

上を参考にしてください。

ちなみに私のメイン手法のエントリー根拠は8つです。

最近のデータでは

出現頻度は、監視通貨ペア10個で1日に1～3回が平均です。

勝率は75%以上で、リスクリワードは、基本的に1以上。

勝率を取るか、出現頻度を取るかのバランスを考えてエントリーの根拠の積み重ねをしてくださいね。

出現頻度が少なくてもロットで調節すれば、稼げる額が少ないということはありません。

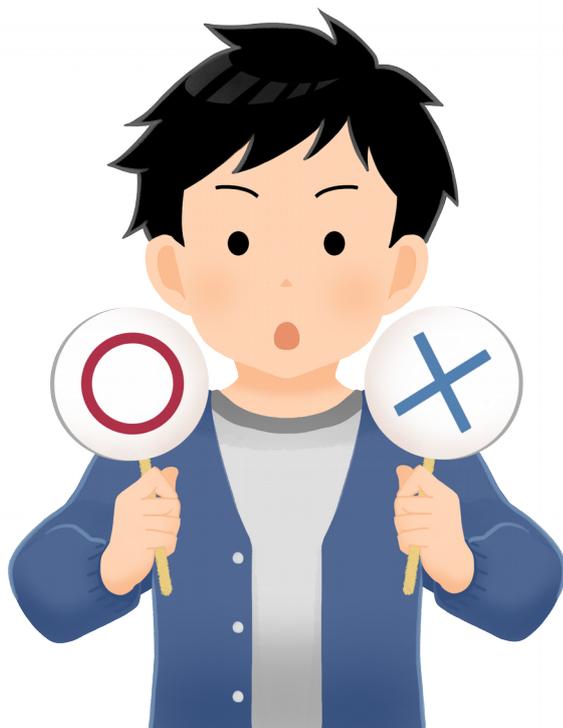
8つも勝てる根拠があるのに負けることがあるのだから、根拠が2つの場合は当然、勝率は高くないと思っていた方が良いでしょう。

そのため、**根拠を2つにした場合は、最低限の目標として勝率51%以上を目指す**と良いでしょう。

負け方

そうしてしっかりと条件を明確にしてからトレードをした結果、「自分のトレードルールに従ってエントリーと決済をしたけど、損切りになった」という場合はOKです。

どんな手法でも、負けることは必ずあるからです。



問題なのは、ルールとは違ったトレードをした結果、利益が出てしまうことです。

これを繰り返すとルールを破る癖がついてしまい、どんどん自分のフォームを崩して最終的には、資金を溶かしてしまいます。

退場ですね。

退場しないための4箇条

退場しないためには、

- (1) 自分のルールを徹底的に守り
- (2) しっかりとした資金管理と
- (3) 常にフラットなメンタルで
- (4) 検証で勝てると結果が出た手法でトレードをし続けること

これだけです。

過去検証を通して自分なりのパターンを構築しておく、機械的かつ再現性高いエントリーをしやすくなります。

※検証については非常に重要なものですので、必ず行ってからリアルトレードをするようにしてください。

検証のやり方が分からない場合は、[【あや検証】](#)をどうぞ（笑）

手法の作り方の6工程

手法の大まかな作り方は、以下の通りです。

- (1) どんな相場（環境）を狙うものかを定める
- (2) エントリーの方向は長期足の方向と同じにして
- (3) エントリー位置と損切り位置の根拠を明確にして
- (4) 勝率に見合った、損切幅と利確幅のバランスにし
- (5) トレードあたりの損失額を決め
- (6) 検証でプラスになるかチェックし、100場面以上練習する

あとは、検証で勝てると結果が出たならひたすらリアルトレードをし続けていくだけで、増えたり減ったりしながら、最終的には月単位や年単位でお金が増えていきます。

「お金が増えない」と嘆いている場合は、上の工程のどこかが抜け落ちているのです。

あなたは心当たり、ありますか？
もう一度、上の工程を確認してみてください。

勝てるようになるには、「退場しないための4箇条」と合わせて、上の工程が必要なんだという事をまず初めに理解しておいてください。

この【トレ教】でも、これから細かな部分をお伝えしていきますね。
一緒に頑張りましょう♪

(1) 環境認識

この章では勝ちやすい場所でトレードできるための下準備になる環境認識について解説していきます。

環境認識とは

テクニカルや他の通貨ペアとの相関関係、指標を含めたファンダメンタルズなどから複合的に考えて相場全体を見た時に、現在のレートが相場のどのような状況にあるのか、そしてこの後上昇しやすいのか下降しやすいのかを分析することです。

環境認識がうまくできるようになると
勝ちトレードが増えていきます。

私のブログは2014年から続けていますが、開設当初からトレード理念として以下の内容を掲げてきました。

私は環境認識について重きを置いています。

<トレード理念>

小手先だけのテクニカルではなく、
トレード前の準備に力を入れるようにしています。
準備の段階で9割、勝負が決まっていると思うから。
いかに環境認識力をつけるかでトレードの精度は変わる。

私のブログのトップページ

環境認識をするメリット

環境認識をすることにより

- ・「勝ちやすい場面」、「負けにくい場面」が分かるようになる
- ・現在の相場状況が上記のどちらの状況か分かる
- ・優位性の高いエントリーポイントが分かるようになるので勝率が上がる
- ・負けやすいポイントでのエントリーを回避し、勝ちやすいポイントのみでエントリーできるようになる
- ・トレンドが転換しやすい場所が分かる
- ・順張りの値幅が大きく取れる
- ・逆行しにくくなる

などなど、いくつもメリットがあります。

環境認識をするデメリット

一方、環境認識をするデメリットは、下記です。

- ・環境認識をしないでトレードする時に比べて、ひと手間かかるので面倒くさい
- ・スマートフォンではやりにくい

スマートフォンでやれないことはないですが、精度が落ちる為は非推奨です。私もやっていません。

メリットの方が断然大きいのがお分かりいただけますよね。
あなたがどんな手法を使っているか、トレード前には必ず環境認識をする必要があります。

では、環境認識の具体的な例を見てみましょう。

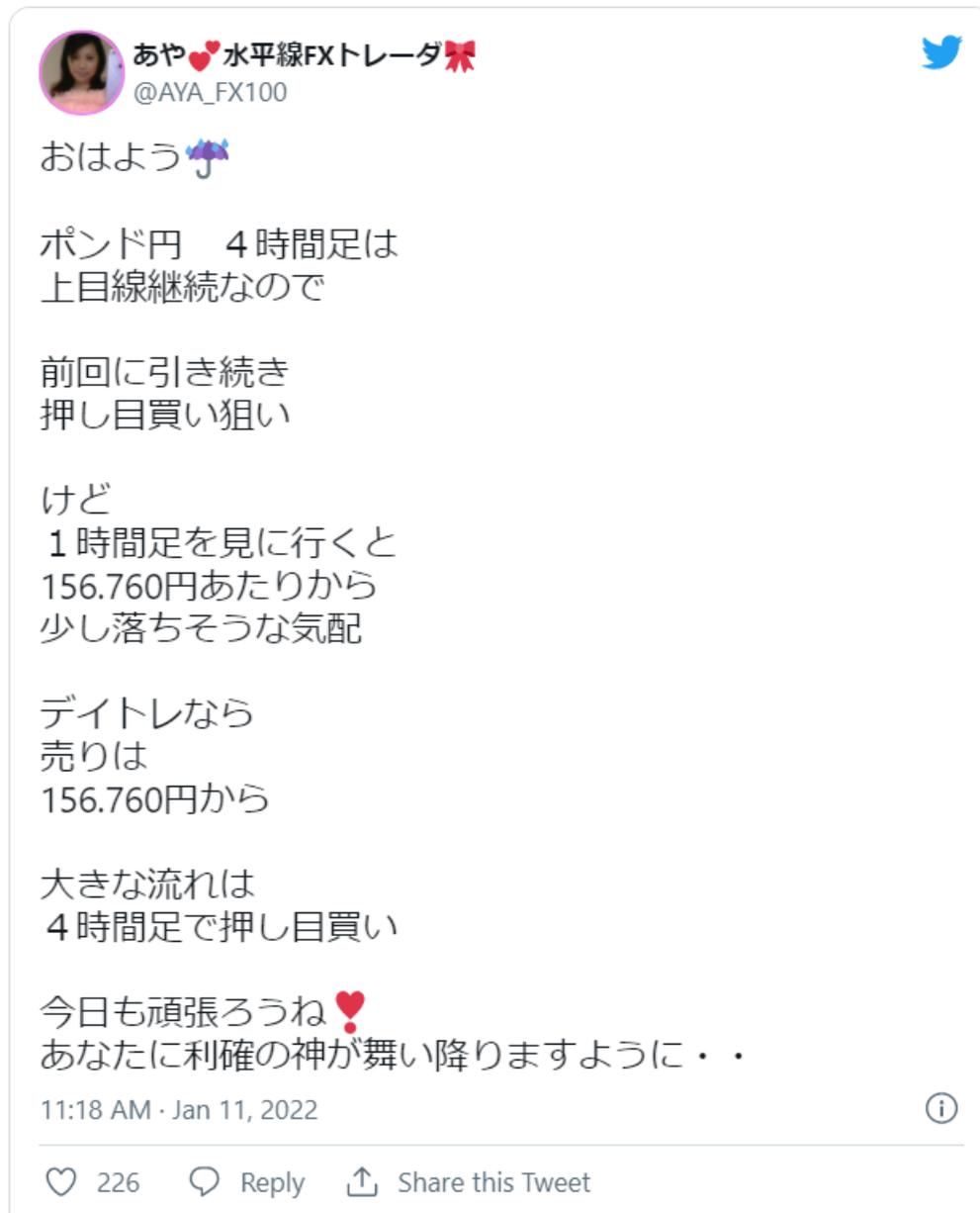
※「難しいな」と思った場合は、【トレ教】を最後まで読んでからもう一度読んでみてください。

きっと理解できると思います。

今はさらっと読んでみてくださいね。

環境認識の一例（具体例）

下の画像はある日のツイートです。



https://twitter.com/AYA_FX100/status/1480725732011782146?ref_src=twsrc%5Etfw

これは、4時間足の環境認識では押し目買いを狙っていて、1時間足では売りを狙っているという意味の投稿です。

この意味、あなたには分かりますか？
分かりやすいように、かみ砕くと



まず、現在レートより下で買いを狙っているわけですね。
上のチャート画像では、青の矢印の流れです。

そして、そこまで下げてくるまでの大きな値幅の一部を 156.760 円で売って数 pips を狙う事を予測しておいたということです。

それがピンクの部分です。

この環境認識を元にスキャルトレードして、売りエントリーして利確してます。
(XAUUSD の buy は関係ありません。)

実際には指値でバシッとエントリーではなく、短期足でタイミング取りをしているので
エントリーレートは少し下になっています。

通貨ペア	注文タイプ	数量	実行時間	損益
GBPJPY	sell	1.00	2022.01.11 07:58:00	6 400
XAUUSD	buy	1.00	2022.01.11 09:03:44	7 374

損益:	13 774
クレジット:	0
証拠金:	0
出金:	0
残高:	13 774



トレード履歴



その後のチャート 1

青色の縦線が、Twitterに投稿した時です。

その後、ピンク色にマーカーした部分が少し下がっていますよね？
この下落を、売りエントリーしたのです。

先程のTwitterに書いた

「1時間足を見に行くと156.760円あたりから少し落ちそうな気配
デイトレなら売りは156.760円から」

この部分が、その通りの動きになっています。



その後のチャート2

そして利確後は、上昇していますね。

先ほどのTwitterでは、
「4時間足では押し目買いを狙う」と書いた部分の動きになります。

実際の値動きも
4時間足ではこの下落が押し目となり上昇しましたね。

このように、環境認識を使えば未来のローソク足の流れがどうなるのかを予測することができ、その予測を使ってトレードで勝つことができます。

同じチャートを見ている、大きな目線で見ている人は買いで狙っていたり
もう少し小さな目線で見ている人は売りで狙ったり、

色々な人の思惑がローソク足を動かしています。

だから、SNSなどで誰かが「ドル円は買いだ」と言っている、資金力もレバレッジも
ロットも見ている時間足もあなたと同じ環境ではないので、便乗しても無意味なんです。

あなたはそれに便乗して1万円の資金でハイレバで買いエントリーして、その後の下げで
損切になったとしても、実はその人は100万円の資金でローレバのスイング目線のシナ
リオでエントリーしていて、30 pips 下げた後、6日後に上昇したタイミングで利確
したかもしれないのです。

あなたはあなた自身のやり方で環境認識をして、トレードシナリオを作り、検証して作り
上げた鉄板手法のルール通りのエントリー条件が揃うまでひたすら待ち、
タイミングが来たらエントリーし、ルール通りの利確、根拠が崩れたら損切をする、そし
てトレード日誌を付けて改善して行くのです。

この繰り返しのなかで、手法も磨かれますし、環境認識力もついてきます。

マルチタイムフレーム分析

環境認識のためのチャート分析として役立つものとして、マルチタイムフレーム分析というものがあります。

マルチタイムフレーム分析、、、カタカナですし、なんだか難しそうなイメージで一瞬拒否反応が出ませんでしたか？

大丈夫です、慣れば難しくありませんので頑張って習得していきましょう。

マルチタイムフレーム分析とは、複数の時間足チャートを確認して現在の相場環境を把握し、エントリーポイントを割り出すこともできる分析方法です。

そうすることによって、大きな時間足の相場の流れや状況、つまりトレンド相場なのかレンジ相場なのかという方向性を確認した上で、それに適したエントリー方向（売りか買い）や、エントリー方法（手法）を使い分けることができます。

もう少し具体的にまとめたのが、下の画像です。

マルチタイムフレーム分析



複数の時間足チャートを確認

① 大きな時間足の相場の流れや状況を確認

- ・トレンド相場なのかレンジ相場なのか
- ・トレンドの勢い、レンジのパターン
- ・サポートライン、レジスタンスラインなど

② 適したエントリー方向や、エントリー方法を使い分けてエントリー

- ・売りか買いか
- ・手法

① 大きな時間足の相場の流れや状況を確認



(A)環境認識する時間足

② 適したエントリー方向や、エントリー方法を使い分けてエントリー



(B)エントリーする時間足

このように

(A)環境認識する時間足
B)エントリーする時間足

の2種類を使ってトレードするということです。

つまり
相場を多面的に見るわけです。

ちなみにこれは、1つの通貨ペアごとに行います。

そして、スキャルピング、デイトレード、スイング、どのトレードスタイルでも、マルチタイムフレーム分析を使った環境認識を行ってください。

もしあなたが

「15分足だけ見て、トレードしていた」
「5分足しか見ていなかった」

という場合は、今日からこの複数の時間足チャートを使ったマルチタイムフレーム分析を取り入れてトレードしてくださいね。

そうすることで、トレード成績が上がります。

今から楽しみですね！



(A)環境認識に使う時間足

環境認識は、主に1時間足、4時間足、日足、週足のいずれか、もしくは複数で行います。

ここでのポイントは、エントリーを執行する時間足よりも適度に大きな時間足で環境認識をするということです。

目安としては、スキャルピングなら1時間足や4時間足、デイトレードなら4時間足や日足、スイングトレードなら日足や週足あたりが良いでしょう。

(B)エントリーに使う時間足

(A)で環境認識をしてエントリーできそうな場所が分かったら、エントリーをします。
(正確に言うと、執行足でも環境認識はしますが、ここでは割愛します。)

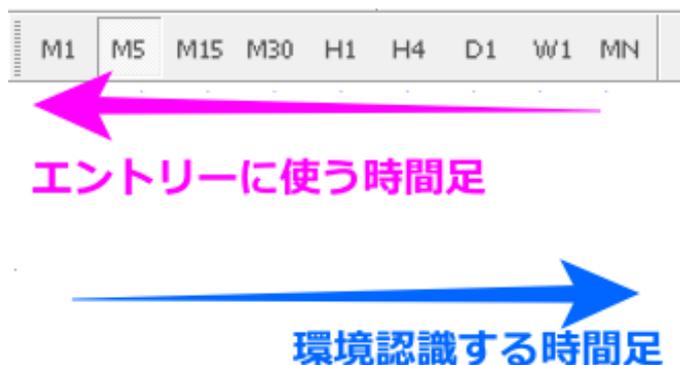
このエントリーを執行する時間足のことです。
執行足とも呼びます。

多くの場合、この時間足でエントリー位置、損切位置、利確位置を決めます。

このエントリーを執行する時間足は、環境認識する時間足よりも小さい足にします。

目安としては、スキャルピングなら1分足や5分足、デイトレードなら15分足や30分足、スイングトレードなら1時間足や4時間足を設定すると良いでしょう。

コツとしては、MT4のタイムフレームを2つ以上左にズラすと距離感が丁度良いです。



エントリーに使う時間足の役割は、トレードの精度を高めるということです。

「日足でこのあと上昇しそうだから買いエントリーをしよう」と思っても、日足のローソク足1本というのは値幅自体が大きい不是吗？

当然、上昇したり下落したりするボラも大きいので、この後上昇するという方向が読めていて買いエントリーをしても、タイミングによっては負けてしまう事もあります。

その為、もっと小さな時間足を見て、細かな値動きを見ることで細部までこだわった方が精度が高くなるということです。



あなたのトレードスタイルは、スキャルピング、デイトレード、スイングトレード、どれでしょうか？

トレードスタイルによっても、見る時間足は変わります。

下の組み合わせ例も参考に、あなたの

(A)環境認識に使う時間足

(B)エントリーに使う時間足

を今、決めてみましょう。

(例と同じでなくても、構いません。)

<組み合わせの例>

■パターン1

スキャルパー向け

(A)環境認識に使う時間足 1時間足

(B)エントリーに使う時間足 1分足

■パターン2

デイトレーダー向け

(A)環境認識に使う時間足 4時間足

(B)エントリーに使う時間足 15分足

下の空欄に書き込んでください。

あとで変更することもできますので、まずは1つずつ、あなたのトレードの形を具体的にしていきましょう。

(A)環境認識に使う時間足	(B)エントリーに使う時間足

まず最初に、エントリーする時間足を、スキャルピングなら1分足や5分足、デイトレードなら15分足や30分足、スイングトレードなら1時間足や4時間足を参考に決めてから、その2つくらい右のタイムフレームを環境認識する時間足にすると良いでしょう。

※中上級者は環境認識する時間足を複数にすると、さらに精度が高いトレードができますのでやってみてください。
やり方は、【トレ教2】で解説しています。

【トレ教2】 ➡ <http://ayafx.site/lp/>

【トレ教】は初心者向けですので、環境認識する時間足を1つの場合で解説していきます。

環境認識に使えるテクニカル6選

さてここまでで、トレードする時のイメージはできましたか？

「環境認識する時間足と、エントリーする時間足の2つが必要なんだな。」

「環境認識する時間足は1時間足にして、エントリーは5分足でしようかな。」

こんなふうに自分のトレードスタイルをイメージできたなら、ひとまず準備完了です。
決めた時間足で早速、取り組んでいきましょう。

「あれ？エントリーは15分の方が良いかも。」とか

「環境認識する時間足は4時間足の方が成績良いな。」などといった具合に、実際にやってみて初めて分かる事もあります。

自分の感触を踏まえて、微調整を加えていってくださいね。

では次に進みます。

環境認識の大きな役割の2つは

- ・大きな時間足を見て、大きな時間足の相場の流れを確認
- ・大きな時間足を見て状況を確認

でしたね。

これらをしていくためには、初めは何から学んで良いか分からないと思いますので、この章で、環境認識に使える「これだけ押さえておけばOK!」というテクニカルを6つ厳選してお伝えしていきます。

環境認識に使えるテクニカル6選

その6つとは

- ①ダウ理論
- ②水平線
- ③ MA (ボリンジャーバンド)
- ④フィボナッチチャネル
- ⑤チャートパターン
- ⑥プライスアクション

です。

これらは私が実際に今も使用しているものだったり、深く学ぶことにより成績が上がったものですので、まずはこの6つをしっかりと押さえると良いと思います。

というより、逆にこれ以外のものは無くても勝てます。それくらい強力なものです。

①ダウ理論

まず最初にダウ理論を簡単に説明していきます。

これを知らないとトレードできないと言っても過言ではないほど、重要度としては、最重要の部類に入ります。

ダウ理論の役割としては次の2つです。

- ・目線、トレンドの確認をしやすいにする
- ・トレンド転換のタイミングを分かりやすくする

下落しているのか、上昇しているのかという、「方向性」を見極めるためにダウ理論を使います。

目線の見極めはトレード前に必ず必要です。

上昇しているなら「買いで狙う」、下降しているなら「売りを狙う」というように大きな戦略が決まるからです。

ダウ理論の基本ルール

アップトレンド

- (1) 安値を切り上げ、高値も切り上げながら上昇する相場
- (2) 押し安値を下に抜けて確定するとトレンドが崩れたと判断する

基本は安値を見ていけばいいです。

この後解説していくトレンドラインも、アップトレンドの時は安値に引きます。

アップトレンドは安値が大事です。

高値は前の高値よりも上に抜くことが理想ですが、抜けなくてもアップトレンドは続きます。

アップトレンドの時は、その時の最高値の安値を「押し安値」といい、「押し安値」を下に抜けたらトレンドが崩れたと判断します。

ダウントレンド

- (1) 高値を切り下げ、安値も切り下げながら下降する相場
- (2) 戻り高値を上を抜けて確定するとトレンドが崩れたと判断する

先ほどのアップトレンドと逆で、ダウントレンドの時は、**基本的に高値を見ていけばいい**です。

トレンドラインも、ダウントレンドの時は高値に引きます。

ダウントレンドは高値が大事です。

安値は前の安値よりも下に抜くことが理想ですが、抜けなくてもダウントレンドは継続です。

ダウントレンドの時は、その時の最安値の高値を「戻り高値」といい、「戻り高値」を上を抜けたらトレンドが崩れたと判断します。

実際に図で見た方が分かりやすいですね。
っとその前に、、、

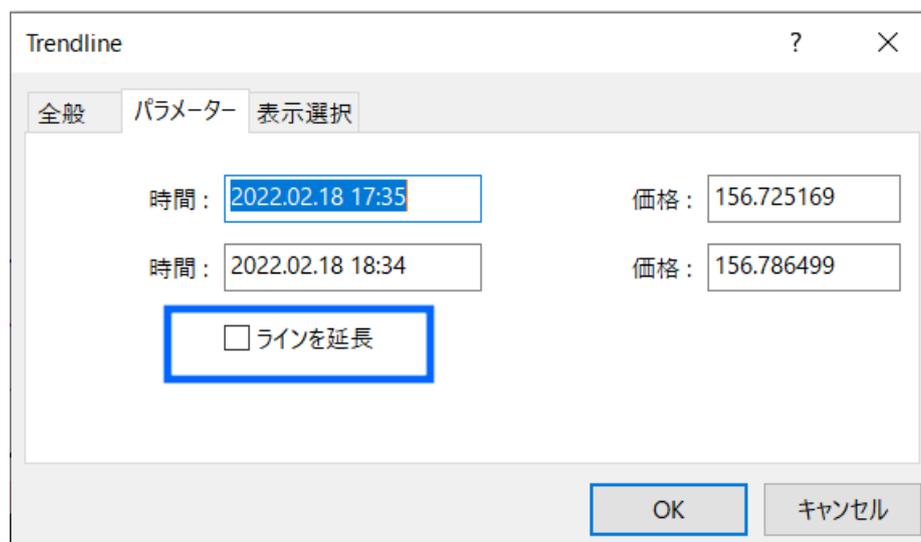
ダウ理論を使うにはまず、波形を確認する必要があります。
これができないとダウ理論を理解することはできません。

少し波形について解説しますね。
その後、ダウ理論のトレンドが崩れるポイントなどの話に戻ります。

波形は、下のオレンジ線のように、高値と安値を繋いだものです。
指でなぞってみましょう。



MT4の描画ツールの「トレンドライン」を使って自分で実際に引いても良いですし、よく分からない場合はZigZagというインジケーターを使っても良いでしょう。そのうち慣れて来たら自分で引けるようになります。

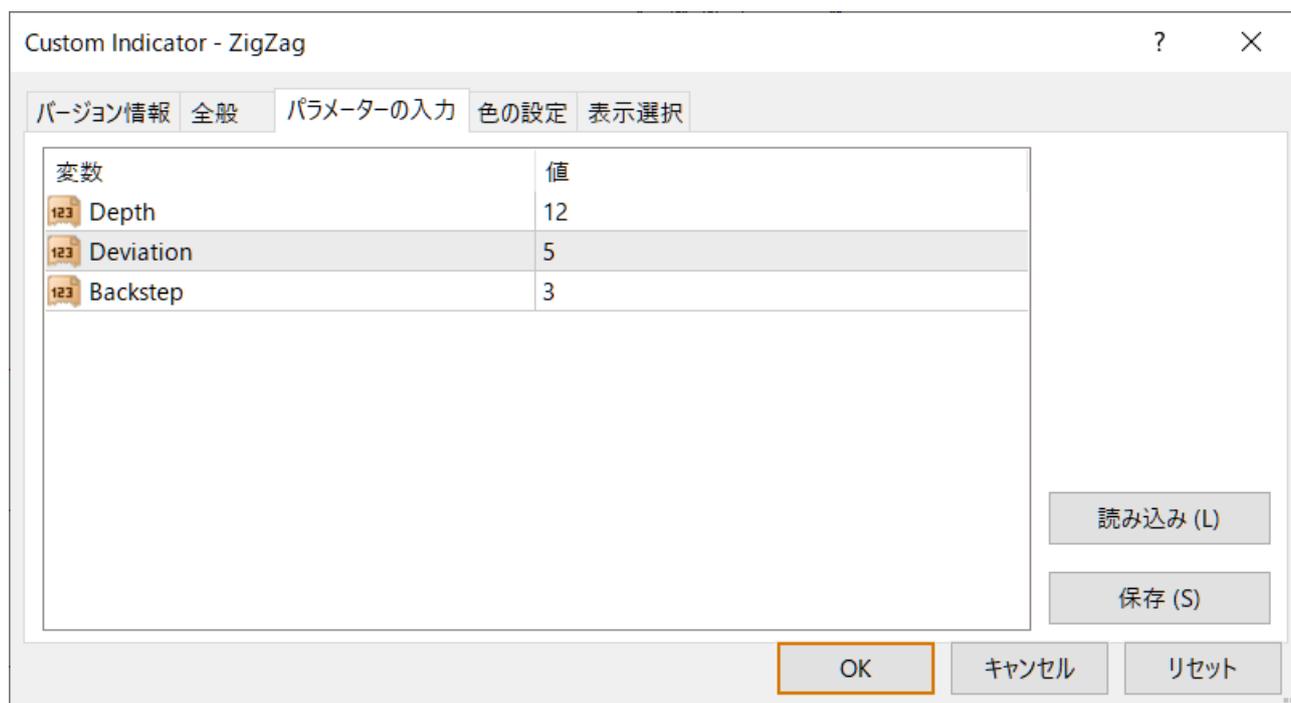


トレンドラインで波を描く場合は、パラメーターの「ラインを延長」のチェックは外してから「OK」ボタンを押してください。そうしないと、びよ〜んと長いラインになってしまいます(; '▽')

ZigZagとは、自動的に高値と安値をラインで繋げてくれるインジケーターでMT4やMT5にデフォルトで入っています。

ZigZagはパラメーターの数値を変えると波の大きさが変わります。これは実際に試してみると良いでしょう。

もし迷った場合は、デフォルトの「12.5.3」でも良いと思いますし、小さな波で捉えたいという場合は「4.5.2」にすると細かい波を描いてくれます。



ZigZagのパラメーター画面の見本を載せますね。
相場によって、印象が変わりますが参考に見てみて下さい。

パラメータが「12.5.3」のサンプルチャート1



パラメータが「12.5.3」のサンプルチャート2



パラメータが「4.5.2」のサンプルチャート1



パラメータが「4.5.2」のサンプルチャート2



波の大きさについてのポイントは、「常に同じ大きさの波で捉える」ということです。

昨日は「12.5.3」くらいの大き目の波で引いて、今回は「4.5.2」のような小さめの波で引く、というようにしてはダメです。

相場によって波の大きさは確かに変わりますが、だいたい同じくらいの波の大きさを描くようにしてください。

このように、波形を描いた後、「最高値」や「最安値」、「押し安値」、「戻し高値」を確認してダウ理論を見ていきましょう。

ダウ理論は、この後解説する水平線と同じくらい大事です。

ダウ理論だけでトレードすることもできますが、水平線と合わせて使う事により、より精度が上がります。

私も、ダウ理論だけでトレードはしません。

では、ダウ理論のアップトレンドとダウトレンドの定義について戻ります。

「ダウ理論」という用語を聞いただけで、頭が拒否反応を示す人もいますが、そういう場合はアップトレンドの要点だけを覚えればOKです。

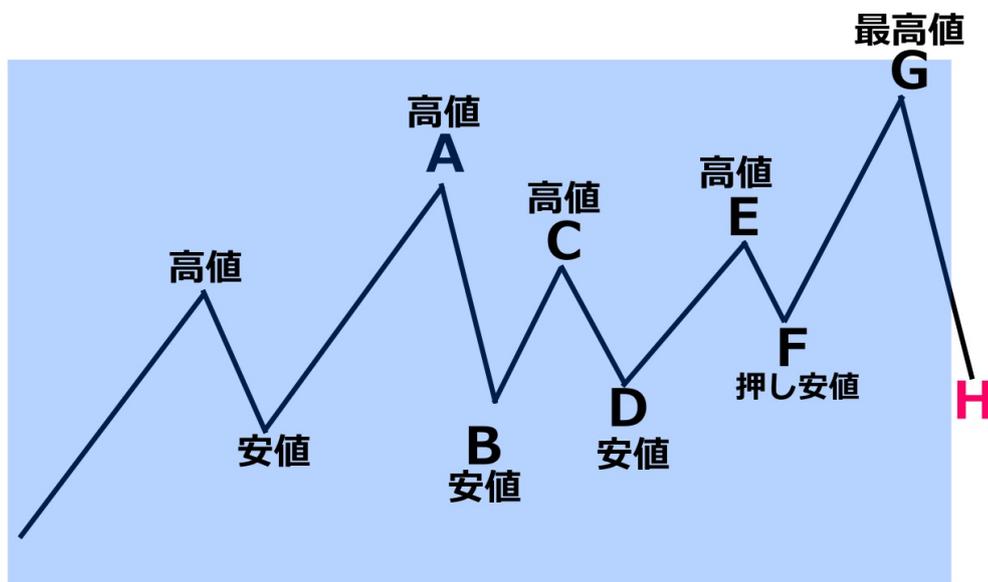
ダウトレンドは、アップトレンドの逆ですから。

アップトレンドの定義は、

- (1) 安値を切り上げ、高値も切り上げながら上昇する相場
- (2) 押し安値を下に抜けて確定するとトレンドが崩れたと判断する

とにかく「**安値**」が**大切**だとお伝えしましたね。

下の画像で説明していきます。



Fまでは安値が切り上がっていますよね？
そのためGまではアップトレンドです。

間違えやすいのが、「Cが前回の高値のAよりも切り上がっていないからダメなんじゃないか？」と思う人が結構います。

しかし

アップトレンドは、高値が切り上がらなくても、安値さえ切り上がっていればアップトレンド継続なんです。

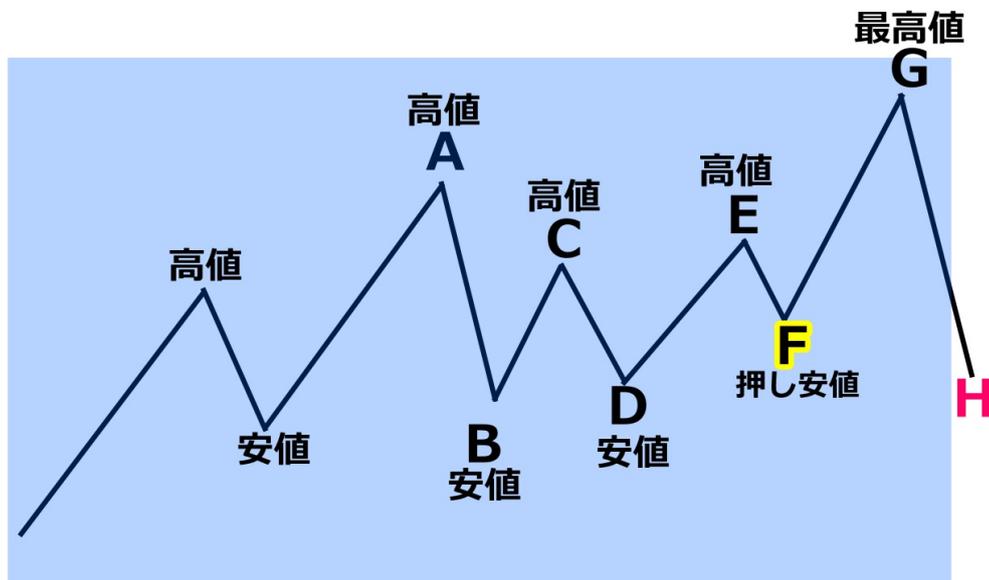
なので、CやEの高値をつけた時は、「レンジっぽいな～」と思うかもしれませんが、トレンドとしてはアップトレンドです。

なるほど・・・



アップトレンドが崩れる時

では、アップトレンドが崩れたのはどこでしょうか？



正解は、Hです。

理由は「押し安値Fを切り下げてしまったから」です。

押し安値とは、「最高値を作った安値」です。

ということは、最高値よりも左にある、1番新しい安値です。

最高値はGですので、Gよりも左にある、1番新しい安値はどこか、指で下になぞってみてください。

そうするとFになりますね。
Fが押し安値です。

Fが「押し安値」となり、ここを下に抜けたらトレンドは崩れます。

図のHのローソク足が確定した段階でトレンドが崩れたとなるわけですね。

これは、定義の
「押し安値を下に抜けて確定するとトレンドが崩れたと判断するの部分」です。

そして、ここでも勘違いして説明しているブログや商材が多くありますが、Hの時点ではダウントrendではありません。

アップトレンドが崩れただけです。

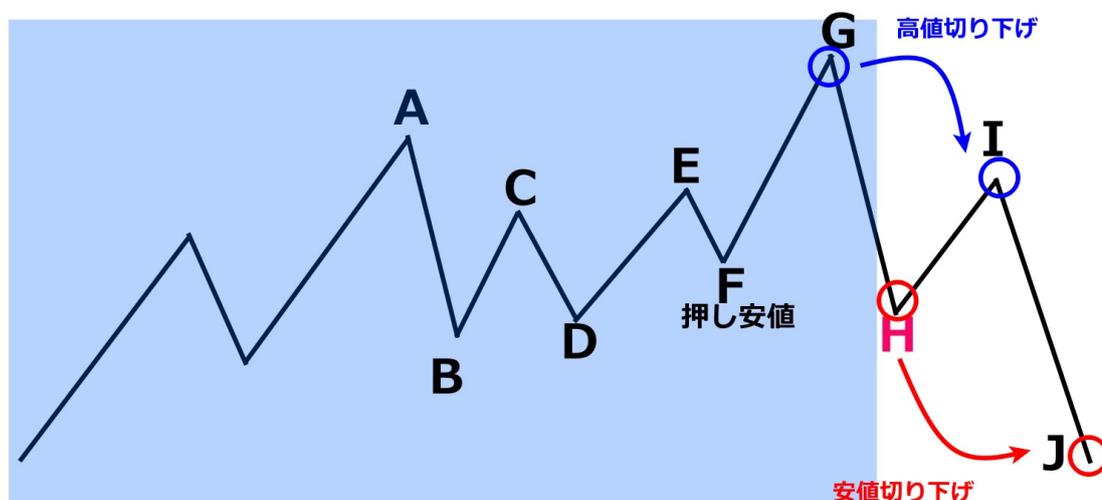
そんないきなり、アップトレンドからダウントrendにはなりません（笑）
それじゃあ、目線がコロコロ変わって忙しすぎますね(≧▽≦)

ちなみに、高値を更新する度に押し安値も更新されて、上に動いていきます。
常に「その時の」最高値の安値が押し安値であり、押し安値は1つしありません。

アップトレンドが転換する時

では、アップトレンドからダウントrendに転換するのはどのタイミングでしょうか？

それは、下のようにローソク足が切り下げてくれば、IでGの高値を切り下げていますし、JでHの安値を切り下げていますので、「ダウントrendに転換した」となります。



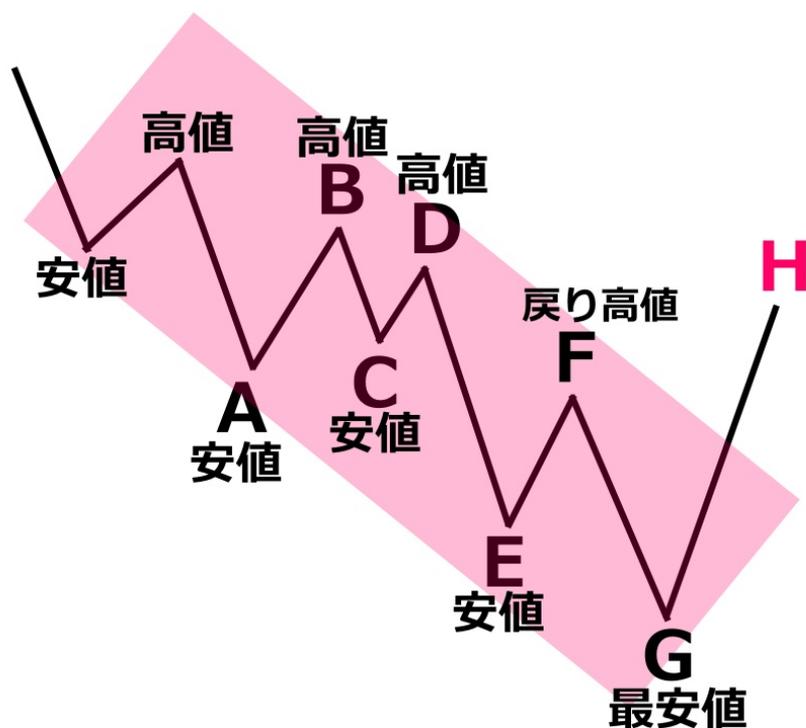
つまり、Jのローソク足が確定した段階で、トレンドが転換したとなります。

次に、ダウントレンドの定義です。

- (1) 高値を切り下げ、安値も切り下げながら下降する相場
- (2) 戻り高値を上に抜けて確定するとトレンドが崩れたと判断する

アップトレンドと逆で、ダウントレンドの時は、とにかく「高値」を見ていけばいいとお伝えしました。

今度は下の画像で説明していきます。



高値に注目して見ていくと、上の図ではFまでが、前回の高値より切り上がっていますね。そのため、Gまではダウントレンドです。

Cで前回の安値 A を下に更新できていませんが、問題ありません。

Cの時点での直近の高値 B が前回高値よりも切り下げているので、この時点では、ダウ
ントレンドです。

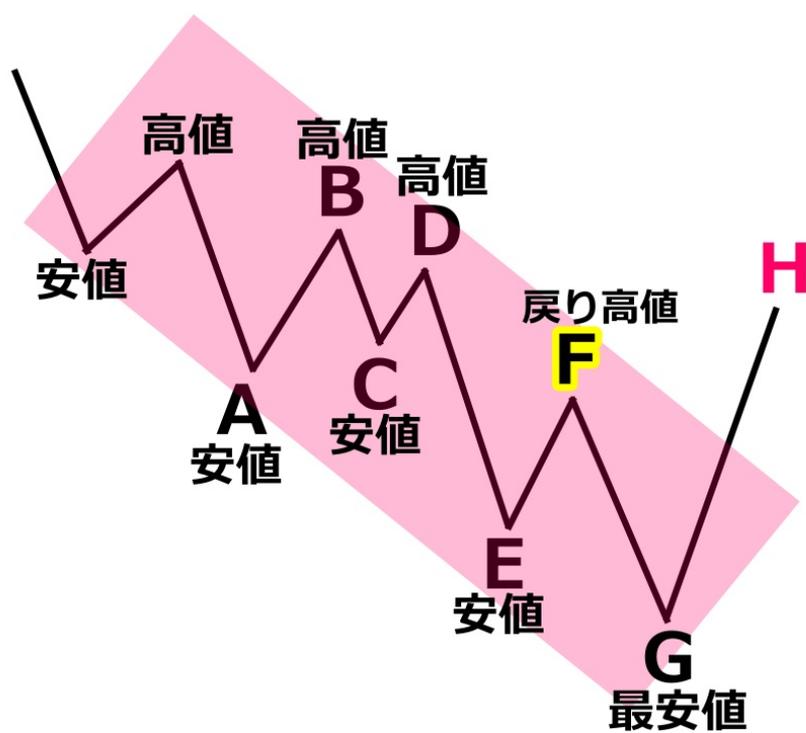
ダウントレンドでは安値が切り下がっていても下がらなくても、高値さえ前回の高値より
切り下がっていればダウントレンドは継続となります。

そのため、**ダウントレンドの時は常に「前回の高値よりも切り下げたか？」**を意識してい
きます。



ダウントレンドが崩れる時

では、ダウントレンドが崩れたのはどこでしょうか？



正解は、Hです。

理由は、「戻り高値Fを切り上げてしまったから」です。

戻り高値とは、「最安値を作った高値」です。
ということは、最安値よりも左にある、1番新しい高値です。

最安値はGなので、Gよりも左にある1番新しい高値はFですので、Fが戻り高値となります。

このことから、トレンドが崩れたと判断するのは、戻り高値のFを上を抜けて確定した、Hのローソク足が確定した時です。

これは、定義の2番目「戻り高値を上を抜けて確定するとトレンドが崩れたと判断する」の部分ですね。

そして、アップトレンドの時と同じく、Hの時点ではまだアップトレンドではありません。

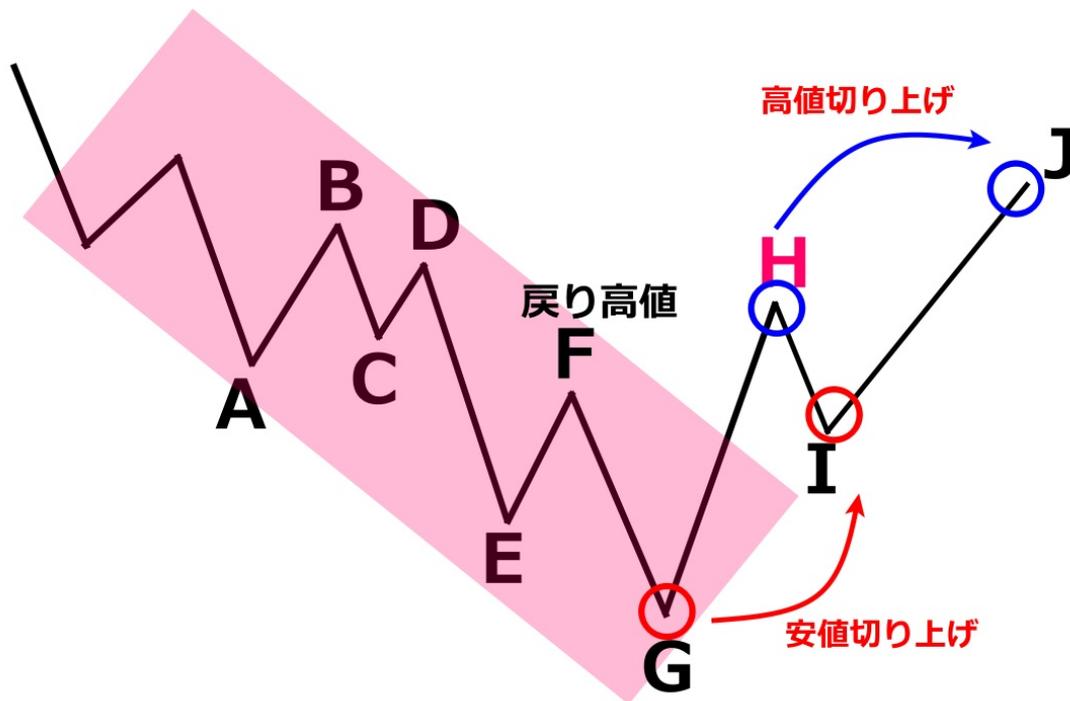
ダウトレンドが崩れただけです。

安値を更新する度に戻り高値も更新されて、下に動いていきます。
常に「その時の」最安値の高値が戻り高値であり、戻り高値は1つしありません。

ダウントレンドが転換する時

では、ダウントレンドからアップトレンドに転換するのはどのタイミングでしょうか？

それは、下のようにローソク足が切り上げてくれば、IでGの安値を切り上げていますし、JでHの高値を切り上げていますので、「ダウントレンドに転換した」となります。



つまり、Jのローソク足が確定した段階で、トレンドが転換したとなります。

いかがでしたでしょうか？

これが分かればトレンドが読めるようになるので、ダウ理論の部分は何度も読んでしっかりと理解してくださいね。



②水平線

次は水平線です。

どんな相場にも使える、万能な武器です。

これを使いこなせるようになると、相場が面白いほど読めるようになります。

といっても、そんなに難しくないので安心してください。

水平線の目的

水平線の目的は2つあります。

- (1) 抵抗帯を見つける
- (2) 環境認識やエントリーポイントの決定、損切位置の決定、利確位置の決定

(1) 抵抗帯を見つける

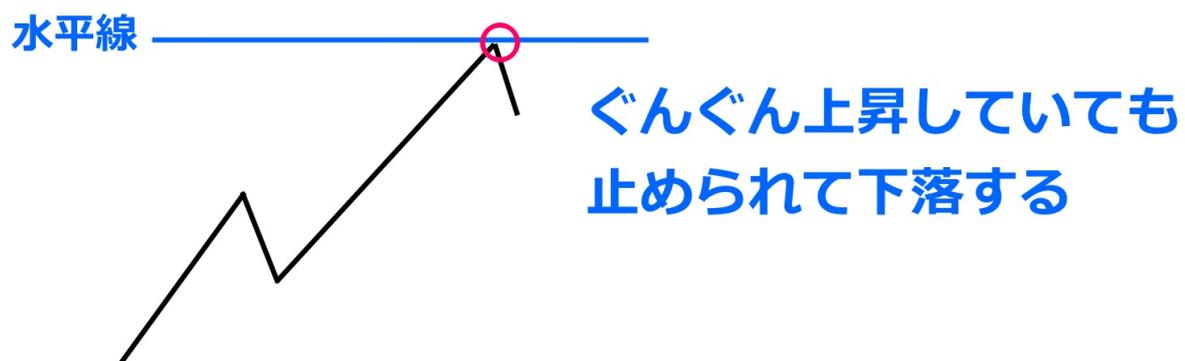
水平線が引ける場所は、ローソク足が止まりやすく、今までの方向と逆に動きやすいです。

例えばローソク足が上昇している場合にすぐ上に水平線が引けた場合、水平線にぶつかって下落します。

逆にローソク足が下落している場合にすぐ下に水平線が引けた場合、水平線にぶつかって上昇します。

これらを「抵抗」と呼びます。

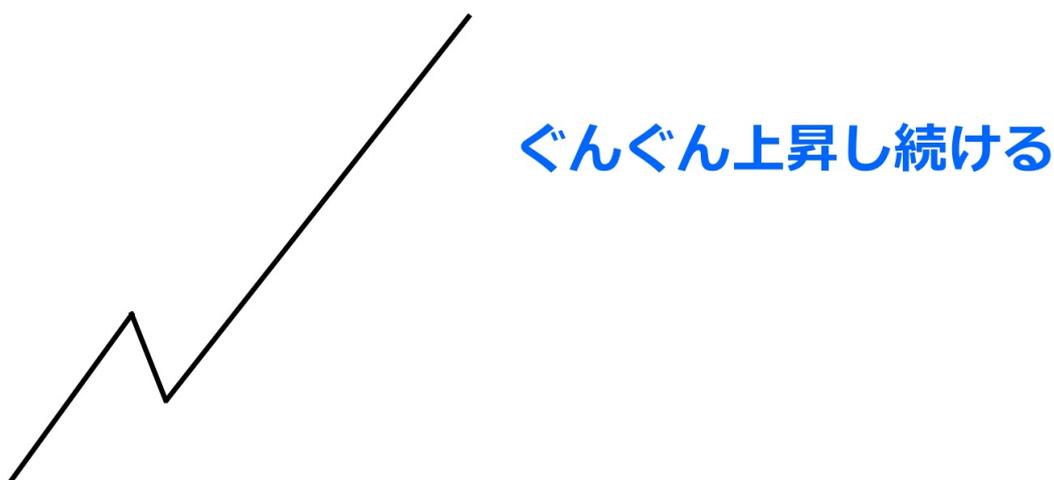
水平線がある場合



水平線が引けない場所と言うのは、止められる「抵抗」が無いのでローソク足が止まりません。

ローソク足が上昇していて水平線が引ける場所が全くない場合、ローソク足はぐんぐん上昇し続けます。

水平線が無い場合



実際には、水平線以外にも抵抗帯となるものはありますので、どこまでも上昇しつづけるというわけではありませんが。。

水平線は、誰もが引くような位置に引くことが重要です。

逆に「誰もそこには引かないだろう」という場所に引いてもダメです。

そのような水平線を使った環境認識は精度が低いですし、エントリーポイントにしてもすぐに逆行されてしまいます。

相場参加者が仮に 100 人いる場合、80 人以上が同じ場所に水平線を引くならみんなが「ここで反転するだろう」と判断するので、エントリーや決済注文が入りやすくなり、反転するわけです。

(2) 環境認識やエントリーポイントの決定、損切位置の決定、利確位置の決定

水平線が引ける場所は、ローソク足が止まりやすいので、それを利用して環境認識やエントリーポイント、損切位置、利確位置の決定ができます。

オールマイティですね！

水平線を引いてみよう

水平線とはどういうものかイメージしやすいように、まずどの通貨ペアでも良いので、実際に私と一緒に引いてみましょう。

では、MT4の日足チャートを表示してみてください。（MT5でもOKです）
「D1」が日足ですので、それをクリックします。



そうすると、日足チャートが表示されますので、画面いっぱいに1枚だけチャートを大きくしましょう。

(下の画像は、ポンド円の日足チャートです)



では早速この状態で、どういう道のりを経て現在地（現在レート）にいるのかを指でなぞってみましょう。



下の画像の場合、指でなぞるとオレンジ線のようになりますね。



ヒゲがある場合は、ヒゲもしっかりとなぞりましょう。
ヒゲの中で、売ったり買った人がいることを忘れてはいけません。

そうすると、ローソク足の動きは

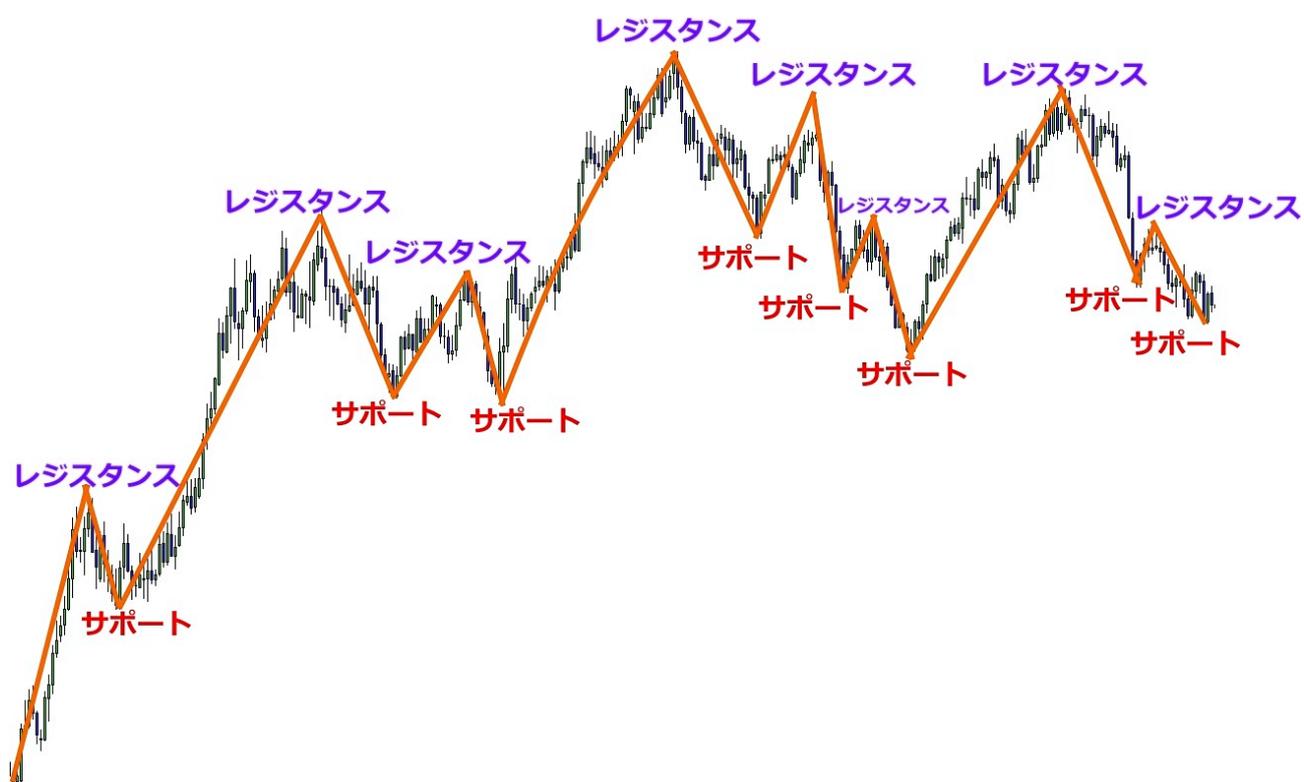
上昇して「止まる」
下降して「止まる」
を繰り返しているのが分かります。



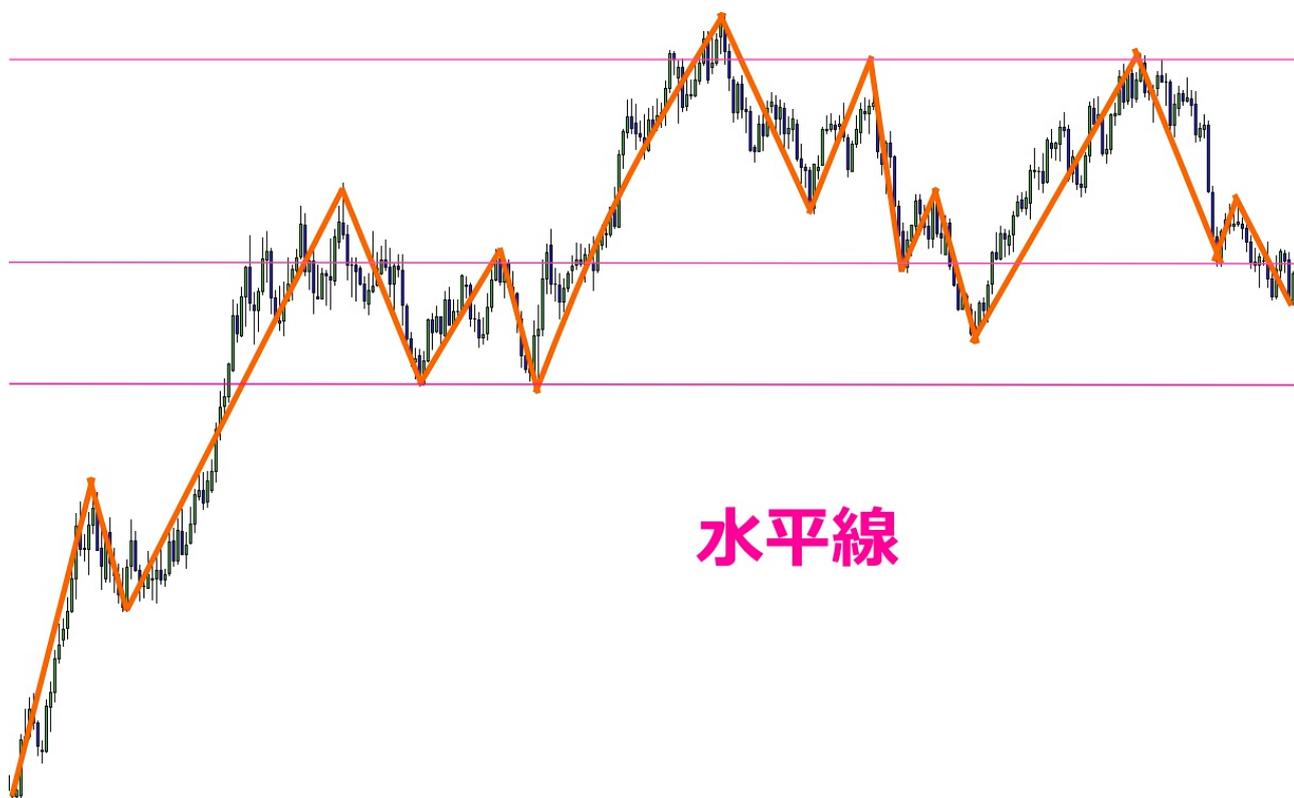
この「止まる」の部分をFXでは「反発する」といい、下から上昇をしてきて上げ止まった箇所を「レジスタンス」、上から下降してきて下げ止まった箇所を「サポート」と言います。

- 下から上昇をしてきて上げ止まった箇所→「レジスタンス」
- 上から下降してきて下げ止まった箇所→「サポート」

下のチャートでは、赤色部分がサポート、紫色部分がレジスタンスになります。



この「サポート」や「レジスタンス」が同じレート上に2か所以上ある所に横線を引いたものを水平線といいます。

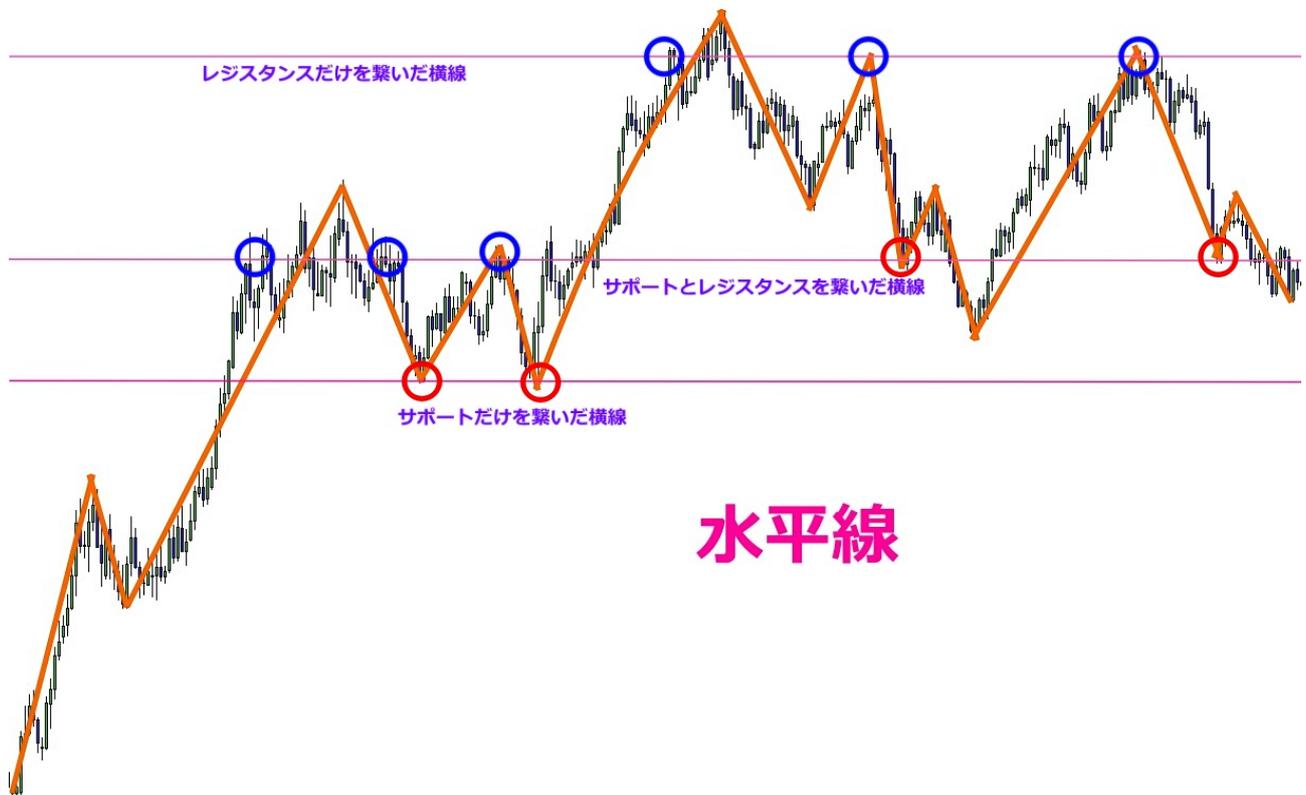


上のチャートの3本の横線のことを「水平線」と呼びます。

組み合わせは、

- ①サポートだけを繋いだもの
- ②レジスタンスだけを繋いだもの
- ③サポートとレジスタンスを繋いだもの

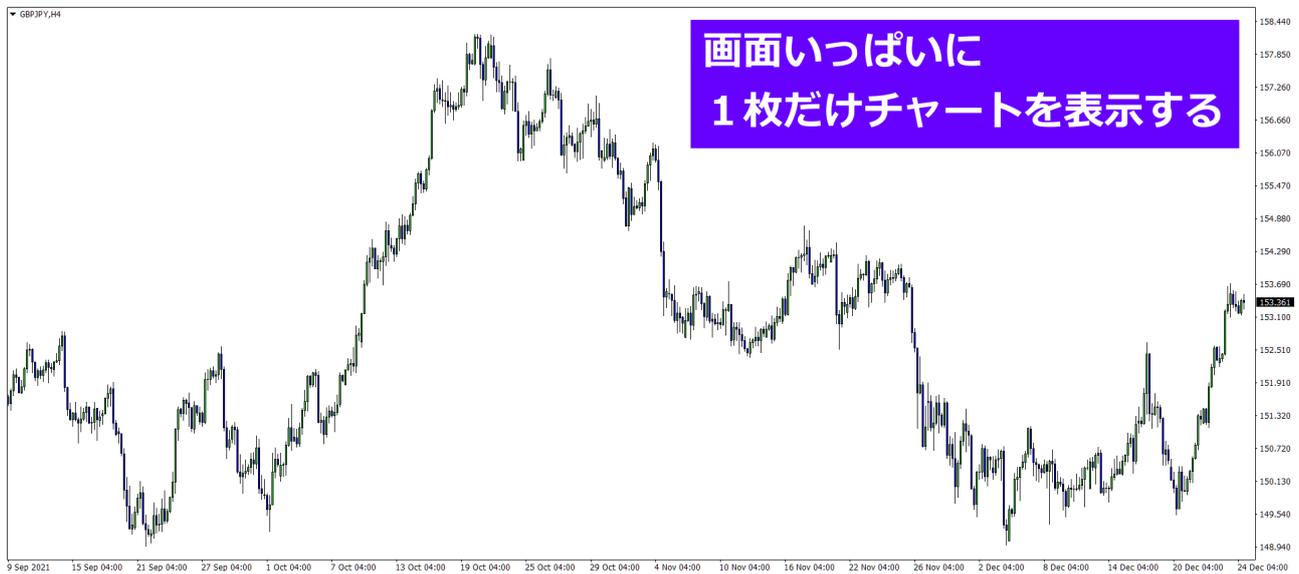
の3種類ありますが、いずれも水平線です。



水平線の正しい引き方

水平線とはどういうものか分かりましたね。

そうしたら次のステップ「水平線の引き方」をマスターしましょう。
まずチャートを1つの時間足だけ表示します。



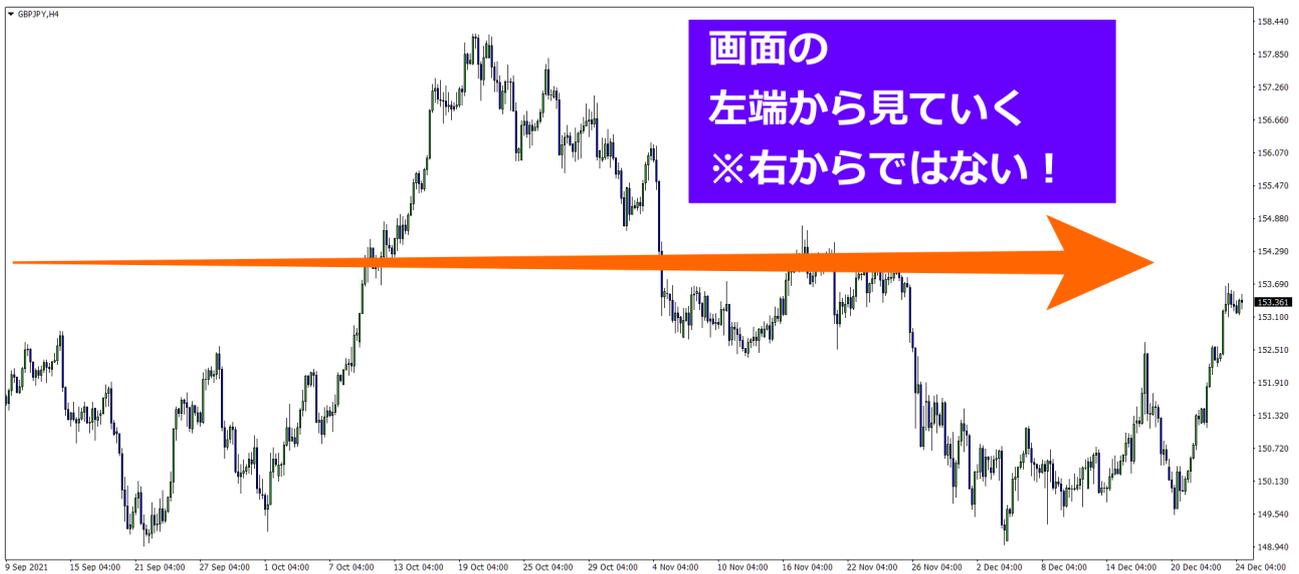
次に、現在レートが右端ギリギリになるようにします。



MT4 の下の赤枠で囲ったアイコンを数回押すと、チャートが左右に動いて現在レートが右端ギリギリになります。



ここまで整いましたら、反発している箇所を水平線を引いていきます。
見る順番は、チャートの左端からです。



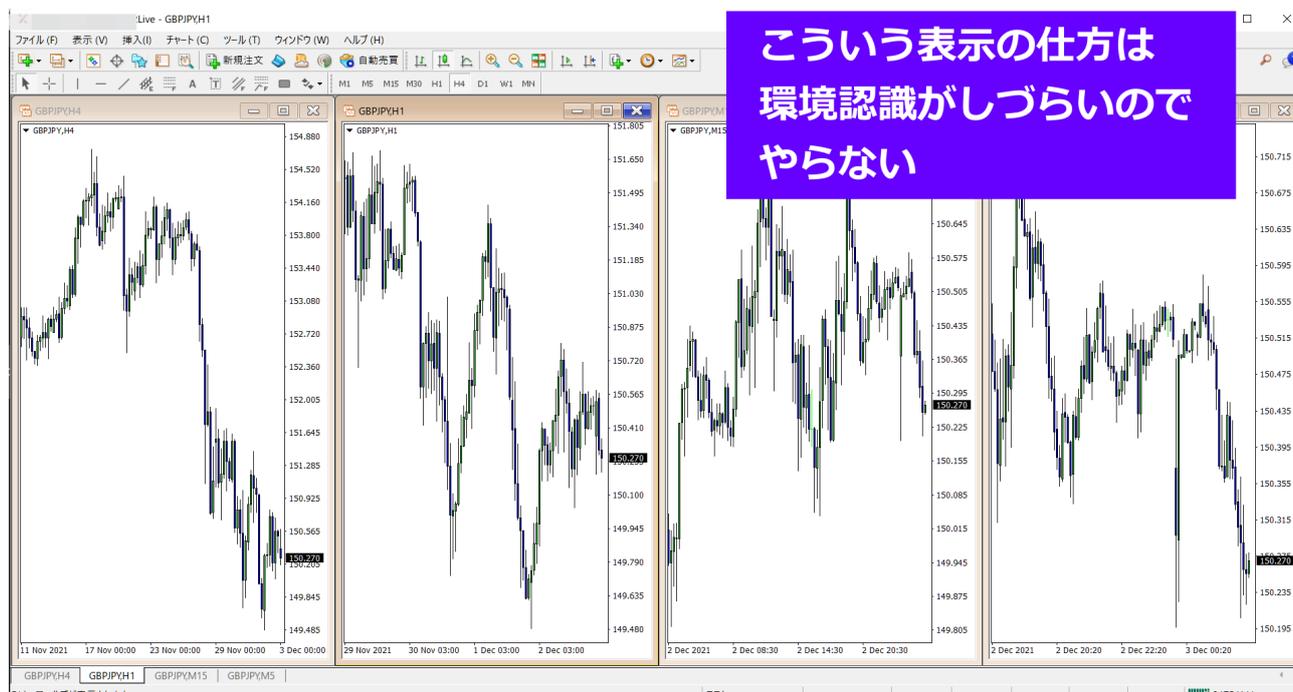
あとは、ローソク足が反発している箇所に引いていきます。



横線を描画するには下のアイコンを押してから、引きたい箇所の上で左クリックをすると横線が表示されます。



ここでのポイントは、複数の時間足や複数の通貨ペアのチャートを同時に表示しないようにします。



水平線だらけ？

2回同じレートで反発したら水平線は引けます。

相場にもよりますが、水平線は引こうと思えば色々な箇所に引けます。
実はこれがトレードで勝ちにくくしている原因になっている場合があります。

「ここも引ける」

「あっここも引ける」

「ここにも?!」

と、何本も引いてしまうと、水平線だらけになりチャートが見づらくなってしまいます。

水平線と一緒に、トレンドラインやMAなどを表示する方もいらっしゃると思いますが、
そうするとさらに、チャートがごちゃごちゃになってしまいますね。

相場を見やすくするために引いた水平線が
逆に相場を見づらくしている、なんてことになりかねませんので、

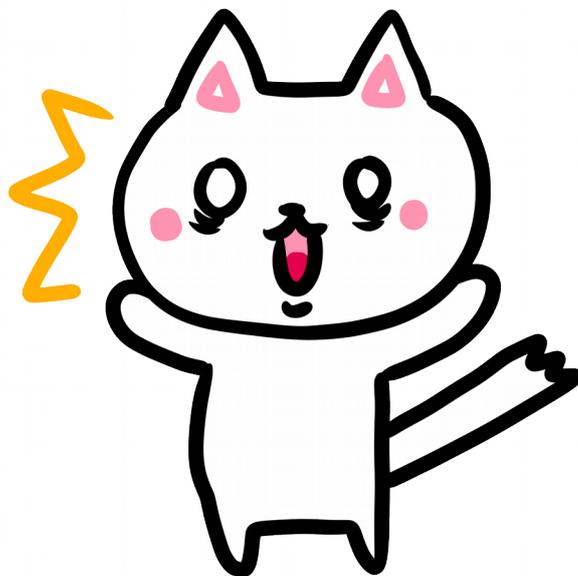
水平線は引ける場所全てに引くのではなく
効く水平線だけを数本引くようにしましょう。

例えば、下のチャートは悪い水平線の引き方の例です。



1つのチャートに12本も引かれています。

水平線があるとローソク足が反発されやすいので、こんなに引かれていると、エントリーしようと思ってもすぐに反発されそうで躊躇してしまいますね。



効く水平線を引くコツ

やみくもに水平線を引いてはいけないのが、お分かりいただけたと思います。

次に、効く水平線を引くコツについてお伝えしますね。
それは、下のような事を意識して引くことです。

■効く水平線を引く12つのコツ

- (1) 過去に何度も反発している場所に引く
- (2) サポートとレジスタンスの両方が効いている場所に引く
- (3) 損切注文が溜まっていそうな場所に引く
- (4) レンジの真ん中には引かない
- (5) 1時間足、4時間足、日足、週足で引く
- (6) 1つのチャートに3～4本引く
- (7) 現在レートの上に1本、下に1本引く
- (8) 3回以上反発を見つける
- (9) ラインが引ける場所と他の根拠と重なっている
- (10) 長期の流れと同じ方向
- (11) マイナー通貨ペアとメジャー通貨ペア
- (12) 影響力の大きな指標

1つずつ

解説していきますね。

水平線を引くコツ（1）過去に何度も反発している場所に引く

反発すればするほど、段々とそのレートを意識するトレーダーが増えていきます。

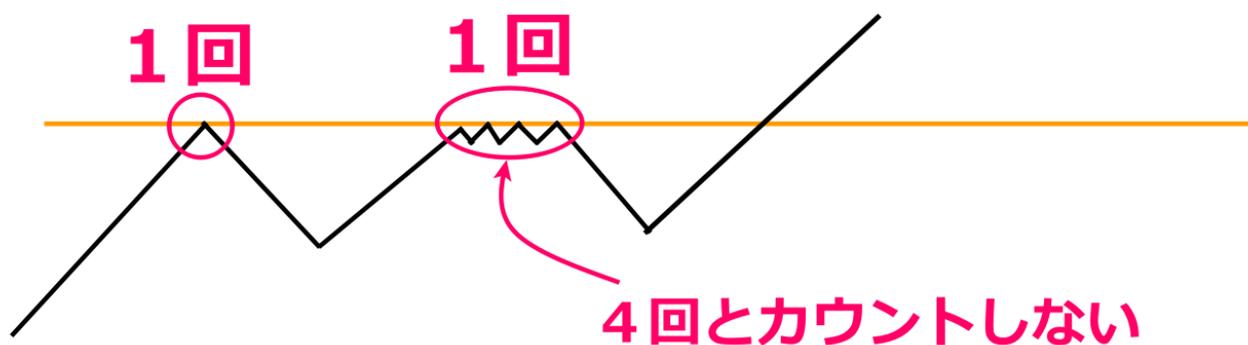
1回目の反発はまだラインが引けず、2回目の反発では、水平線としての認識が市場参加者の中でも弱く、3回目から意識されやすくなります。

何度も同じレートで反発している箇所があれば、今度そのレートに到達した時に反発する可能性が高くなりますので、そういったレートにはしっかりと水平線を引いておきましょう。

反発のカウント方法

水平線での反発カウントの仕方としては、ピンポイントで反発した場合は1回とカウントします。

そして、短時間で何回も反発した場合はそれらをまとめて1回とカウントする場合があります。



上の画像の場合、2回目の反発は小さく4回反発していますね。
こういう場合は、4回と数える場合もありますが、今回のように、水平線の反発回数から抜けるタイミングを見る場合、まとめて1回のカウントとします。

水平線を引くコツ（２）サポートとレジスタンスの両方が効いている場所に引く

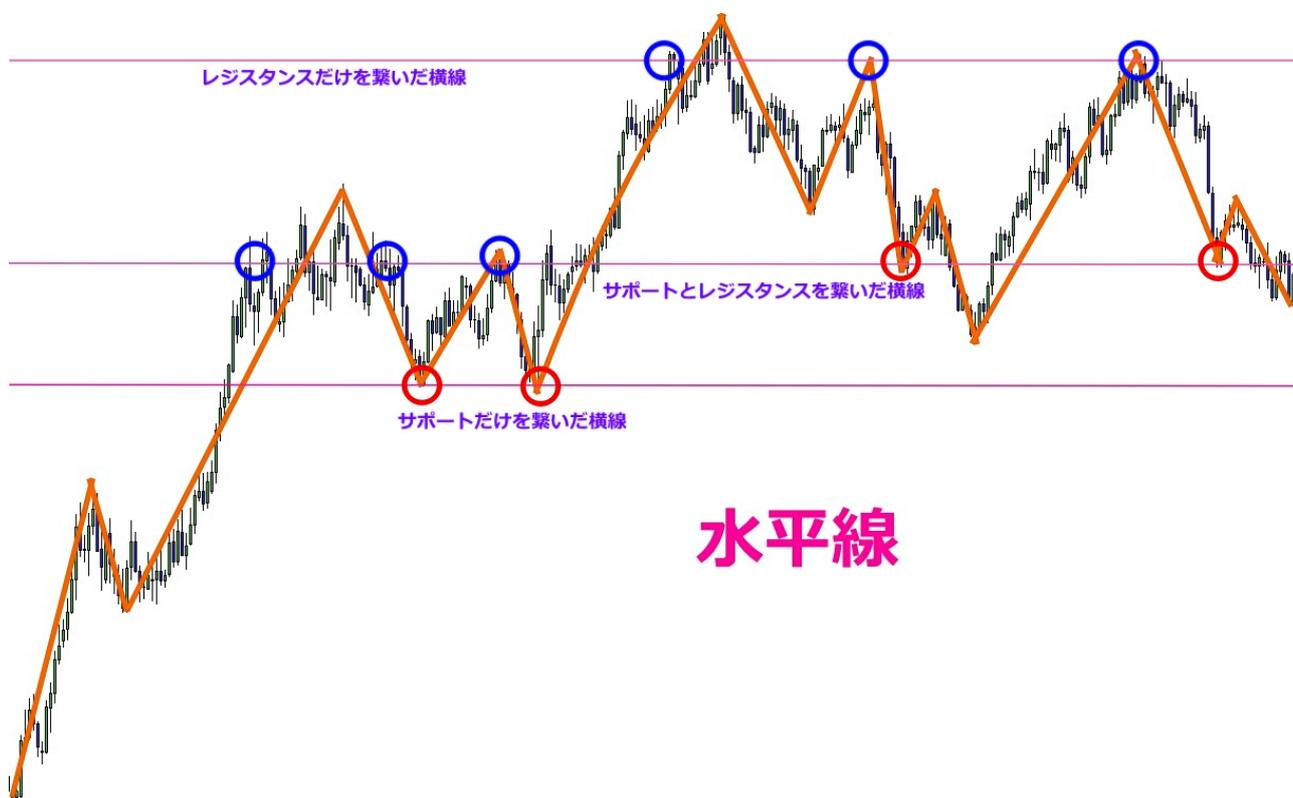
サポートだけしか反発していない場合や、レジスタンスだけしか反発していない場合でも、水平線として引くことはできますが、そういった水平線はたとえ反発している回数が多くても効く水平線とは言えない場合があります。

どんな場合かと言うと、例えばサポートだけしか反発していない水平線は、レジスタンスとしては機能しないことがありますし、レジスタンスだけしか反発していない水平線は、サポートとしては機能しないことがあります。

強い水平線を引きたいなら、上から落ちて来た時にも反発していて、下から上がってきた時にも反発しているようなレートに引くようにしましょう。

「サポレジライン」や「レジサポライン」、「サポートレジスタンス」などと呼びます。

つまり、下のチャートの真ん中の「サポートとレジスタンスを繋いだ横線」が効きやすい水平線です。



1番上と1番下の「レジスタンスだけを繋いだ横線」や「サポートだけを繋いだ横線」も効いていますが、精度は真ん中の「サポートとレジスタンスを繋いだ横線」よりも低いと考えて下さい。

水平線を引くコツ（3）損切注文が溜まっていそうな場所に引く

損切注文が溜まっている場所に水平線が引けると、結構な確率で跳ね返されます。

これを見分ける簡単な方法があります。

チャートで見てみましょう。

現在レートが右端ギリギリになるようにしてから



現在、

「もし自分が買いエントリー中なら、ここに損切注文を設定するだろう」

「もし自分が売りエントリー中なら、ここに損切注文を設定するだろう」

という場所に水平線を引いてみてください。

その後、今引いた水平線は、過去に何度か反発している箇所があるか確認してみてください。

もし何度か反発しているなら、あなたが引いたその水平線はその後効く可能性があります。

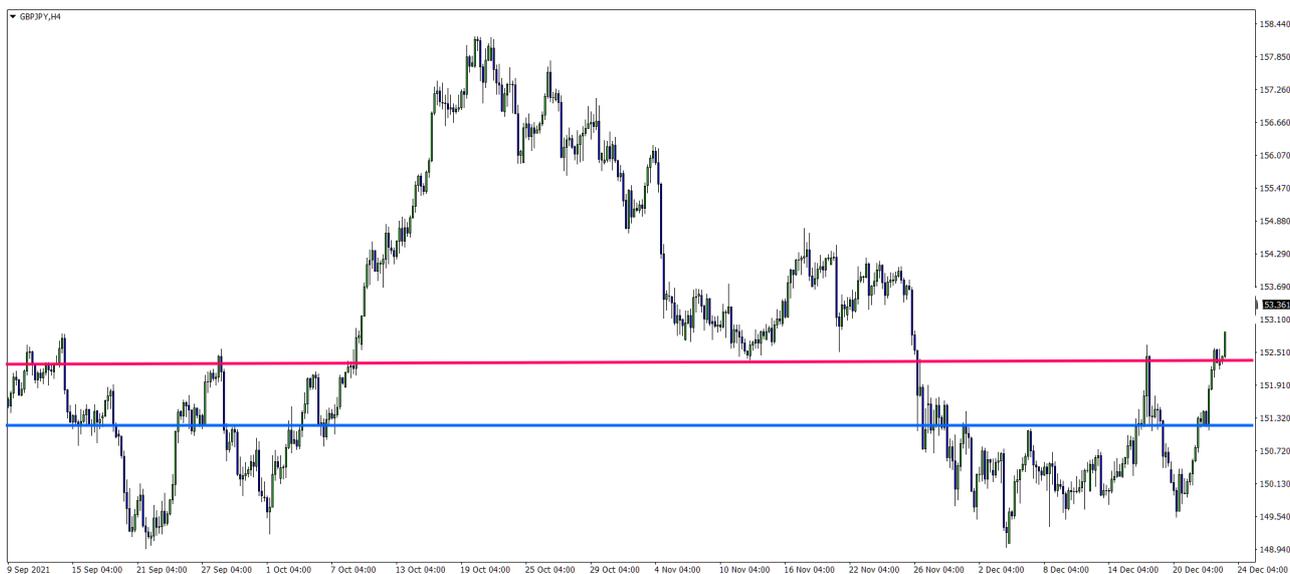
例えば、下のチャートのAの場所であなたが買いエントリーを入れたとすると、どこに損切注文を入れますか？



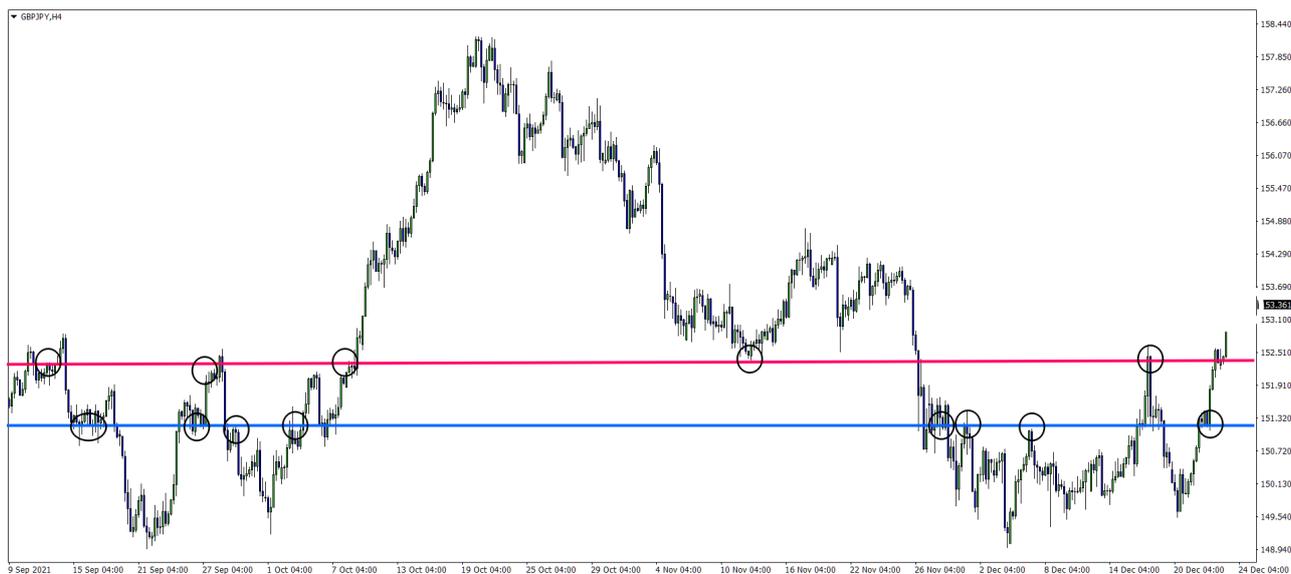
ダウ理論を理解しているならおそらく赤線か、
もしくは、損切位置が近すぎると思うなら青線に入れるのではないのでしょうか？



赤線と青線の線をもうすこし横に延ばして水平線を引いてみると
下のようになりました。



では、先ほどの手順どおりに
今引いた水平線は、過去に何度か反発している箇所があるか確認してみましょう。



反発している箇所に丸で囲んでみました。
こうやって見てみると、赤の水平線も青の水平線も過去に複数回、反発していますね。

このことから、どちらの水平線も効く水平線ということが分かります。

つまり、この後ローソク足が下落した時に、赤い水平線や青色の水平線の所まで到達する
としたら、反発して上昇しやすいということになります。

そのため、この2本はこのまま引いたままにしておき、次にローソク足が到達したら買い
エントリーなどを狙うことができます。

損切注文が溜まりやすいポイントとして、他にもあります。
覚える事たくさんですが、載せておきますね。

下の3点も注目してください。

- ・ダブルトップやダブルボトムネックライン
- ・分かりやすい高値や安値
- ・レンジの上限と下限
- ・押し安値と戻り高値



注目!

・ダブルトップやダブルボトムのネックライン

先ほどの赤の水平線は実は
「ダブルトップのネックライン」です。

もう一度チャートをご覧ください。



どうでしょうか？

大きなダブルトップがあったのですが、あなたは、気付きましたか？

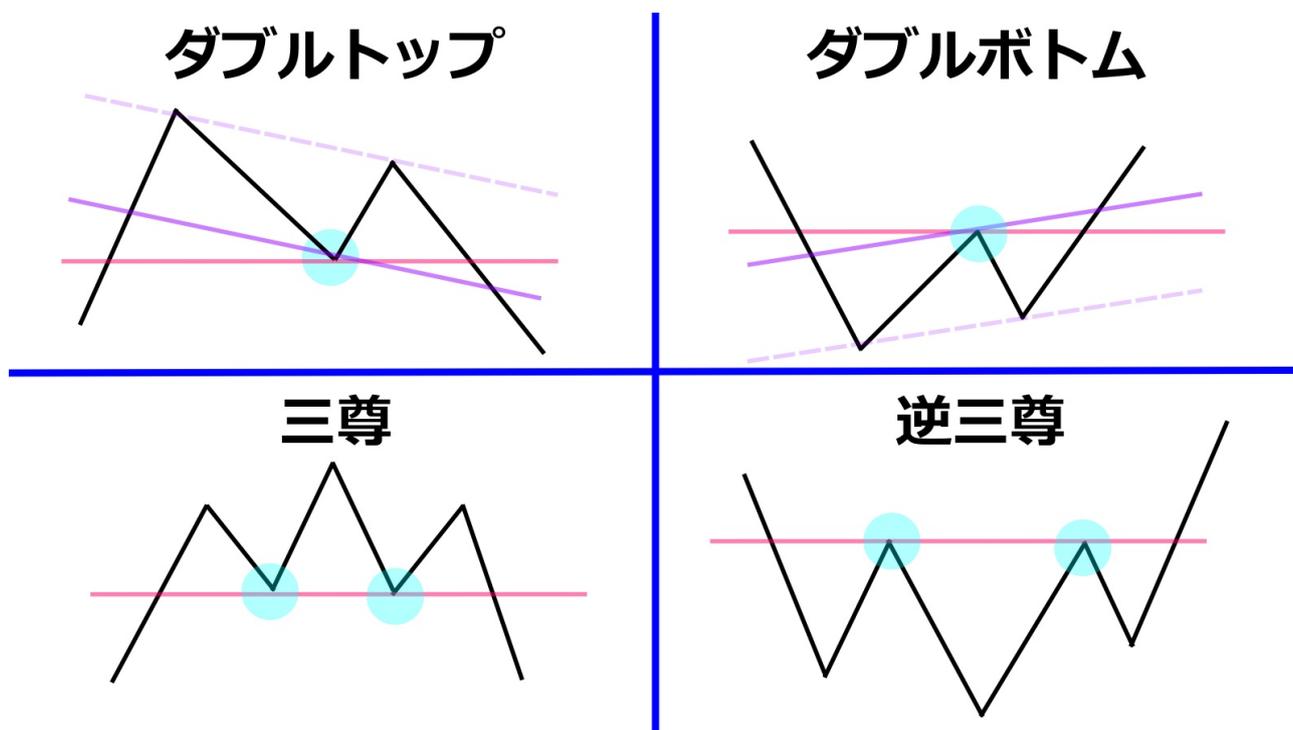
赤の水平線はこのダブルトップのネックラインと合致します。

ネックラインは、

- ・ダブルトップ
- ・ダブルボトム
- ・三尊
- ・逆三尊

この4種類のチャートパターンで出現し、下の画像の、「紫の実線ライン」と「ピンクライン」がそれにあたります。

※紫の破線はネックラインの角度を取るためのラインです。



ネックラインの引き方は2種類あります。

まず、凹凸部分（水色の丸）に真横にラインを引いたものが「ピンク色のネックライン」です。

もう1つ「紫色のネックライン」がありますね。

これは、ダブルトップなら高値同士、ダブルボトムなら安値同士を結んだ破線の平行ラインを同じく凹凸部分（水色の丸）に当てたラインが紫のネックラインになります。

紫色のネックラインの引き方を知らない方も多いですが、こちらにもトレードに使える大事なネックラインですので一緒に覚えておきましょう。

・ 分かりやすい高値や安値

「分かりやすい高値や安値」は、先程のチャートですと以下のような場所です。



分かりやすい高値



分かりやすい安値

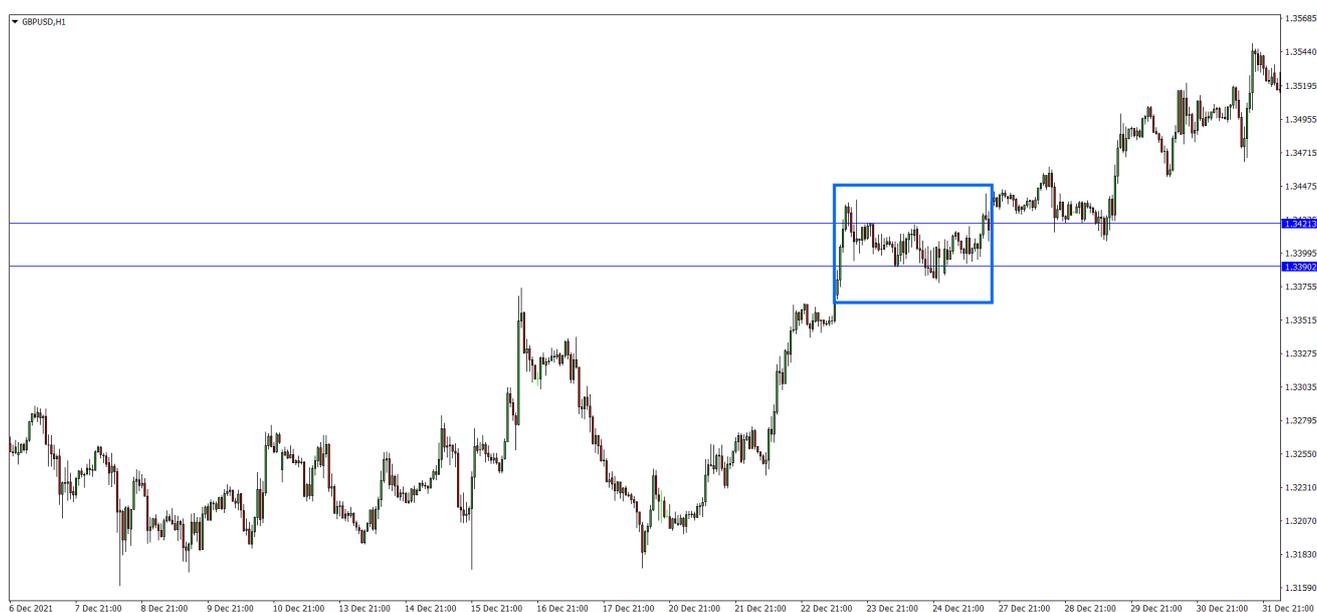
誰が見ても分かる安値と高値ですね。

こういうラインは、多くの参加者が意識しますので引いておくのも良いでしょう。

・レンジの上限と下限

そしてレンジにはいくつか種類がありますが、上下の高値と安値が揃っていて一定の幅で繰り返しローソク足が動いている、いわゆるボックスレンジが出現した場合はチャンスです。

この場合、レンジの上限と下限に引いた水平線は、この後効きやすくなりますので見つけたら必ず引くようにしましょう。



レンジの上限と下限に引いた2本の水平線

水平線を引くコツ（４）レンジの真ん中には引かない

レンジ相場で気を付けることは、レンジの真ん中に水平線を引かないことです。



レンジの上限と下限に青の水平線、真ん中に紫の水平線を引いたチャート

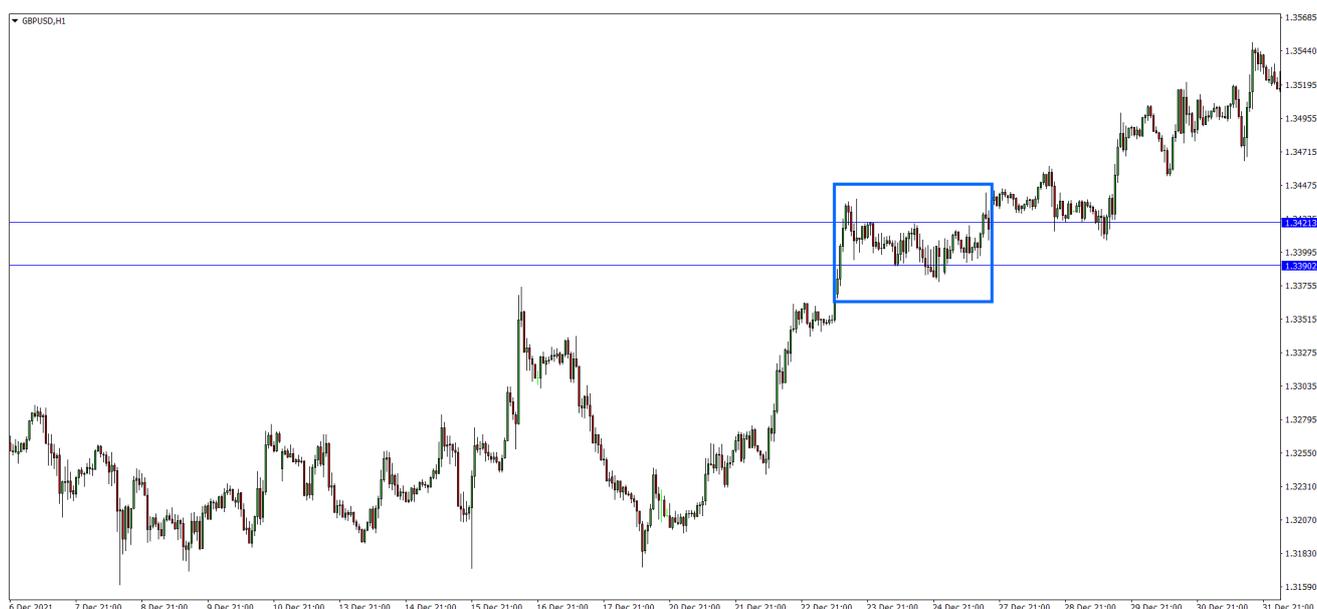
レンジの種類によっては、ちょうど真ん中あたりに綺麗に水平線が引けることがあります
が、我慢して上限と下限の2本のみ、引きます。

理由は簡単です。

この後「エントリーのやり方」について学んでいきますが、それを習得すると、水平線が引いてあると、そこでエントリーしたくなってしまいますからです。

しかし、相場の原理原則の観点からレンジの真ん中から売りエントリーや買いエントリーをすると負けやすくなりますので、初めからレンジの真ん中には水平線を引かないと決めておくのが得策です。

これだけでも負けトレードが激減するので、必ず徹底するようにしてください。



レンジの上限と下限だけに青の水平線を引いたチャート

上のチャートのように、レンジの場合は上限と下限に1本ずつ引くのが正解です。

・押し安値と戻り高値

トレンドが出ている時の押し安値と戻り高値の下には損切注文がたくさん溜まっています。

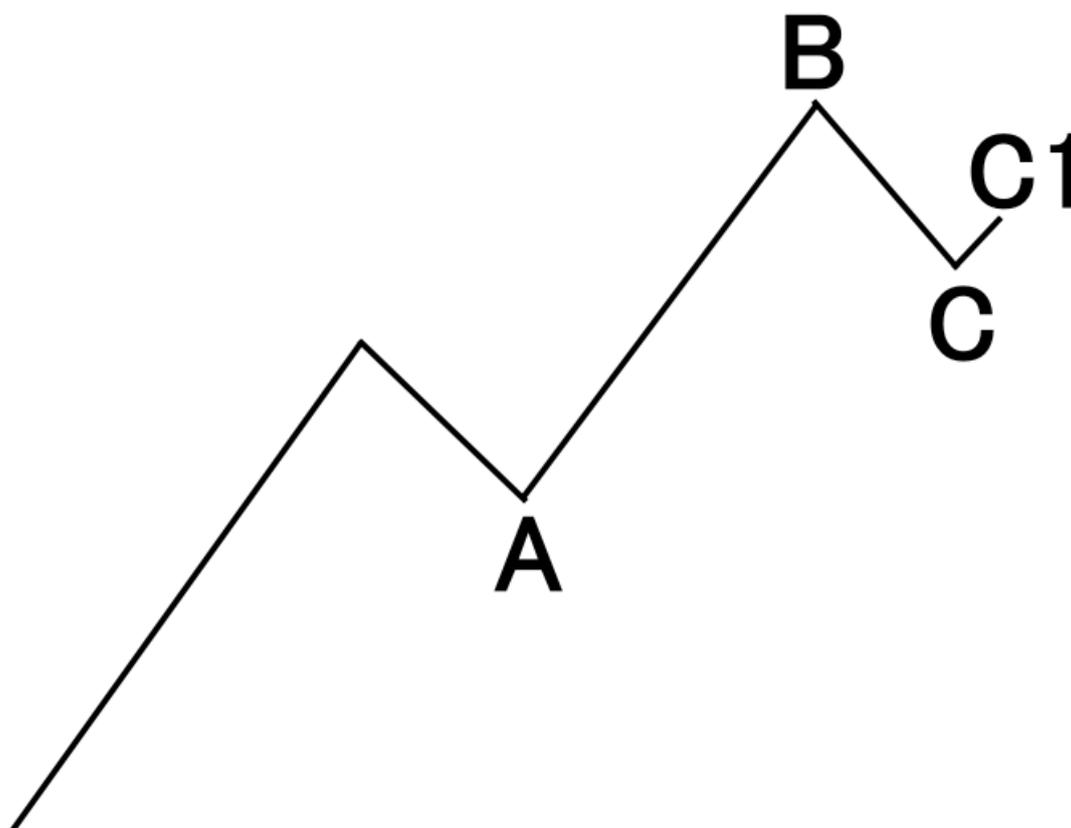
分かりやすいように、図で解説します。

下の図はアップトレンドを形成中の相場です。

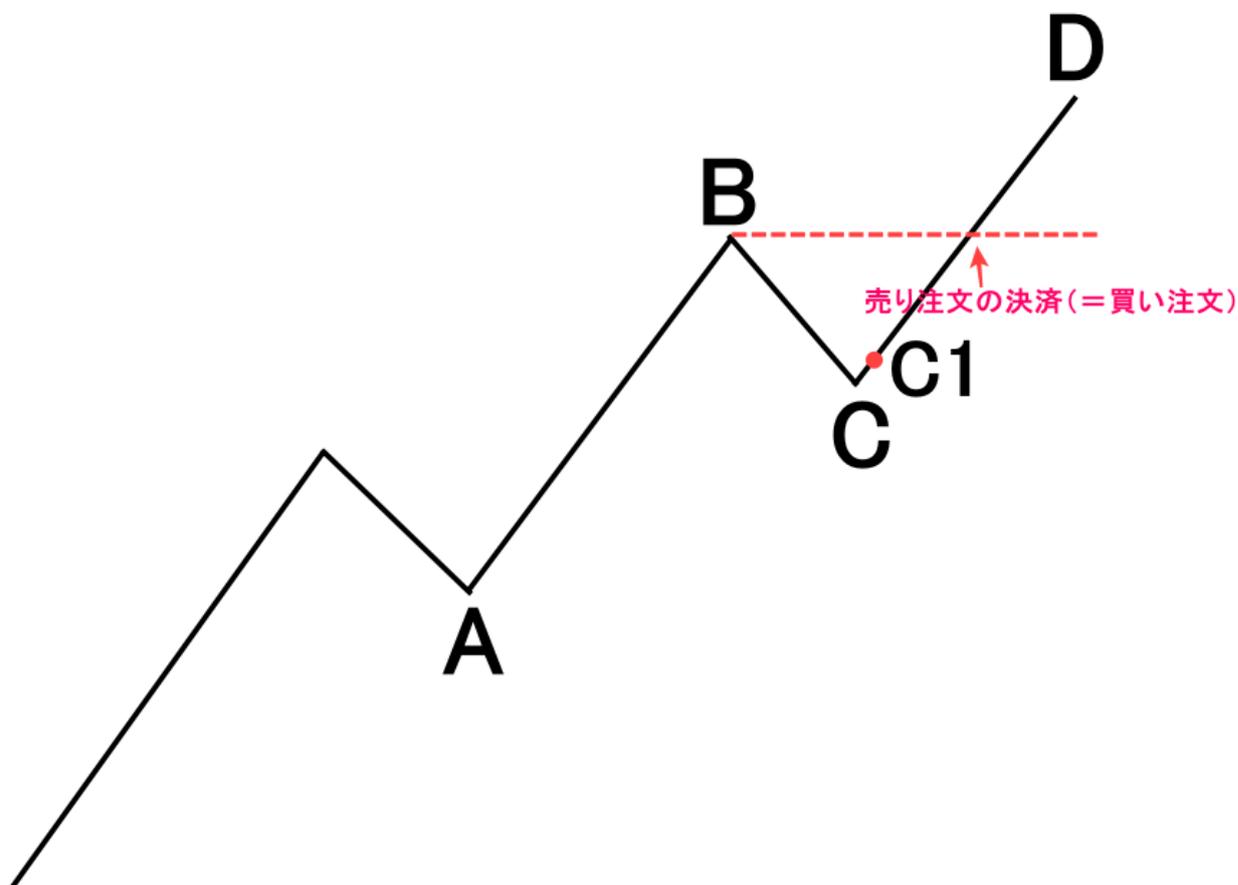
Bより下で買いエントリーをした人は含み益が出ていますね。

Bまでにエントリーできなかったトレーダー達も、Cまで少し落ちて来たので、「押し目になりそうだな。今度こそ買おう！」ということで、少し上がったC1で新規の買いエントリーをします。

C1で買い注文をした人達は損切注文をCの少し下に入れます。



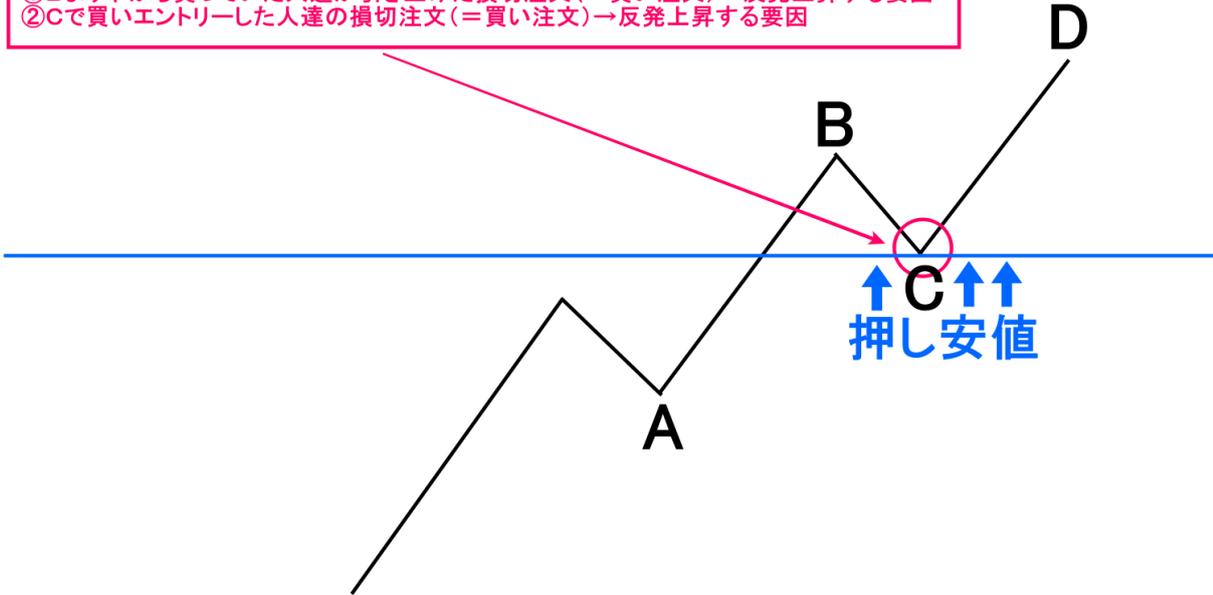
これらの買い注文によってレートはさらに、Bを超えて行き、Bのあたりで逆張りの売りエントリーをした人達の損切注文の決済（つまりは、買い注文）も追加され、グングンとDまで上昇しました。



この時点で、Bより下から買いエントリーをしていた人達は損切位置をCの少し下にズラします。

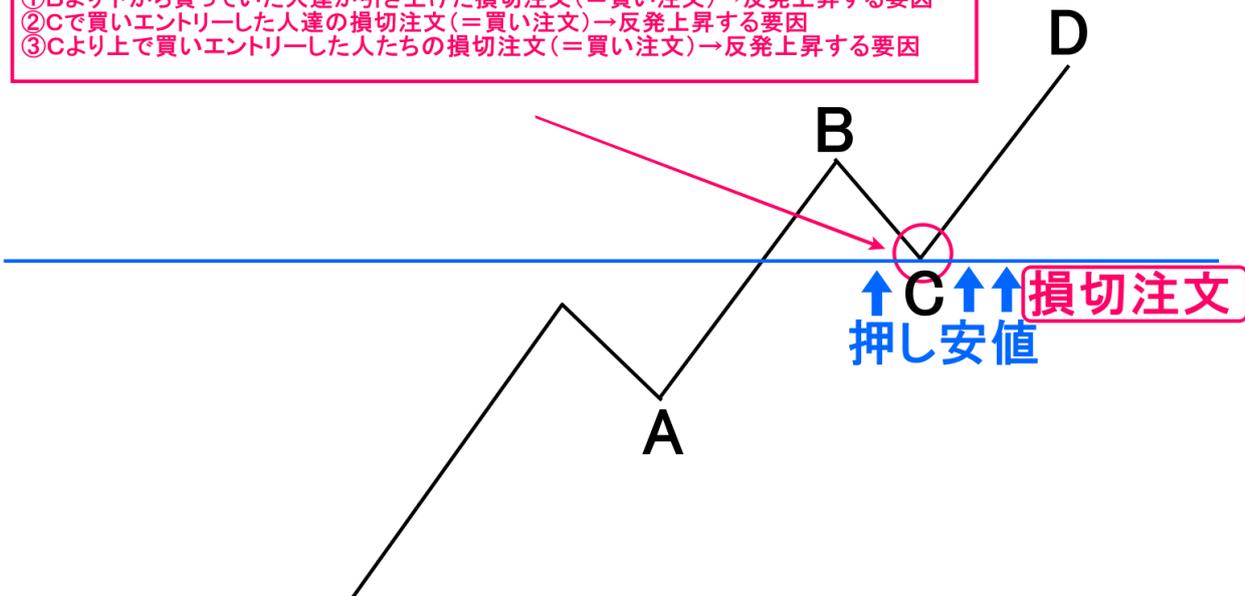
つまり、この時点で **Cには2種類の損切注文が集中しています。**

- ①Bより下から買っていた人達が引き上げた損切注文(=買い注文)→反発上昇する要因
- ②Cで買いエントリーした人達の損切注文(=買い注文)→反発上昇する要因



さらに、Cより上で買いエントリーをした人の損切位置はどこでしょうか？
 例えばDで買った人の損切位置はどこかという、やはり直近安値のCの少し下ですね。

- ①Bより下から買っていた人達が引き上げた損切注文(=買い注文)→反発上昇する要因
- ②Cで買いエントリーした人達の損切注文(=買い注文)→反発上昇する要因
- ③Cより上で買いエントリーした人たちの損切注文(=買い注文)→反発上昇する要因



この状態でCまでローソク足が落ちて来た場合、①と②と③の3種類の損切注文が決済されるので、買い注文が入り、ローソク足は上昇するということです。

これらの流れが分かったあなたは、この損切が溜まっているCに水平線を引いておき、大量の損切が決済されるココから、便乗して新規で買い注文を入れれば良いのです。

Cというのは、**押し安値**です。

この現象は、高値を更新する度に続きますし、

これはダウントレンドでも同じで、その場合のCの役目は**戻り高値**です。

そして、押し安値と戻り高値はダウ理論の定義で、**抜けてしまうとトレンドが崩れるポイントなため、多くのトレーダーが注目しているレート**です。

この理由からも、押し安値や戻り高値は反発しやすいので水平線を引くには最適です。

水平線を引くコツ（5）1時間足、4時間足、日足、週足で引く

水平線は大きな時間足で引いた方が多くのトレーダーが引く為、意識されやすく、効きやすい水平線になり、トレードで使えば反転ポイントでエントリーすることもできます。

一方、1分足に水平線を引くトレーダーは少ない為、せっかく引いても反発しないことも多く、トレードで使うと負ける原因になりますし、「だまし」にあうことも多いです。

例えば日足は、スキャルピング、デイトレード、スイングトレードをする全ての人達が見ています。

これはお分かりですね。

そして4時間足も同様に、スキャルパー、デイトレーダー、スインガーの人達は見ています。

しかし、30分足となると、スインガーは見ていないことが多いです。

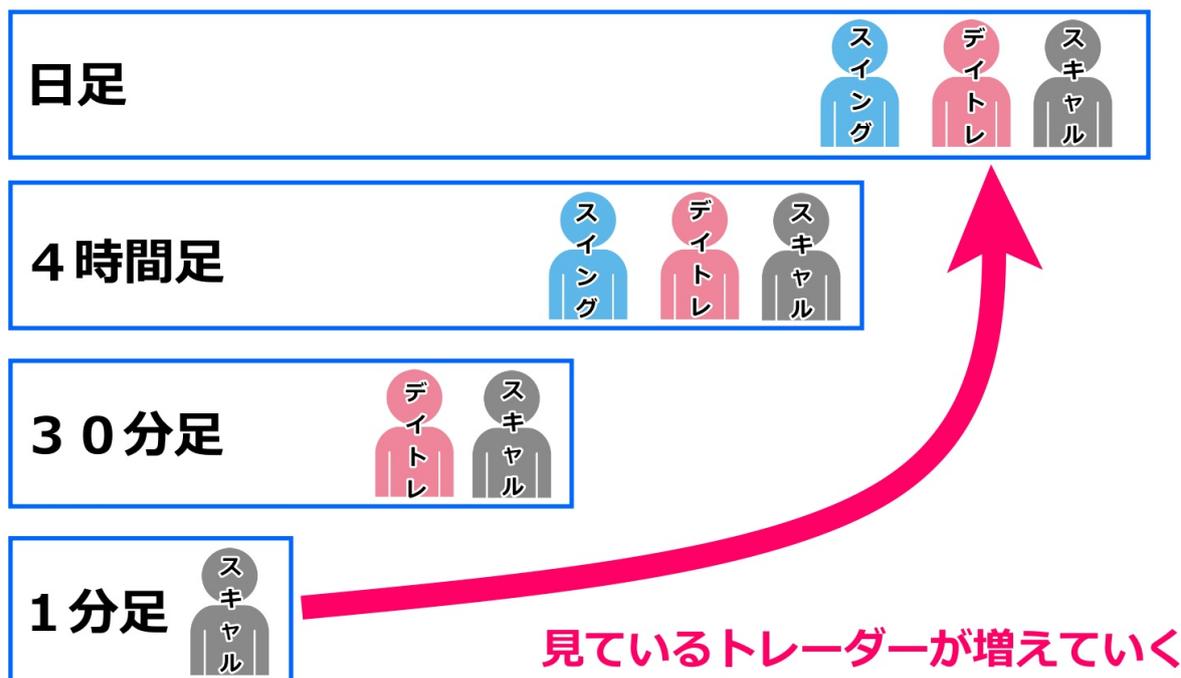
理由は、もっと大きな規模でトレードをしているからです。

そして1分足はというと、デイトレーダーもスインガーも見ません。

むしろ、ノイズとすら思っているでしょう。

1分足をしっかり見ているのはスキャルパーだけです。

図に表すと下のようになります。



このように大きな足ほど、多くのトレーダーがみており、小さな足へ行くほど意識しているトレーダーがいなくなりますので、当然大きな時間足に引いた水平線の方が効くということになります。

小さな時間足に引きたい場合は引いても構いませんが、それだけでトレード判断するのではなく、必ず、1時間足や4時間足、日足、週足にも引くようにしましょう。

※1時間足、4時間足、日足、週足の4つの全てのチャートに引く必要はありません。

私は、1時間足や日足でよく水平線を引いています。

水平線を引くコツ（6） 1つのチャートに3～4本引く

水平線を引く目安の本数は、1つのチャートに3～4本です。
これ以上引くと、チャートが見つらくなりますのでおススメできません。

現在レートから、かけ離れた箇所に水平線を引く方もいらっしゃいますが、それを見るたびに

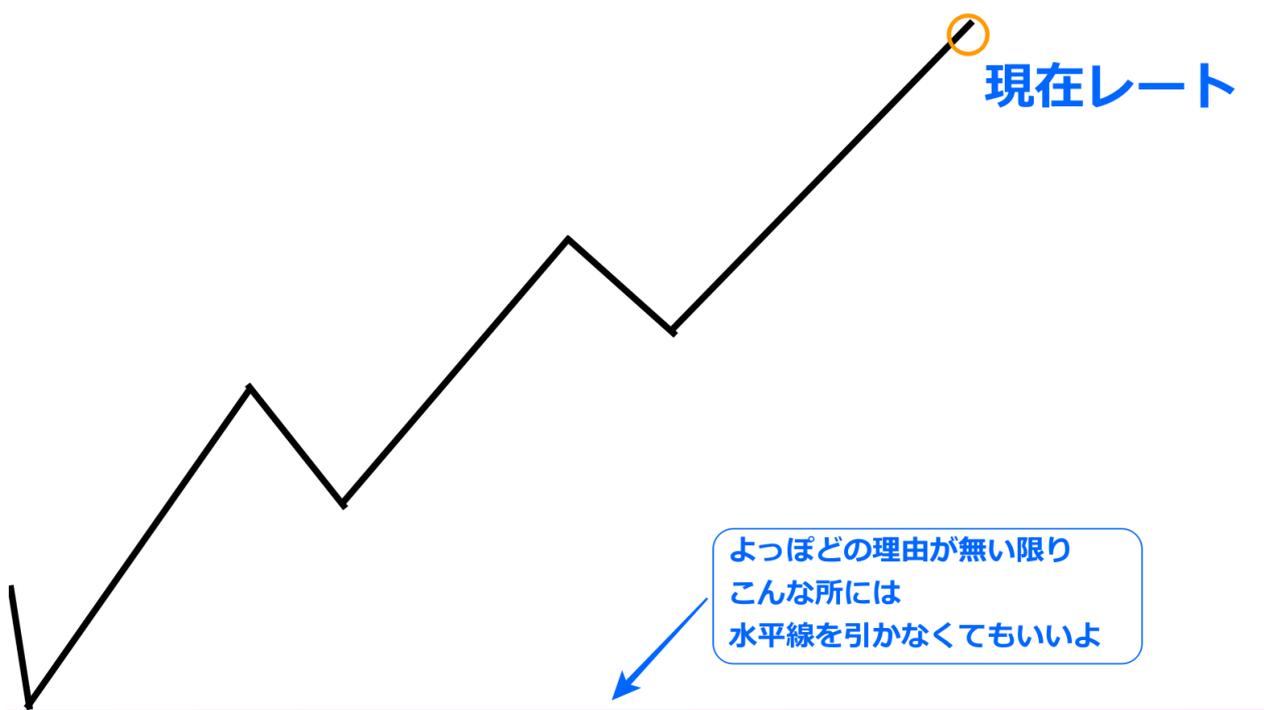
「そこ、必要あるかな？」

「そこに到達するまであとどのくらいかかるかな？」

って聞くとみなさん、無言になります。

水平線を引く目的は、トレードをするためです。

「水平線が引けるから、どこでも引く」ではありません。



水平線を引くコツ（7） 現在レートの上に1本、下に1本引く

では、たくさん引けてしまった水平線のどれを残して、どれを消すべきか？
についてですが

まず、レートが上昇する場合のシナリオ用に、現在レートよりも上に1本と、
レートが下降する場合のシナリオ用に、現在レートよりも下に1本の合計2本を引きます。

例として、押し安値や戻り高値、そして直近高値や、直近安値に引くのも良いでしょう。

その他、ダウ理論で考えた場合のトレンドが崩れる場所や、ここはどうしても引いておきたいという場所がある場合は、チャート画面全体に表示される水平線が4本よりも多くな
らない程度に引くことは問題ありません。

ただし、5本以上引くのは、チャートが見づらくなりますのでやめましょう。

先ほどのチャートなら、
このように引くと良いでしょう。



水平線を引くコツ（8）3回反発を見つける

（1）でお伝えしたように、何度も反発しているレートというのは多くのトレーダーから意識されている可能性が高いです。

しかし4回目あたりから、サポート力、レジスタンス力が弱くなっていくのも事実なので、4回目以降、スパッと反発せずに、モジモジと横ばいになるレンジを作るようになったら反発せずに抜ける可能性が高いので、この場合は注意が必要です。

ラインは永遠に効くわけではありません。

必ず、効かなくなるタイミングが訪れます。

上のようなモジモジが現れた場合は、その兆候とみることもできます。

つまり、3回目が1番反発を期待でき、エントリーに最適です。

もちろん、応用として決済としても使えます。

そして4回目以降は抜けやすくなります。

ということで、

水平線を引く時は、「何回反発してるのか」も確認するようにしましょう。

水平線を引くコツ（9）ラインが引ける場所と他の根拠と重なっている

水平線が引ける場所と他の根拠と重なっている場合は、そうではない個所に比べて効きやすくなります。

それは、根拠が重なる場所＝注文が集中する場所だからです。

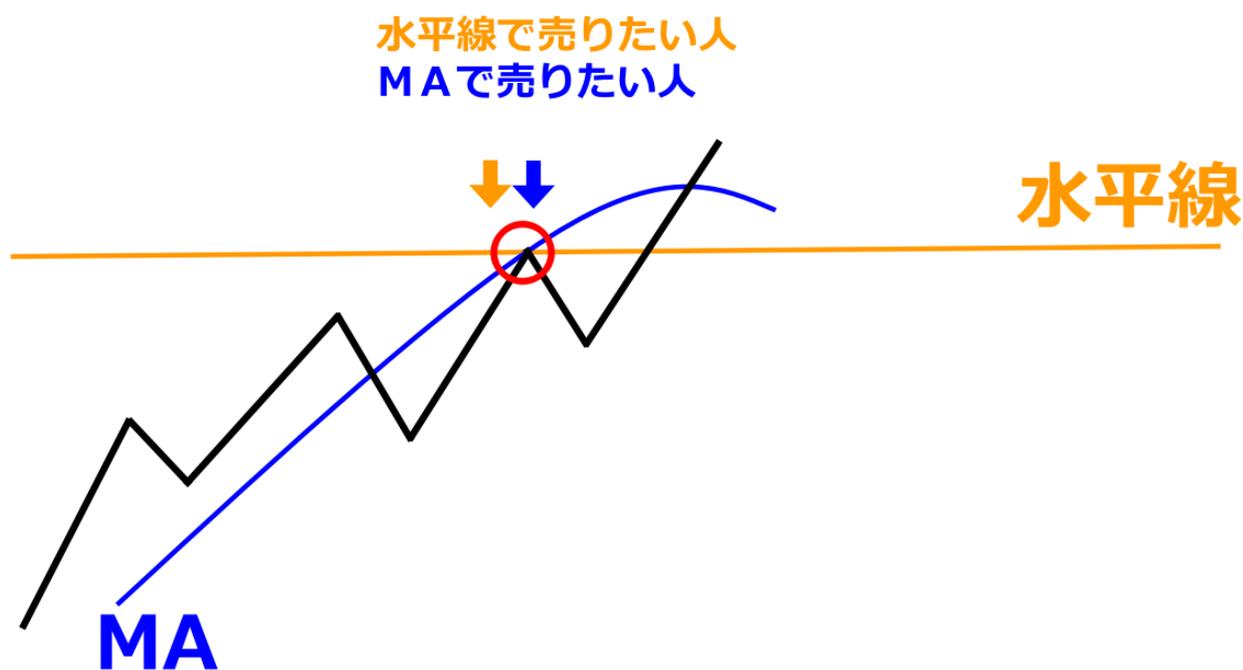
キリ番なども重なると水平線で反発しやすくなりますし、MAが重なる場所やトレンドラインが重なる場所などがそれにあたります。

※キリ番とは、「100円」や「1.4600」など、レートの実尾が「00（ゼロゼロ）」になっているものです。

例えば、下の画像のように水平線とMAが交わる場合を考えてみましょう。

この場合、水平線でトレードしている人達とMAでトレードしている人達の2種類が「ここは売りだな」と思っています。

こういう場所は、通常よりも売りエントリーする人たちがいるわけですから、そのポイントは下落しやすいのがお分かりいただけると思います。



このように、MAなどを絡めて考えると、ローソク足が水平線に到達するタイミングによって、反発する場合と反応せずにそのまま抜けて行ってしまう場合があることもうなづけますね。

水平線を引くコツ (10) 長期の流れと同じ方向

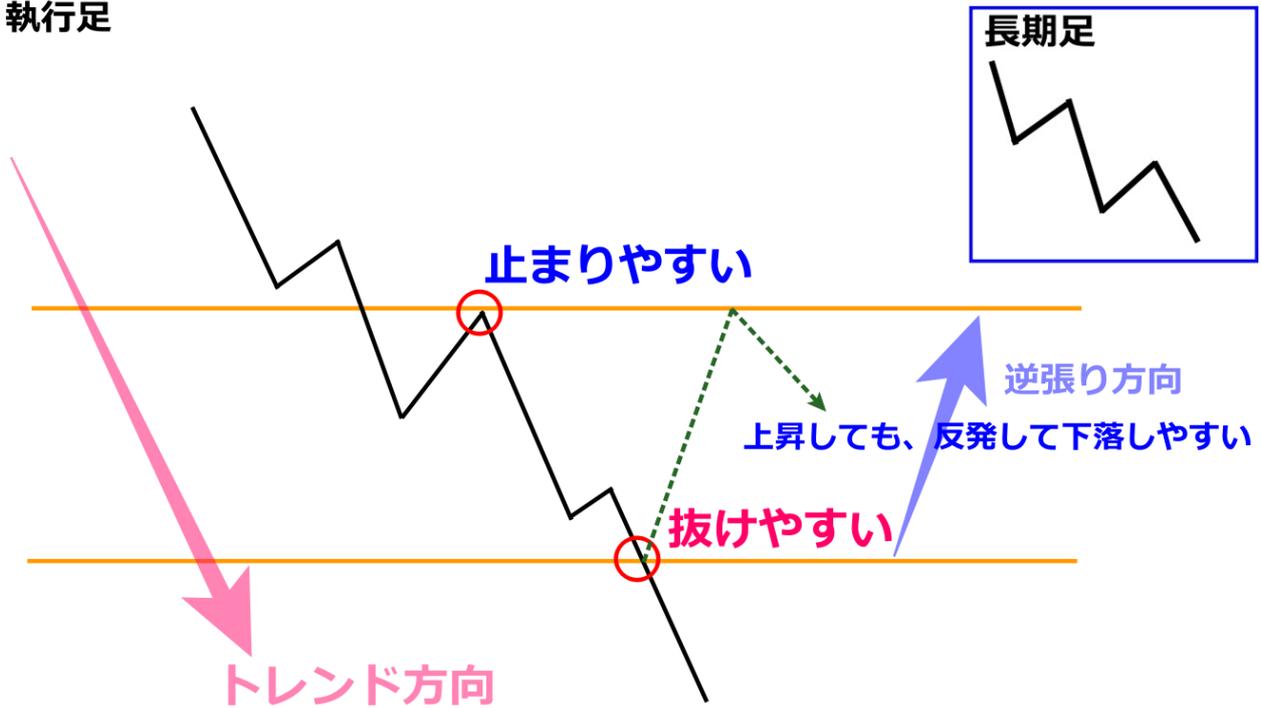
長期のトレンドと同じ方向にトレンドが出ている時に
トレンド方向の先に引いた水平線はより強い流れが出ている為止まりにくく、その逆の時は止まりやすいです。

理由は、前者は逆張りになる形だからです。

これは図を見た方がわかりやすいですね。

例えば1時間足がダウントレンドで5分足もダウントレンドの時は、現在レートよりもすぐ下に引ける水平線は抜けやすく、現在レートよりも上に引ける水平線は反発しやすい傾向にあります。

執行足



2つ以上の時間足チャートのトレンドが同じ場合に、そのトレンド方向に水平線を引くことは問題ありませんが、引く場合は、止まるかどうかいつも以上に慎重に水平線での攻防を見守りましょう。

水平線を引くコツ（1 1）マイナー通貨ペアとメジャー通貨ペア

水平線が効くかどうかは、マイナー通貨ペアとメジャー通貨ペアによっても異なります。

メジャー通貨ペアの場合、多くの参加者がいるため水平線やフィボナッチチャネルやMAなどテクニカルが効きやすくなります。

その反対に、マイナー通貨ペアは、そもそも参加者が少ないわけですからテクニカルが効きにくくなります。

当然、水平線なども反応しないことが多いです。

下にメジャー通貨ペアを載せましたので、参考にしてくださいね。

■メジャー通貨ペア

- ・USDJPY
- ・EURUSD
- ・EURJPY
- ・AUDJPY
- ・AUDUSD
- ・GBPJPY
- ・GBPUSD
- ・CADJPY
- ・USDCAD など

水平線を引くコツ（1 2）影響力の大きな指標

その他、影響力の大きなファンダメンタルズ要因で相場が動いた時は、水平線で止まらないことがしばしばあります。

例えば、以下の場合です。

- ・雇用統計
- ・戦争が起きそうなニュース
- ・戦争が始まった&終わったニュース
- ・アメリカなどの影響力の大きい国の選挙
- ・地震

などです。

こういう場合は、水平線が効かなくなることを念頭に入れながら、スキャルピングなどなるべくポジションを保有している時間（エントリーしてから決済するまでの時間）を短くするようにしましょう。

ファンダメンタルズが原因の急騰・急落が来た場合は、どれだけ効く水平線だったとしてもぶち抜かれてもおかしくありませんので、これを頼りにトレードするのはリスクが大きいということです。

近い値幅で水平線が引ける場合

似たようなレートで水平線が上下に2本引ける時があります。

例えば、ヒゲで引いた水平線とローソク足の実体で引いた水平線など、レートが近い場合があります。

どちらも過去に何度も反発している時は、どちらに引いたら良いか迷ってしまいますね。

そういう場合は、両方引いてゾーンとして捉えましょう。



2本の水平線を引いた後に、真ん中の隙間を「長方形」で色を塗ると上のチャートのようになります。

「長方形」は、MT4の上のメニューバーにあります。



もし見つからない場合は、
「挿入」 - 「図形」 - 「長方形」で色を塗ることができます。



水平線の強弱を捉える

水平線は、大きな時間足で引ける水平線ほど、強いラインになります。
ですので、1時間足よりも4時間足、4時間足よりも日足で引いた水平線の方が反発力が強くなります。

このことを利用して環境認識にも反映させましょう。
一目で分かるように、**強い水平線ほど明るい色や太くします。**

例えば、背景が白色のチャートなら、

- ・ 15分足の水平線→黒色（1番細い線）
- ・ 1時間足の水平線→緑色（2番細い線）
- ・ 4時間足の水平線→水色（2番細い線）
- ・ 日足の水平線→赤色（3番目に細い線）

などです。

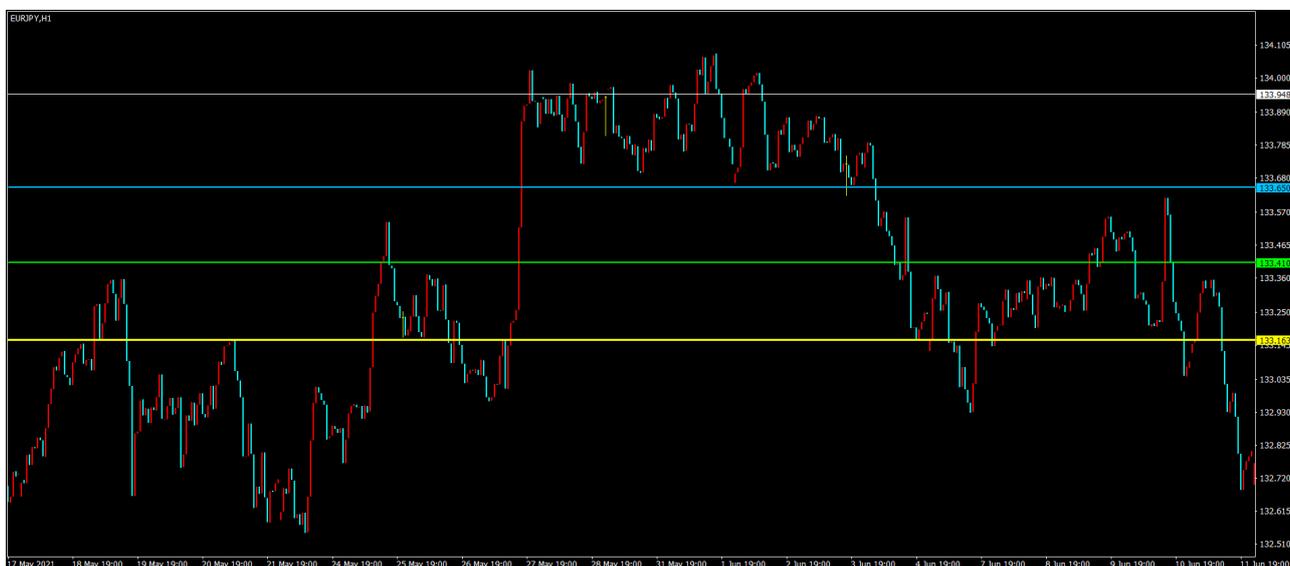


白チャートの水平線サンプル

背景が黒色なら、

- 15分足の水平線→白色（1番細い線）
- 1時間足の水平線→DeepSkyBlue（2番細い線）
- 4時間足の水平線→Lime（2番細い線）
- 日足の水平線→Yellow（3番目に細い線）

などです。



黒チャートの水平線サンプル

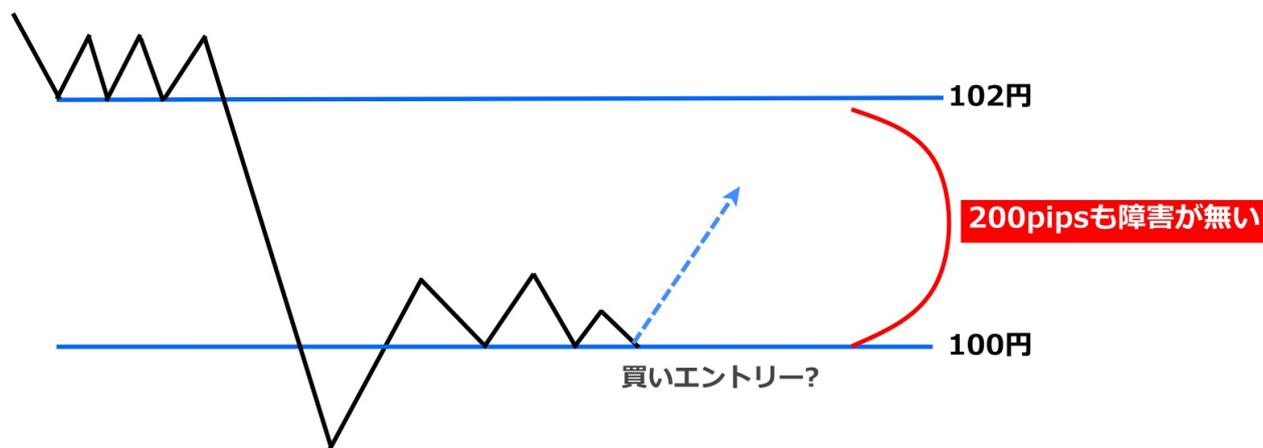
いかがですか？

どの水平線が1番重要なのか、すぐに分かりますよね。

あなたも水平線を重要度別に、好みの色に変えてみて下さい。

水平線を環境認識に使う場合

そのため、大きな値幅を狙うことができます。



私がいつもエントリーする時に考える事の1つに、「リスクを負ってまでエントリーする価値があるか？」ということがあります。

そうすると、先程の20 pipしか狙えない通貨ペアと、この200 pipsも狙える通貨ペアが同じタイミングでエントリーチャンスが来たなら、200 pips狙える通貨ペアの方にエントリーを考えます。

(もちろん、その他、チャートの形なども見ますが。。)

200 pipsもあれば、あまり伸びなくても半分の値幅上がれば100 pipsですしね。

私の狙い方は、「**大きな値幅の中の少しを狙いに行く**」ということがあります。つまり、200 pipsの中の50 pipsを取りに行く感じです。

先程の、全体で20 pipsしかないところだと、1/4にすると5 pipsほどになってしまいます。

スプレッドが広い通貨ペアだと3 pipsなど平気で取られますので、よっぽど魅力的でない限り、この通貨ペアを狙うのは、リスクでしかないですね。

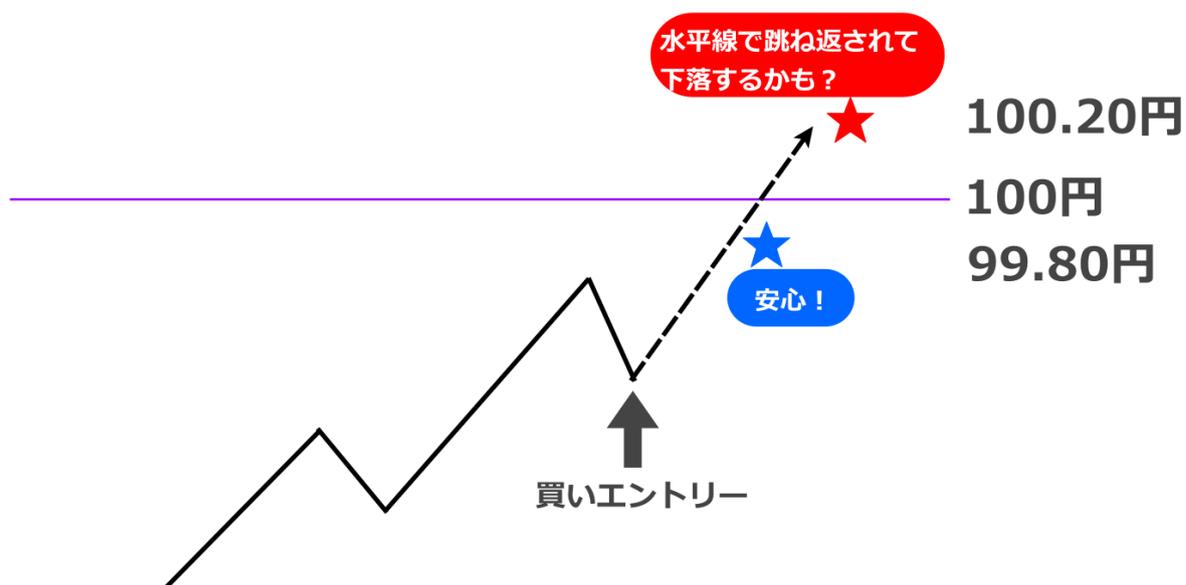
このように水平線は狙える値幅を確認するのも便利ですし、あまりにも値幅が少ないようならトレードしないなど、トレード対象とするのか決める時にも使えます。

水平線を決済に使う場合

水平線は、決済でも使い道はあります。
それは、利確の目途に使えるということです。

例えば、この後上がるだろうと思い、ドル円で買いエントリーした場合
この時もし、100 円に水平線が引ける場合は
100 円付近で反発して下落する可能性が高いです。

そうすると、100.20 円で利確注文を入れるよりは、99.80 円あたりに利確注文を入れて
おく方が安全に勝ちやすいことになります。



このように水平線は利確位置を決める時の目途にも使うことができます。

水平線の捉え方

勝てないトレーダーによくあるのが、水平線を1本のラインとして捉えてしまう事です。

例えば、ドル円の100円に水平線が引けるとしましょう。

ここで多くのトレーダーが勘違いするのは、「100円にローソク足が来たら反発する」と考えてしまう事です。

実際は、100.20円まで抜けてから反発するかもしれないですし、100円まで到達せずに99.80円で下落してしまうこともあります。

ヒゲで抜けるけど、実体では反発するなんてこともありますね。

水平線は1本のラインではなく、水平線を引いたあたりをゾーンとして捉えて「**この辺りにきたら、反発する可能性があるな**」くらいの捉え方が実践的で、私はいつもそうしています。

相場は型通りには動きません。

リアルトレードでは、ゾーンを意識しましょう。

水平線を自動で引く？

トレードを始めたばかりの頃は水平線がうまく引けない場合もあると思います。
そういう時は、自動で引いてくれるインジケータを参考にしても良いと思います。

ただしあくまでも機械的に引いているだけなので、インジケータを100%信用するのはやめましょう。

インジケータが引いた水平線は1本ずつ効いているのかどうか、最終的に、あなた自身が確認するようにしてくださいね。

水平線のインジケータでオススメなのは
MT4 インジケータ貯蔵庫さんの [FractalSupportResistance button 1.04](#) です。

➡ [FractalSupportResistance button 1.04](#)

詳しい使い方は、サイトで確認ください。
※サイトが消された場合はご容赦ください。

【トレ教】で解説した水平線を引くコツをしっかりと学び、自分で実際に引いてみる練習を続ければ必ず効く水平線を引くことができるので、その練習は怠らないようにしてくださいね。

③ MA (ボリンジャーバンド)

MAは、Moving Averageの略で、移動平均線とも呼ばれます。

MAやボリンジャーバンドを用いることで「上方向に向かっている」だったり、「下方向に動いている」というトレンドの方向感や売買のタイミングを探ることが出来ます。

テクニカルツールとして、とても有名なので、チャートに表示しているトレーダーは非常に多いです。

MAやボリンジャーバンドの傾きが上昇しているのか、下降しているのかを見ればいいので視覚的にも分かりやすく、FX初心者さんにもオススメです。

横軸

MAは時間と共に変化する横軸の一種です。
そのため、指値注文などには使えません。

縦軸である水平線の場合は、時間が経過してもレートは変わりませんので
「この水平線（レート）に到達したら買い注文を入れよう」というように、
予め注文してから会社などに出掛けることもできますが、MAの場合はそれができません。

基本的に、MAは斜めに動きますし、まっすぐ1mmも変わらず水平に動く事は、ほぼありません。

そのため、「この辺りでMAに到達するだろうという」予測を立てることができず、
「MAに到達したら買い注文を入れよう」ということは非常に困難なのです。

MAを利用する場合は、その場でMAに到達する瞬間を見ている時に注文する「成行注文」を使います。

MAとはどういうもの？

下のチャートの真ん中の黒い太い曲線がMAです。



MAのチャート

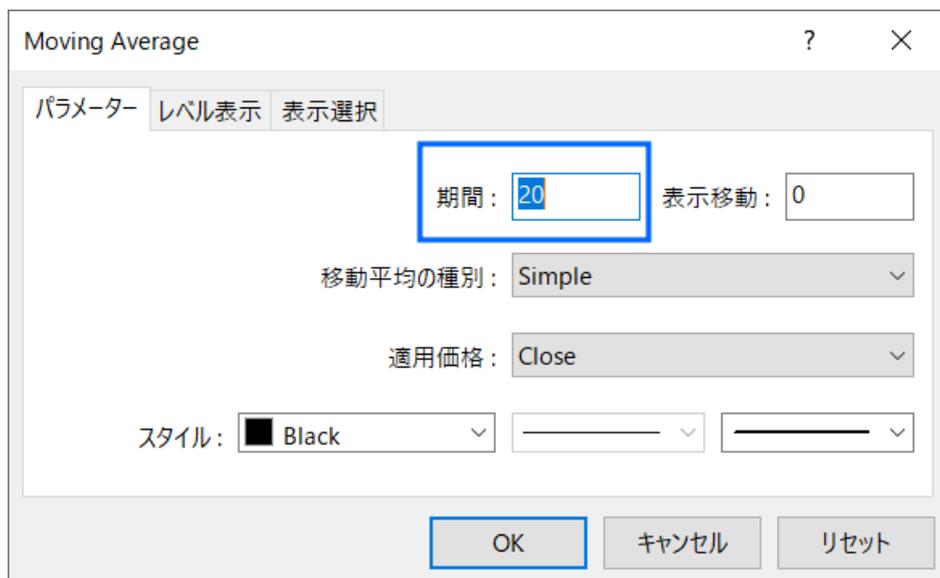
そしてMAと言っても「期間」を指定することができ、その設定によってMAが表示される位置が大きく変わります。

その為、「どの期間にするのが1番良いのか？」とMAのパラメーターにこだわる方がいらっしゃいます。

私自身も10や20、21、25、75、200など、色々試しました。

しかし、どのパラメーターが最適というものはありません。
お好きな数値を使えば良いです。

それでも迷ってしまう場合は、表示しているトレーダーが多い「20」や「75」、「200」などを使うのも良いでしょう。

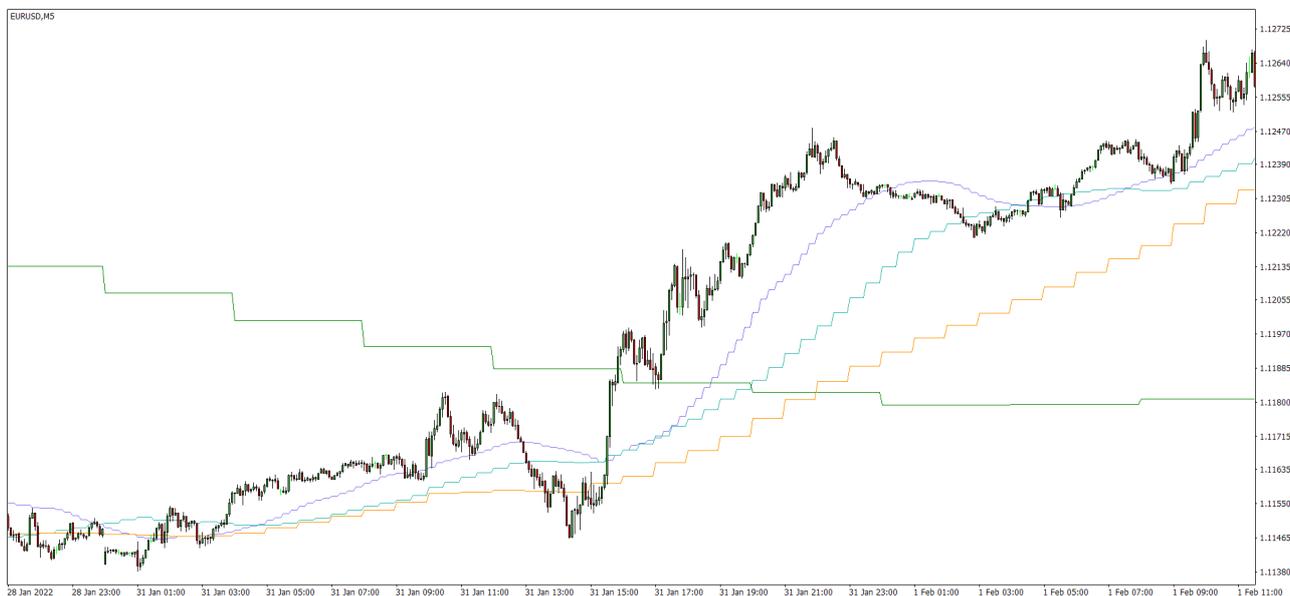


ちなみに私が MA を使う時は、20SMA を使っています。

MTF_MA を紹介

私は、普段 MA を使う時は 20SMA を使っていると先述しましたが、その際は「MTF__MA」というインジケータで、1つのチャートに他の時間足の 20MA も同時に表示させています。

下のチャートに表示されている、オレンジ色、水色、紫色のラインが MTF__MA です。普通の MA と比べて、ギザギザしているのが特徴です。



MTF__MA

この「MTF__MA」を使うことによって、チャートを切り替えなくても、今見ている時間足チャートだけで、他の時間足チャートを見ることができるので便利です。

例えば、5分足チャートを見ている時にこのチャートだけで、15分足の MA や、30分足の MA、1時間足の MA や日足の MA などを確認することができます。

MTF__MA を使うもう 1 つの理由として、MTF__MA は正確だからというのがあります。

MAのパラメータの期間を、表示したいMAの何倍だからと、パラメータ部分を掛け算して普通の曲線のMAを使って、日足や4時間足など他の時間足を表示する方もいらっしゃいますが、実はそのやり方では正確ではありません。

実際に無理やり上のやり方で表示させたMAとMTF_MAを同時に表示して比べてみると、ズレがあることが分かります。

きちんとした正しいMAを表示したい場合は、MTF_MAを表示させましょう。

カクカクしているのが正しい証拠なのですが、このカクカクしているのが嫌だったり目安程度で構わない場合は、上記のようにパラメーターを変更するやり方でも構いません。

パーフェクトオーダー

MAを使った環境認識で私がよく見ているものの1つにパーフェクトオーダーと言うものがあります。

これは、簡単に言うと短期・中期・長期のMAが綺麗に並んでいる状態のことを言います。

綺麗な並び順というのは、以下の状態です。

アップトレンドの時→**上から**、短期・中期・長期の順でMAが並んでいる
ダウントrendの時→**下から**、短期・中期・長期の順でMAが並んでいる

チャートで見てください。

アップトレンドのパーフェクトオーダー



ダウントレンドのパーフェクトオーダー



順張りの手法をするなら、エントリーする時に、このパーフェクトオーダーが出ていないかチェックすると良いでしょう。

これが出ていると、トレンド方向に綺麗に動きやすく、順張りトレードの勝率が高いです。

前のページのチャートは

長期→1時間足

中期→30分足

短期→15分足

ですが、これも先ほどのMAのパラメーターと同様に、必ずしもこれでないといけないわけではありません。

例えば

長期→日足
中期→1時間足
短期→15分足

でも構いませんし、

「期間」の部分

長期→200
中期→75
短期→20

などでも良いです。

ただし長期と中期、中期と短期の期間があまり近いと効果が薄いので、それぞれの期間はある程度離すように設定してくださいね。

パーフェクトオーダーのポイント

パーフェクトオーダーで確認するべきところがあるので解説していきますね。

- ・傾きがしっかりとあるか
- ・3本のMAは同じ角度であるか
- ・順序は間違いないか

が注目するべきところです。

MAの性質上、パーフェクトオーダーが出ていても、傾きが無ければそもそもトレンドが出ていないので、順張りの手法を使う場面ではないのでエントリーできません。

その場合はレンジ手法を使う場面です。

パーフェクトオーダーの角度を見て相場を判断し、手法の使い分けをしましょう。

そして、3本のMAは同じ角度であると信頼度が高まります。

交差している箇所がないかも確認しましょう。

順序は必ず上記に書いたように、アップトレンドの時は、上から、短期・中期・長期の順で、ダウントrendの時は、下から、短期・中期・長期の順でMAが並んでいる事が必要です。

しかし4本以上のMAを表示させている場合は、1～2本並び方がおかしくても大丈夫です。

正確にはパーフェクトオーダーと呼べませんが、大まかに上の並びになっていれば順張り手法でエントリーすれば、高い勝率を出すことができますし、大きな値幅を狙えますので、リスクリワードも良くなります。

積極的に狙いたいエントリーポイントです。

また、3本のMAの間隔が広がりつつあるかも合わせて確認すると良いでしょう。しっかりとトレンドが続く時は、それぞれのMAが広がっていくためです。逆にトレンドの終焉部分では、それぞれの**MA**の間隔が狭まってきます。

パーフェクトオーダーを使った勝率の高いエントリーポイント

パーフェクトオーダーが出ている時は、それ自体で勝率が高い相場になっています。
しかしその中でも、選りすぐりの勝率の高いエントリーポイントをお伝えします。

これが出たら何も考えずにエントリーというわけには行きませんが、
環境認識する時間足と執行足の相場状況を見て、損切になる要因が無いか確認できたら、
狙っていきたいポイントです。



パーフェクトオーダーを使った勝率の高いエントリーポイント

執行足が下の状況になっていたら勝率が高いです。

- (1) 全てのMAが並び順通りの秩序を保ちながら、終結しているポイント
- (2) 1番内側のMAにローソク足が向かっていき、MAで反発するポイント

下のチャートを見ながら解説していきます。

- (1) 全てのMAが並び順通りの秩序を保ちながら、集結しているポイント



上のチャートの赤丸部分です。

ここに3本のMAが集まっていますね。

こういう箇所はパワーがたまっていますので、傾き方向に、いつ下落してもおかしくありません。

ここから動意づき、この後全てのMAがシャワーのように落ちていき、大きく下落し始める可能性が高いです。

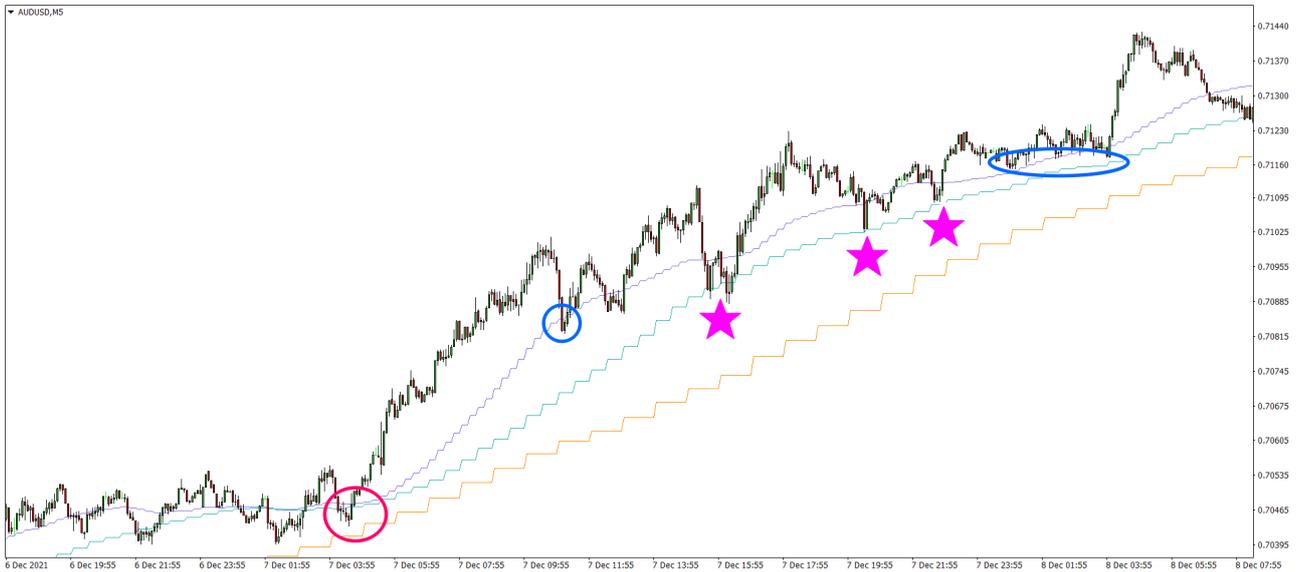
つまりトレンドの初動部分になります。

3つのMAが集まった後に離れていき、パーフェクトオーダーになるポイントは、トレンドの根っこからエントリーできる可能性が高いのでリスクリワード比率も良くなります。

ほぼ同じ位置に複数のMAが重なっている状態でもありますので並び順が多少違っていても、MA同士の間隔（値幅）が小さい時はそこまで気にしなくても良いです。

動意づくると順番が変わり本来の綺麗な並び順になって、綺麗に間隔をあげながら落ちることも多いからです。

アップトレンドのチャートも同じです。



上のチャートの赤丸部分です。
ここに3本のMAが集まっていますね。

上から下に向かって、紫色のMA（15分足）→ターコイズブルーのMA（30分足）
→オレンジ色のMA（1時間足）の順になっていて、同じくパーフェクトオーダーです。

(2) 1番内側のMAにローソク足が向かっていき、MAで反発するポイント



1 番内側の MA にローソク足が向かっていき、MA で反発するポイントというのは、上のチャートの青丸部分です。

上からシャワーのように MA がパーフェクトオーダーで落ちて来た後の場面。

そして 1 番内側と言うのは、短期の MA のことです。

これは、アプトレンドの時もダウントレンドの時もパーフェクトオーダーの場合、1 番内側は常に短期の MA になります。

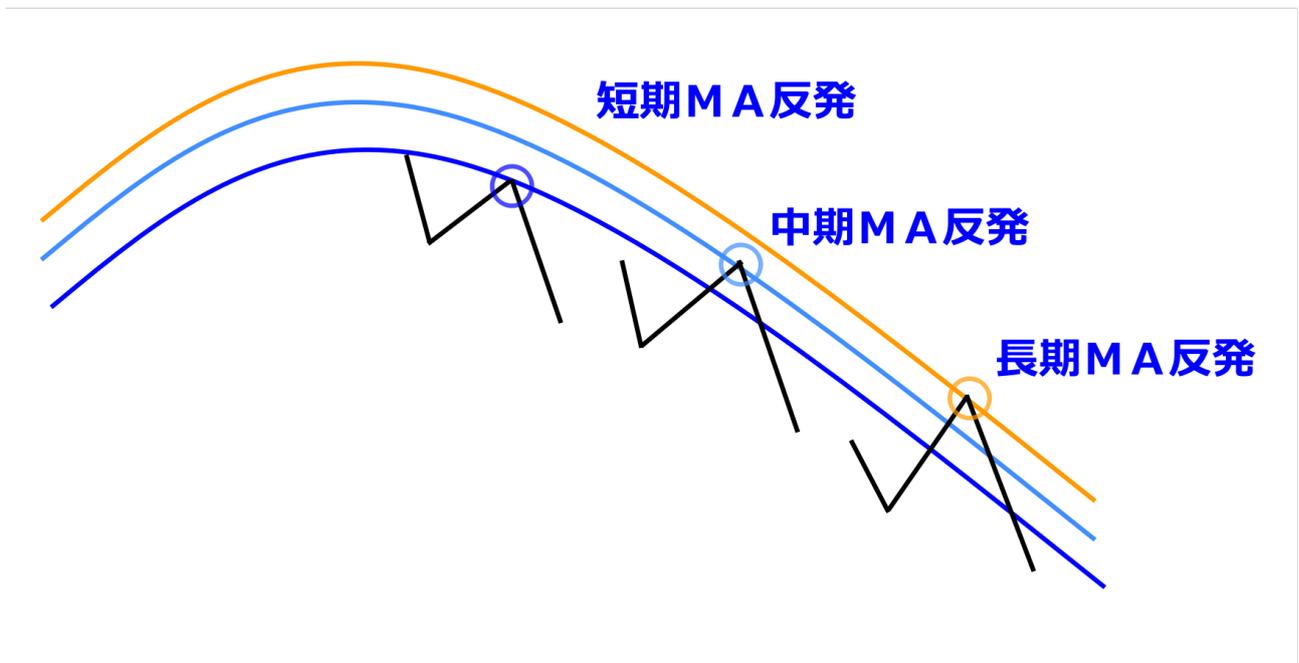
この 1 番内側の短期 MA に向かって行く形、つまり MA 反発の形がパーフェクトオーダーを使った勝率の良い場所の 2 つ目です。

この場合も綺麗に下落しやすいです。

これらの短期、中期、長期のMAは、その名の通りそれぞれMAですので、どのMAでも「MA反発して下落」が起きる可能性があります。

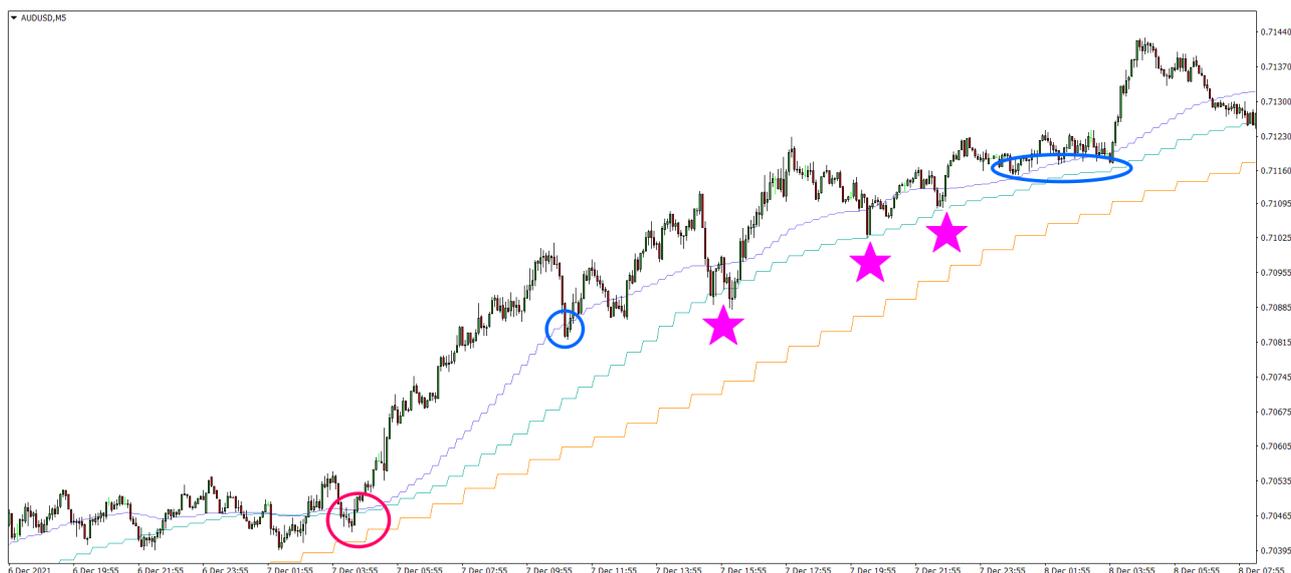
つまり、短期のMAでMA反発せずに抜かれたら次に中期のMAが同じ角度で控えているわけですから、今度は中期のMA反発で下落する可能性があり、それでも抜かれた場合は長期のMAで落とされる可能性があります。

つまり3回砦があるということですね。



できれば一番内側の短期 MA に反応して落ちてくれると良いですが、そうならなかった場合も落ちる要因としてはまだ2つ残っているので、1つのMA反発の時よりも3倍とは言わないですが、落ちる確率が高いのです。

アップトレンドのチャートでも確認してみましょう。



こちら、下からシャワーのようにMAがパーフェクトオーダーで昇って来た後の場面。1番内側のMAに反発する向きでローソク足が向かっているポイントというのは、上のチャートの青丸部分です。

1番内側の紫の15分足MAで反発して上昇していますね。

そして、ピンクの星マーク部分をご覧ください。

15分MAで反発できなかった部分は、次の緑の30分MAで支えられて上昇しています。ちょうど、先ほど解説した現象ですね。

パーフェクトオーダーで負ける2つのパターン

パーフェクトオーダーとはいえ、万能ではありません。

もちろん、負けるパターンも存在します。

私が検証した中で、分かりやすいものが2つありますので、あなたにもシェアしますね。

パーフェクトオーダーで負けやすいパターン

- (1) トレンドが出過ぎている場合
- (2) MAの角度が無くなり横向きになってきた場合

(1) テレンドが山過ぎている場合

先程少し触れましたが、パーフェクトオーダーでエントリーを狙うには、トレンドが山過ぎていないことが注意ポイントになります。

このパターンはある程度のトレンドが山出ている時に出現しますので、トレンドの終焉部分でも出ます。



上のチャートは、ユーロドルで長期を200MA、中期を75MA、短期を20MAで表示しています。下から、短期・中期・長期の順でMAが並んでいるので、パーフェクトオーダーですね。

そして、綺麗な波形を描きながら422pips下落しています。結構下落していますね。

こういう場合はそろそろトレンド転換するかもしれないと疑うことも必要です。

これは400pips以上だから落ちすぎているというわけではなく、通貨ペアによってもその基準（ボラ）が違います。

ドル円はあまり値幅が無い通貨ペアですし、ポンド円は大きな値幅で上下動く事はザラです。

そして、時間足によっても動く値幅は違います。

1分足で動く値幅と日足の値幅が違うのは分かりますよね。

そのため、普段あなたがトレードする通貨ペアや時間足（執行足）での平均的な値幅を見ることが大切です。

これについて、分かりやすい目安がありますので、お伝えします。

それは、1枚の大きなチャートを表示させた時に、画面いっぱい从上から下へ動いた場合や、それよりもさらに動いていてチャート画面に入りきらずにチャートを右や下に動かさないと下落の始まりと現在レートが入りきらない場合は、かなりトレンドが出ている可能性が高いです。

これを目安にしてみると、トレンドの終焉部分で喜び勇んでエントリーして負けることは減ると思いますので、参考にしてみてください。

このように長く下落が続きトレンドがある程度出尽くしている場合は、下げるパワーがなく、MAの効力も失われているため、簡単にMAを上を抜かれて負けてしまうことも念頭に入れておきましょう。

先程の例で出て来た2枚のチャートも、トレンドが出過ぎている所はMA反発が効かなくなってきました。



★より後はMA反発しても下げ幅が小さくなってきていますね。

(2) MAの角度が無くなり横向きになってきた場合

そして2つ目の負けやすいパターンとして、MAの角度が無くなり横向きになってきた場合も、そろそろトレンドが終焉する兆候ですので、負けやすくなります。

ここでのポイントが、「MAの角度」です。

角度のない、真横に寝そべってるだけのぐ～たらMAはお仕事しないので、そのまま反発せずに抜けていってしまいます。

次のチャートをご覧ください。



今回は MA の角度に注目をしながら見てみて下さい。

最初の青枠の部分は、短期の黒の 20MA が横になりましたが、赤の長期、青の中期はまだしっかりと下に向いています。

相場と言うのは短期よりも中長期の流れの方が勝つことが多いので、しばらくすると中長期の下の流れに逆らうことが出来ずに、再び黒の短期 MA も下向きになっています。

次に真ん中の水色の枠はローソク足が上昇し、短期の MA は向きが下から上に変わっています。

このまま上昇してしまうようにも見えますが、、、

ここでもやはり赤の長期はまだしっかりと下に向いているため、再び下落の流れになりダウントレンドが継続していますね。

しかし、そこから下落が進んだ後のピンク枠はどうでしょうか？
黒の短期 MA は真横になり上昇しています。
ここだけを見ると真ん中の青枠と似ていますね。

しかし、青色の中期 MA と赤の長期 MA は今までの下向きの角度が無くなり、真横になって来ています。

これは売りのパワーが一旦出尽くした場面でよく出現します。

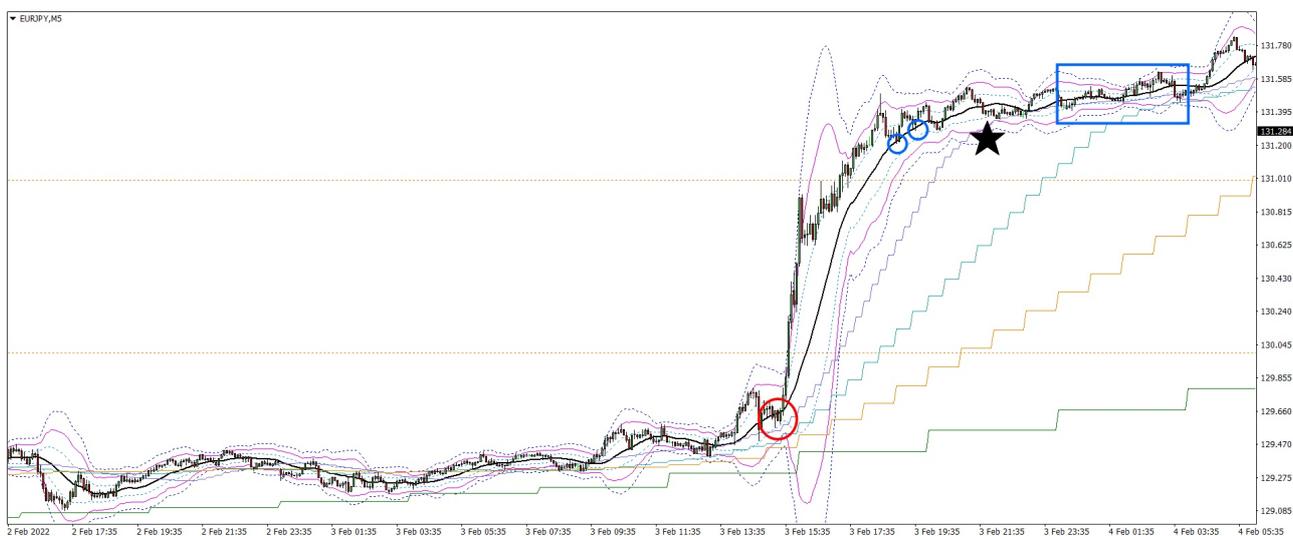
こうなると、もう売りエントリーを狙わない方が良い場面になります。
レンジになったり、トレンドが転換してアップトレンドになることが多いので、負けやすくなりますので、先ほどのパターンと合わせて覚えておいてください。

もしあなたがアップトレンドでエントリーをした後に、少し下落してきたとします。
その時、決済するべきかの判断基準として、MA が大きな傾きで上向いていたら、まだ決済しなくても良いともいえます。

先程の例で出て来た 2 枚のチャートもトレンドが出過ぎている所は MA 反発が効かなくなってきました。



青枠で囲んだあたりは MA が横になり、MA に当たっても下げ幅が小さくなっています。



こちらも青枠部分では、MA が横になり MA に当たっても反発せず下に落ちてしまっていますね。

余談ですが、私の手法でもこのパーフェクトオーダーが登場します。

私の手法を簡単に言うと、1時間足と5分足で環境認識をして、これらの時間足でトレンドが出ている方向に、1分足で戻り高値で売りエントリー、押し目で買いエントリーをするという順張りですが、エントリーする時に、このパーフェクトオーダーが出ていることが結構あります。

特にエントリー条件の中に入れていないのですが、トレードルールである8つのエントリー条件を満たす時は、何故かパーフェクトオーダーになっていることが多いのです。

エントリーしようと思って短期足を見たら、パーフェクトオーダーが出ていたり、パーフェクトオーダーになりそうな場合は「お？勝てそう♪」と嬉しくなります（笑）



④ フィボナッチチャネル

フィボナッチチャネルに行く前に、、、まず初めに質問です。
あなたはトレンドラインを知っていますか？

水平線のように真横に引くラインではなく、斜めに引くラインで下のチャートのように引いたラインですね。



トレンドライン

このトレンドラインはトレンドの勢いを見たり、エントリーポイントや損切ポイント、利確ポイントに使ったりと、色々便利なものです。

しかし、トレンドラインって人によって引く位置がバラバラになるんですね。
角度も1度でもズレると、全く違う場所に引けてしまうので、そのばらつきは水平線よりも大きいです。

このため、せっかくトレンドラインを引いても全然反応せずに抜けてしまうということが起こり得ます。

実際にチャートを見てみましょう。



上のチャートを見て頂くと、黒色、赤色、青色、ピンク色のラインが引けます。

「そんなところに引かないよー」って思ったものもあるかもしれませんが、実はこのライン、読者さんに実際に引いてもらったラインなのです。

トレードをはじめたばかりの初心者の方や、実際に利益を出している上級者の方に引いてもらったラインがこの4種類なのです。

どうでしょうか？

人によって引く場所がバラバラなのが分かりますよね？

チャートというのは、多数決の原理で動くとも言われています。

多くの人注目しているラインは反発しやすく、誰も注目していないラインは反応しないのです。

そのため、初心者でも上級者でも誰が見てもアップトレンドと分かるチャートの方が、買いエントリーの勝率が上がりますし、誰が見てもここに引くでしょというラインで反発するものです。

そう考えるとトレンドラインは、皆が意識する全く同じ角度で引くのは難しい場合が多く、反発するラインを引けるかどうかというのは難易度が高いです。

という理由で、私はトレンドラインではなく、チャンネルラインを使う事を推奨しています。



チャンネルライン

チャンネルラインとは、先程の1本のトレンドラインの角度を保ったまま、下のラインを平行移動した線を上の高値に移動したものです。



ローソク足が跳ね返っているポイントを線で結ぶと、相場の状況に沿った抵抗帯、つまり反発ポイントが見えてきます。

トレンドラインは1本のラインで心許なかったですが、チャンネルラインは2本ですので、精度が上がります。

1本のラインを平行に移動したライン、つまり上のラインになりますが、このラインもローソク足に反発していないと引けないためです。

このチャンネルラインについても、間違った引き方というのか、精度が低い引き方をしている人をよく見かけます。

それは、アップトレンドの場合ですと安値の2点を取り、上の高値の1つだけに移動してしまうやり方です。

エリオット波動でもこういった引き方を使うことがありますが、おそらく、それを意識して使っていないと思うのです。

その場合、安値の2点さえあればどこでも引けてしまうので、精度が低いです。これでは先ほどのトレンドラインと変わりません。

例えば下のようなチャンネルラインです。



2本ある斜めラインのうち、下のラインは何度もローソク足が反発している箇所に引けているので良いのですが、問題は上のラインです。

上のラインで反発している箇所は、青丸部分しかありません。
こういうチャンネルラインの引き方は精度が低いので、反発箇所を見つける目的では私は引きません。

あなたはしていませんか？

私が引く場合は、下のように上のラインも下のラインも2回以上反発している箇所に引きます。



もう1つ違う場面も紹介しておきます。

まず、精度の低いチャネルラインが下のチャートです。



上のラインが、青丸の1か所しか効いていませんね。

これでは次にローソク足が上昇して上のラインに当たったとしても反発するかは微妙なところですよ。

それでは、この場合どうやって引くと良いのかと言うと、それが下のチャートになります。



いかがでしょうか？

上のラインも効いていますね。

この後、ローソク足が上昇して上のラインに到達したら、かなりの確率で反発下落します。

同じチャネルラインでも、引くなら2枚目のチャートのように精度の高いチャネルラインを引くようにしましょう。

それでは、あなたも一緒に引いてみましょう。
問題です！

下のチャートを印刷して、赤枠で囲ったアップトレンドの部分に定規を使って斜めのラインを2本引き、チャンネルラインを引いてみて下さい。



私ならここに引くよというラインは下の通りです。
正解は1つではないですが、参考に見てみてください。



下の青のマーカー部分で角度を取り、それを平行に移動したものを上のピンクにマーカーした高値にあてました。



チャネルラインを引いたことにより全体的なトレンドが分かりやすくなりました。

このチャネルが引けていれば、上の青丸部分で売りエントリーができますし、下の左の青丸部分ではレジサポ転換がおきているので、ラインに抜けた後戻ってきたところで売りエントリーもできます。

その後の青丸でもラインで反発下落しているのので、売りエントリーで利益が出ていますね。

どうでしょうか？

あなたはどこに引きましたか？

チャンネルラインの角度

効くチャンネルラインを引くコツの中に「**角度**」があります。

効くチャンネルラインは緩やかな角度のラインです。
急なチャンネルラインはすぐに抜けてしまうのでエントリーや決済には使えません。

具体的には4 5度以下のチャンネルラインを引くようにしましょう。

もしそれよりも急なチャンネルラインが引けた場合は、あまり信用せずに他の根拠を見つけるようにしましょう。

さて、どんどん進んでいきましょう。
せっかくこの【トレ教】を手にしてくださったのですから、もっとレベルをあげて、実践的なスキルを身につけていきましょう。

では次です。

チャンネルラインでも良いのですが、もっと精度を上げる方法があります。
さて、どうすればいいのでしょうか？

はい、チャンネルラインよりもさらにもっと強力なものです。

それは、フィボナッチチャンネルというものです。
私のブログや Twitter などでもよく表示しているので、見たことがあるかもしれませんね。

フィボナッチチャンネルも、上昇の流れまたは下降の流れを見ることができ、反発する箇所を見つけることに役立ちます。



フィボナッチチャンネル

フィボナッチチャンネルも MA と同じく横軸です。

フィボナッチチャンネルはトレンドラインの応用なので、やはり斜めに引きます。そのため、「この辺りでフィボナッチチャンネルに到達するだろう」という長期的な予測を立てることは難しいです。

この性質上、「フィボナッチチャンネルに到達するこのレートで買い注文を入れよう」ということは困難ですので、成行注文でエントリーや決済に使ったり、環境認識に使います。

後述しますが、相場と言うのは、横軸と縦軸の両方で見ることにより精度高くこの後の値動きを読むことができます。

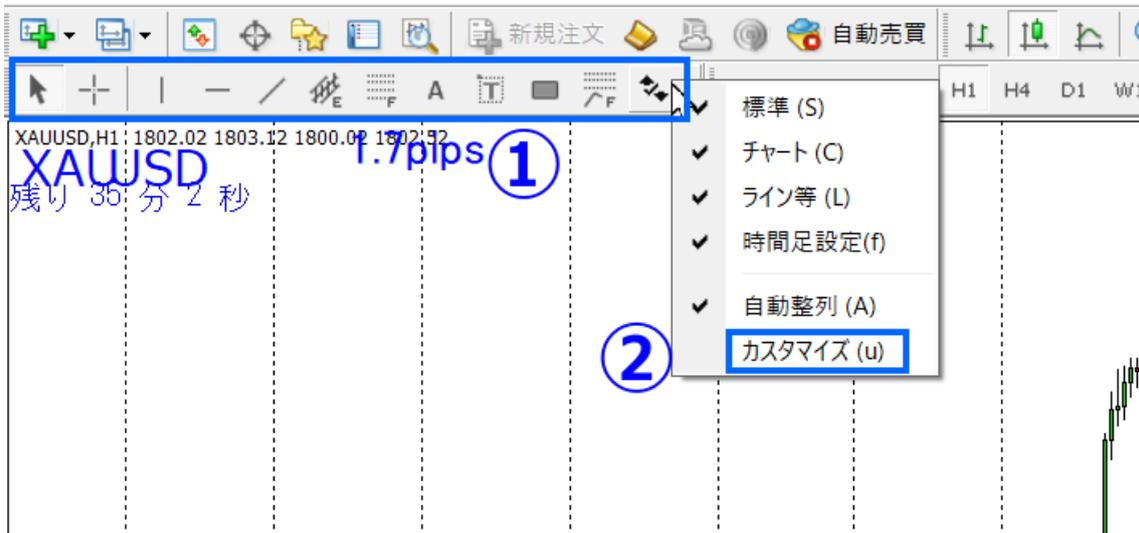
縦軸の水平線と合わせて横軸である MA やこのフィボナッチチャンネルも使いこなせるようになるとあなたのトレード成績は各段に上がります。

トレンドラインの場合は1本、チャンネルラインは2本なので、そのラインが本当に効いているのかを判断しづらいですが、フィボナッチチャンネルの場合10本程度引けるので、信頼度が非常に高く、私は斜めラインを引く場合は、このフィボナッチチャンネルを使っています。

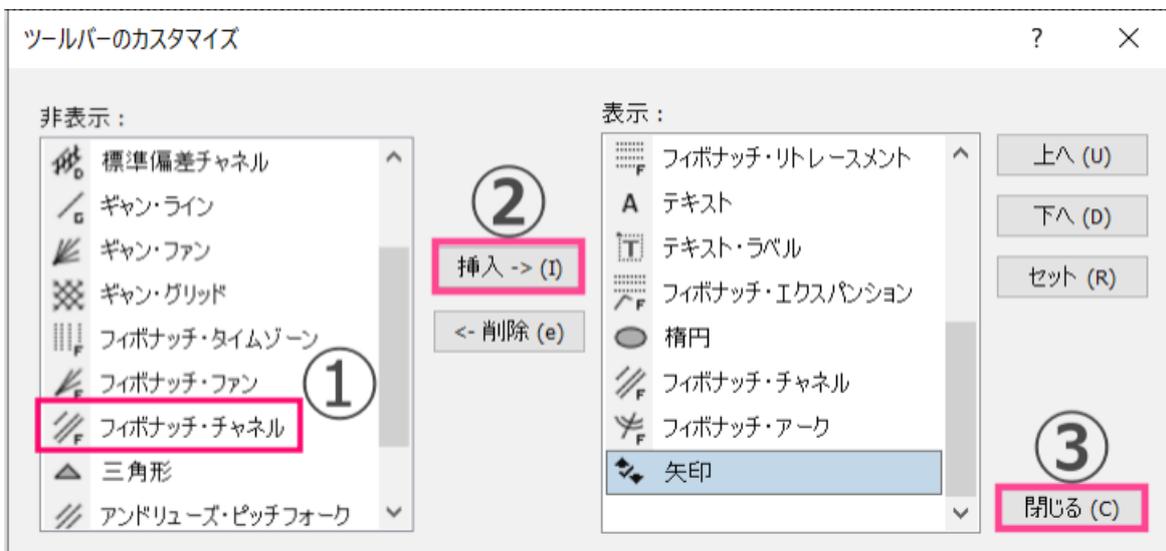
MT4 の出し方

フィボナッチチャネルを MT4 で使う手順は

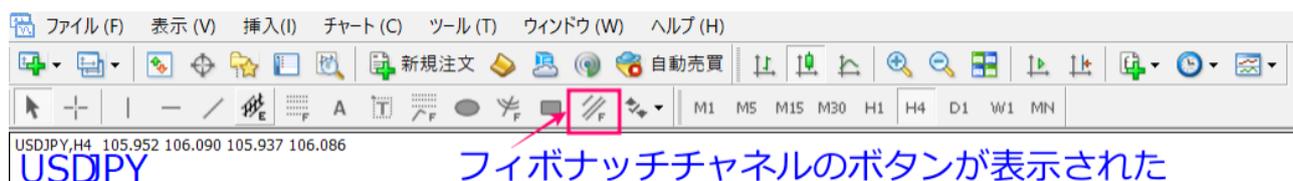
① MT4 の上にあるメニューバーの中の、矢印アイコンや十字アイコン、縦線アイコンなどの上で右クリックをし、次に表示されるメニューの 1 番下の「カスタマイズ」を押す。



② 「ツールバーのカスタマイズ」の画面が表示されたら ①⇒②⇒③の順に押すと



③ MT4上に「フィボナッチチャネル」のボタンが表示されます。



このフィボナッチチャネルのアイコンを押した後に、チャート上で左クリックを長押しして、角度を取りたい2点のローソク足におくと、フィボナッチチャネルが引けます。

続きを次のページに載せますね。

フィボナッチチャネルの引き方

まず、フィボナッチチャネルのアイコンを押した後、トレンドが右肩上がりなら、安値同士を繋ぎます。

右肩下がりなら、高値を繋ぎます。

ダウ理論の項目でやりましたね、

右肩上がり⇒アップトレンド⇒安値を基準する

右肩下がり⇒ダウトレンド⇒高値を基準にする

ここまではトレンドラインやチャネルラインと同じですね。

そうすると、ラインが自動的に複数表示されます。

これらのラインは当てずっぽに引かれたわけではなく、フィボナッチの重要ラインである「50%」や「161.8%」などの間隔で計算されて引かれています。

この複数のラインを1本ずつ見ていき、ラインでローソク足がきちんと反発しているかを確認してください。

効くフィボナッチチャネルが引けた場合、どのラインでもローソク足は反発しているはず
です。



フィボナッチチャンネル

上のチャートは、ピンクのマーカの2か所で角度を取っています。

フィボナッチチャンネルも角度が重要です。
緩やかな角度のラインの方が効きます。

急なフィボナッチチャンネルは抜けやすいのでエントリーや決済には使えません。
45度以下のチャンネルラインを引くようにしましょう。

フィボナッチチャンネルを使つてはいけない相場

フィボナッチチャンネルを使つてはいけない相場というものがあります。

それはトレンドが出ていない相場です。

フィボナッチチャンネルはトレンドラインと同じくトレンドが無いレンジ相場では引けませんし、無理やり引いても機能しません。

そもそも、「どこの角度で引けばいいの？」
ってなりますからね（笑）

そのため私は、

- ・トレンド相場→フィボナッチチャンネル（またはチャンネルライン）と水平線
- ・レンジ相場→水平線

を使っています。

その他、適宜ボリンジャーバンドなどを補助的に表示する事はあります。

フィボナッチチャンネルの詳しい解説や裏技的な使い方は、XMの特典の「FXで勝ちを積み重ねる最強の秘策」で解説していますのでダブるので割愛します。

興味があればそちらをご欄ください。

→**XMの3つの特典**

- ・安定して勝ち続けるための7つの習慣とその攻略法
- ・FXで勝ちを積み重ねる最強の秘策
- ・特典動画 あや手法

⑤チャートパターン

チャートパターンはたくさん存在しますが、絶対におさえておくべきものは次の5つです。これだけ押さえておけば大丈夫です。

- (1) ボックス
- (2) 三尊
- (3) 逆三尊
- (4) ダブルトップ
- (5) ダブルボトム

順番に解説していきますね。

(1) ボックス

まずボックスとは何かですが、レンジ相場的一种です。

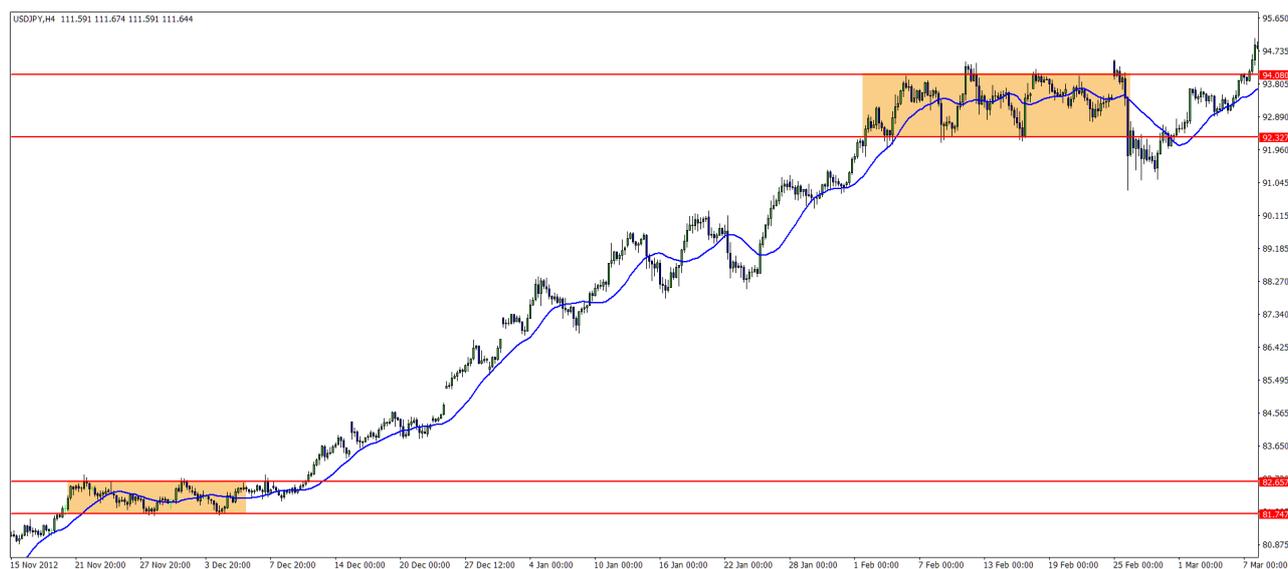
レンジにはいくつかの種類がありますが、ローソク足が上下同じような長さで推移する形状の分かりやすいレンジを「ボックス」といいます。

もう少し具体的に定義づけをすると、

高値の2か所同士がほぼ同じレートで引けて、安値の2か所同士もほぼ同じレートで引け、その間のローソク足の多くがその値幅に収まっている時です。

分かりやすいようにチャートでお見せしますね。

下のオレンジで囲った2か所がボックスです。



ボックス

高値同士、安値同士のローソク足は実体でもヒゲでも、両方が混ざっていても構いません。

その他、見分け方としては、MAがその中をあまり上下に動かずに真横に横たわっていることが多いです。

(MAは途中から真横に横たわる場合もあります。)



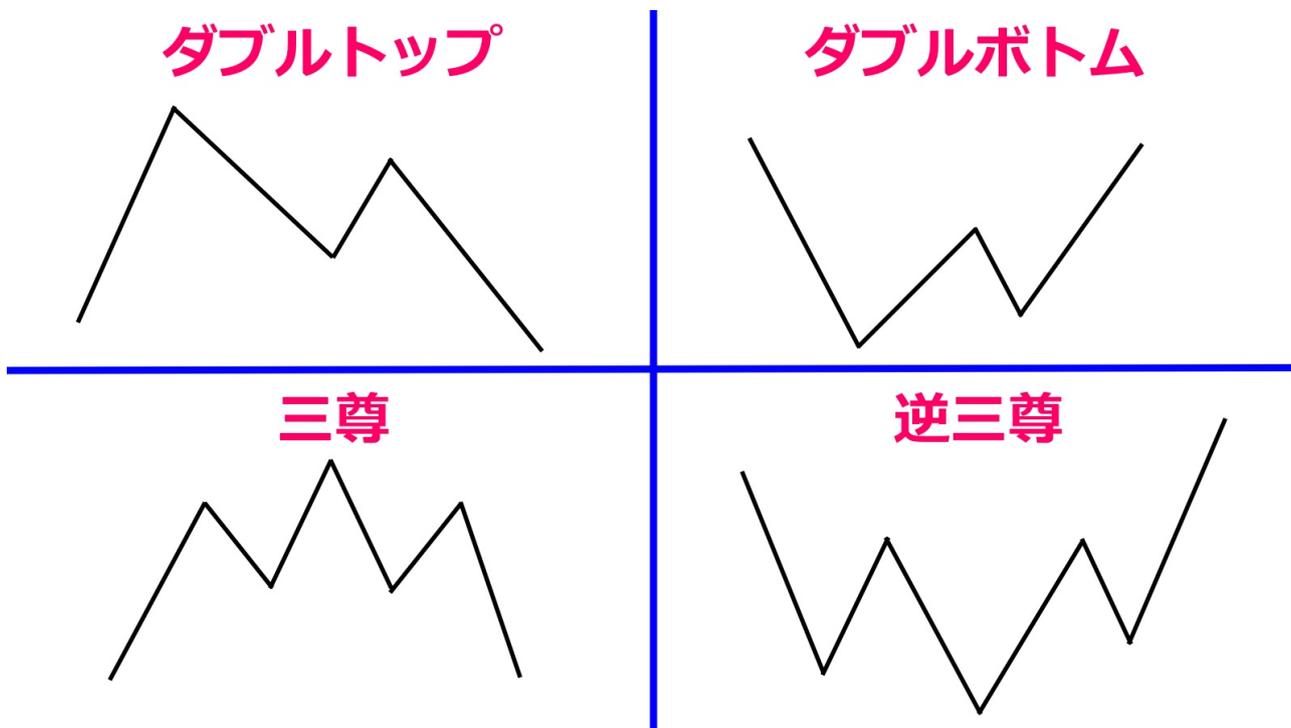
真ん中あたりから MA が横たわるケース

ボックスの出現頻度は意外と高いです。

そして、エントリーポイントが分かりやすいので順張りやレンジ手法をされる方に最適です。

(2) 三尊 (3) 逆三尊 (4) ダブルトップ (5) ダブルボトム

これら4つはトレンド転換を示唆するチャートパターンの代表選手です。



トレンドとチャートパターンの組み合わせ

今回注目しているチャートパターンは4種類ありますが、トレンドによって見るチャートパターンがあります。

アップトレンドの場合

- ・ダブルトップ
- ・三尊

ダウントrendの場合

- ・ダブルボトム
- ・逆三尊

を見ます。

アップトレンドであってもダブルボトムや逆三尊は出現しますし、ダウントrendであってもダブルトップや三尊は出現しますが、その場合は見る必要はありません。

組み合わせが大事です。

上の表をしっかりと覚えて下さいね。

トレンドと見るチャートパターンが分かった所で次に進みますね。

チャートパターンの出現位置

三尊と逆三尊、ダブルトップ、ダブルボトムは実はチャートを探せば至る所で見つけることができます。

しかし、出る度に「トレンド転換かも？」と身構える必要はありません。

実はこれらのチャートパターンは、出る場所がポイントです。

ダブルトップと三尊

- ・ 高値圏
- ・ 水平線が引ける位置
- ・ フィボナッチが引ける位置

ダブルボトムと逆三尊の出現ポイント

- ・ 安値圏
- ・ 水平線が引ける位置
- ・ フィボナッチが引ける位置

に出ると、トレンドが転換しやすいです。

というより、
私は「トレンドが弱まっている」と考えます。

つまりは「レンジ」か「トレンドがそろそろ終わるかも」ということですね。

ここまでをまとめると下のようになります。

	アップトレンド	ダウントrend
どこで	<ul style="list-style-type: none">・ 高値圏・ 水平線が引ける位置・ フィボナッチが引ける位置	<ul style="list-style-type: none">・ 安値圏・ 水平線が引ける位置・ フィボナッチが引ける位置
何が	<ul style="list-style-type: none">・ ダブルトップ・ 三尊	<ul style="list-style-type: none">・ ダブルボトム・ 逆三尊

高値圏と安値圏が特に重要です。

高値圏と安値圏とは

高値圏と安値圏というのは分かりますか？

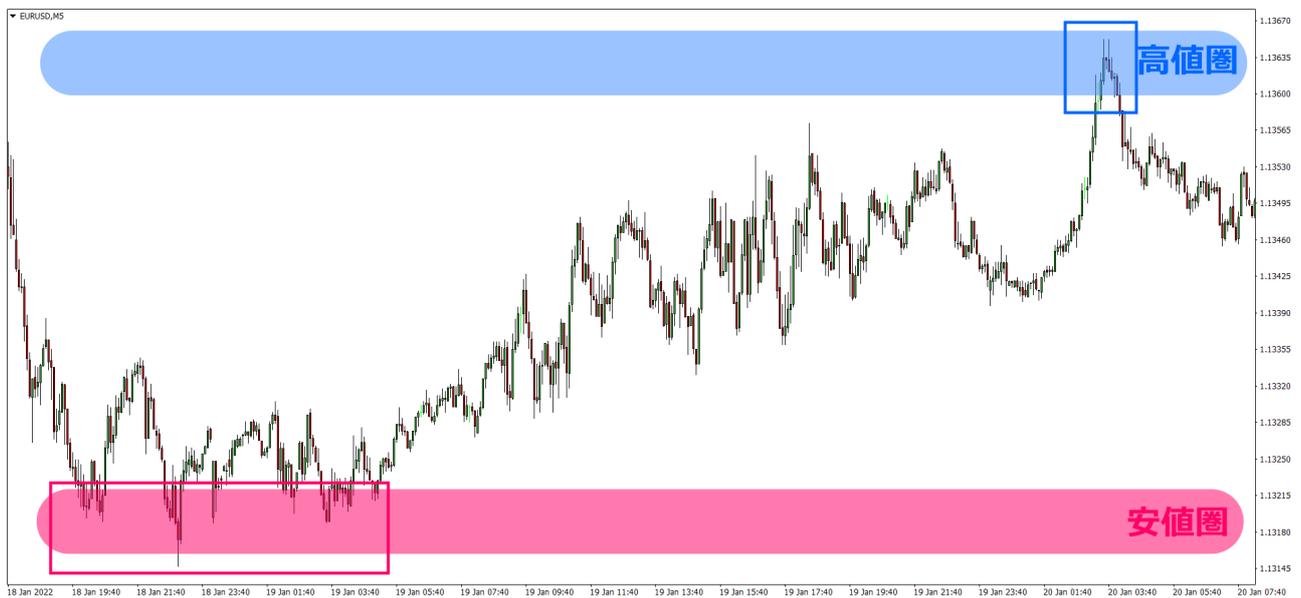
高値圏とは、相場の価格が一定期間の中で高い水準にあることで、安値圏とは相場の価格が一定期間の中で低い水準にあることです。

この、「一定期間の中」というのが分かりづらいため、人によって高値圏と安値圏の位置が異なりますが、私の場合は高値圏と安値圏の範囲とは、チャートに見える範囲で判断することが多いです。

例えば下の2つのチャートは、大きくチャートを表示させた時に1番高い位置を高値圏、1番安い位置を安値圏と見えています。



高値圏と安値圏 1



高値圏と安値圏 2

1分足で高値圏だからといって15分足や1時間足も高値圏かと言えばそうではありません。
でもそれは気にする必要はありません。

ただ相対的に見て、現在の時間足チャートで高い水準であるか、低い水準であるかを見ていくイメージです。

1時間足チャートで高値圏の場所にダブルトップが出たら**1時間足レベルのアップトレンド**が弱まると判断するということです。

同じように、4時間足チャートの安値圏で逆三尊が出たら**4時間足レベルのダウントrend**が弱まると判断するということです。

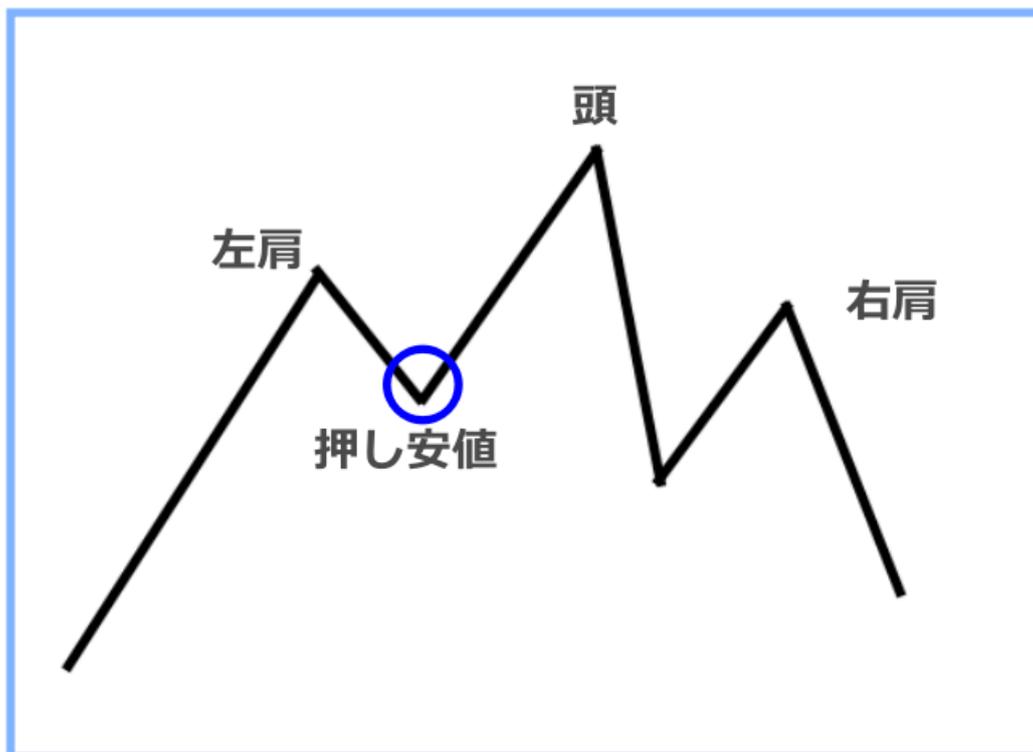


三尊と逆三尊の肩とは？

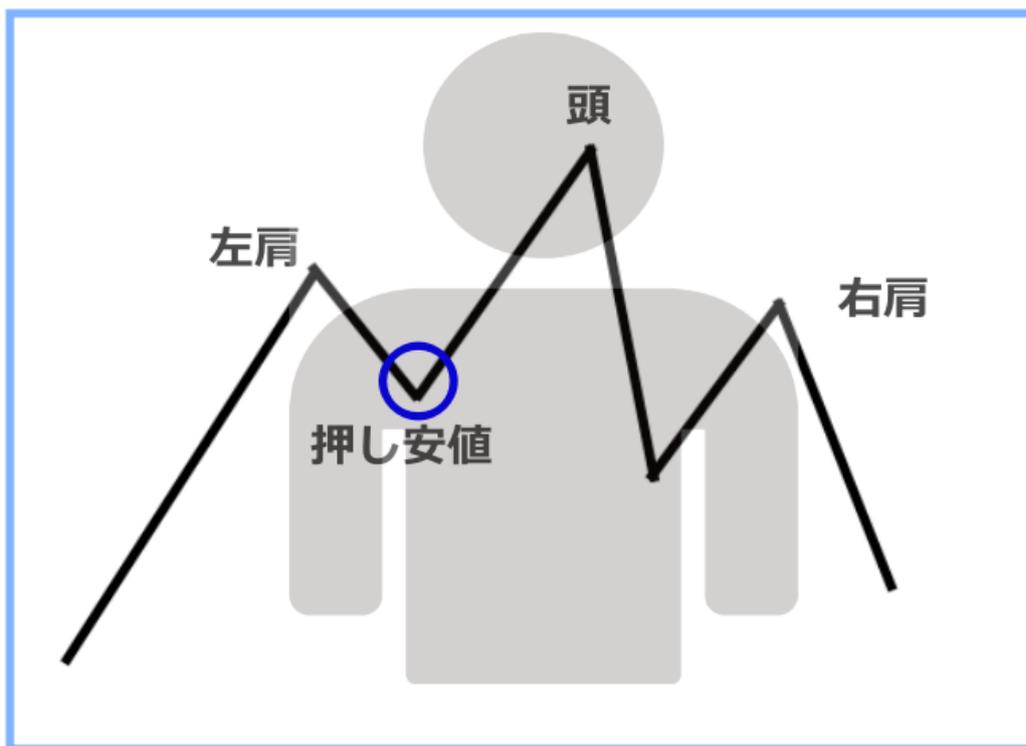
この後の説明の為に、少し簡単な用語を覚えましょう。

三尊と逆三尊には部位によって呼び名があります。
簡単ですので覚えて下さいね。

下の図のように、最高値を「**頭**」として、その左の部分が「**左肩**」、右の部分が「**右肩**」です。



人に見立てて覚えると簡単ですね。

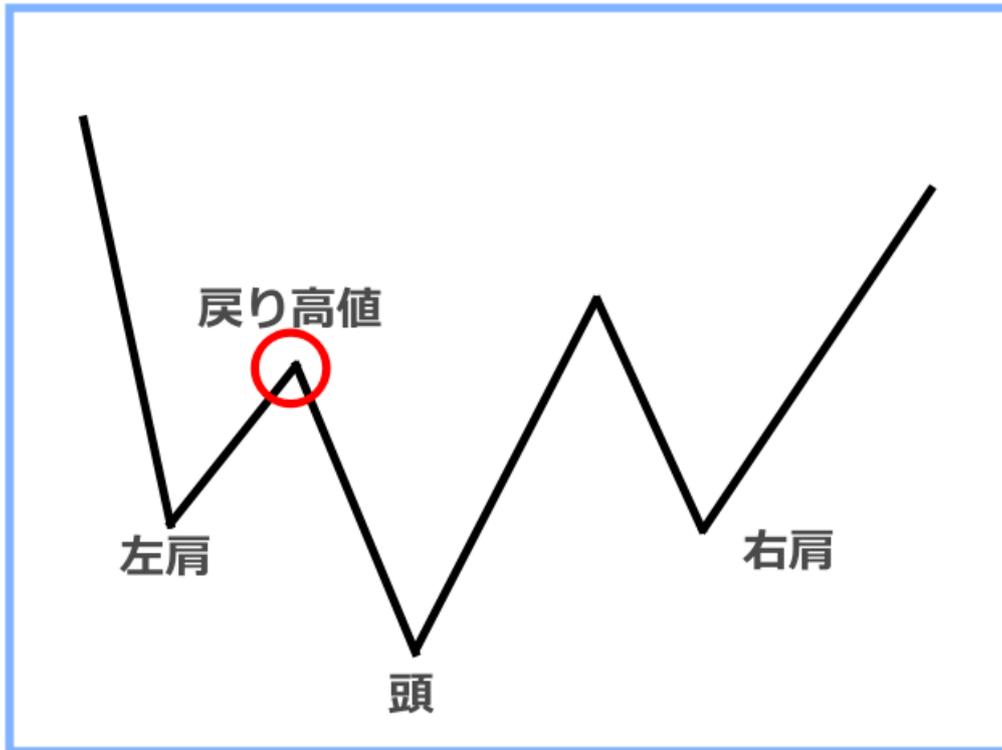


どうでしょうか？

人の頭と左肩と右肩が、ローソク足の頭と左肩と右肩に合致しますね。

逆三尊も同じように、頭と左肩と右肩があります。

これは、逆さだからと言って左肩と右肩を左右逆にする必要は無く、そのまま見たまま左から、左肩、頭、右肩となり、三尊の時と同じ並び順になります。



ここまで覚えたら、次へ進みますね。

三尊と逆三尊はダウ理論を重ねて考える

三尊が高値圏で出たり、逆三尊が安値圏で出るとトレンドが弱まるとお伝えしましたね。

では、もう少し煮詰めてみましょう。

三尊は右と左の肩の高さによって、

- (1) 右肩下がりの三尊
- (2) 右肩上がりの三尊
- (3) 両肩が同じ高さの三尊

の三種類あります。

この中で、1番下落しやすいのはどれでしょうか？

あなたは、分かりますか？

少し考えてみて下さい。

答えです。

それは、一般的に右肩下がりの三尊が良いと言われています。

しかし実際には右肩が下がっただけでは根拠としては弱く、上昇してしまうことも多いです。

「三尊が出たから売ったら、だましに遭って上昇して損切になった」という、よくあるパターンですね。



私が考える、これが出ると下がりやすいというのは、押し安値を下に抜けていて、尚且つ、右肩が1番低いという二段階構えの三尊です。

理由は、押し安値を下に抜けてローソク足が確定するとダウ理論で考えたときに、アップトレンドが崩れたと判断できるからです。

押し安値より下でローソク足が確定したならば、右肩部分は左肩よりも上だろうが下だろうが関係なく、最高値よりも下に右肩が来れば、ダウトレンドに転換していますね。

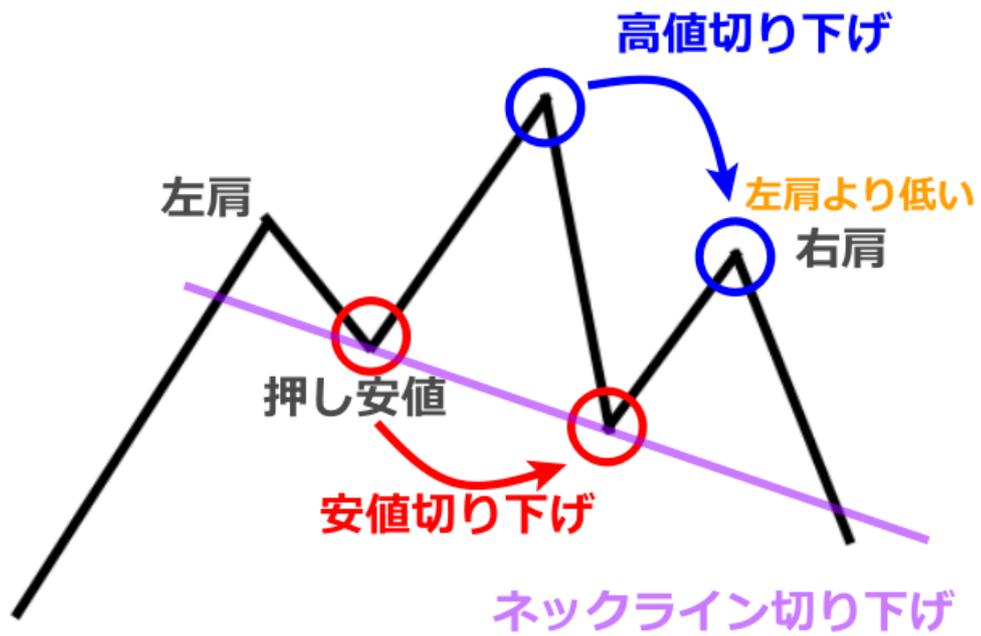
ダウ理論の項目でやったのを覚えていますか？

斜めのネックラインを引いた場合、切り下げる形です。
そして左肩よりも右肩の方が下がっていると尚、信頼度が高まります。

これは、3回上にトライしたけれども上がれなかった、しかも3回目が1番低い位置で反発されたとなると、いよいよ上昇する力が弱いということを示唆する為です。

以上の観点から、これが出ると下がりやすいというのは、押し安値を下に抜けていて、尚且つ、右肩が1番低い三尊が出ると信頼度の高いトレンド転換のチャートパターンと判断します。

下の図のようになっている三尊が理想的ということです。



理想的な三尊

逆三尊も同じように考えます。

これが出ると下がりやすいというのは、戻り高値を上抜けていて、尚且つ、右肩が1番高いという二段階構えの逆三尊です。

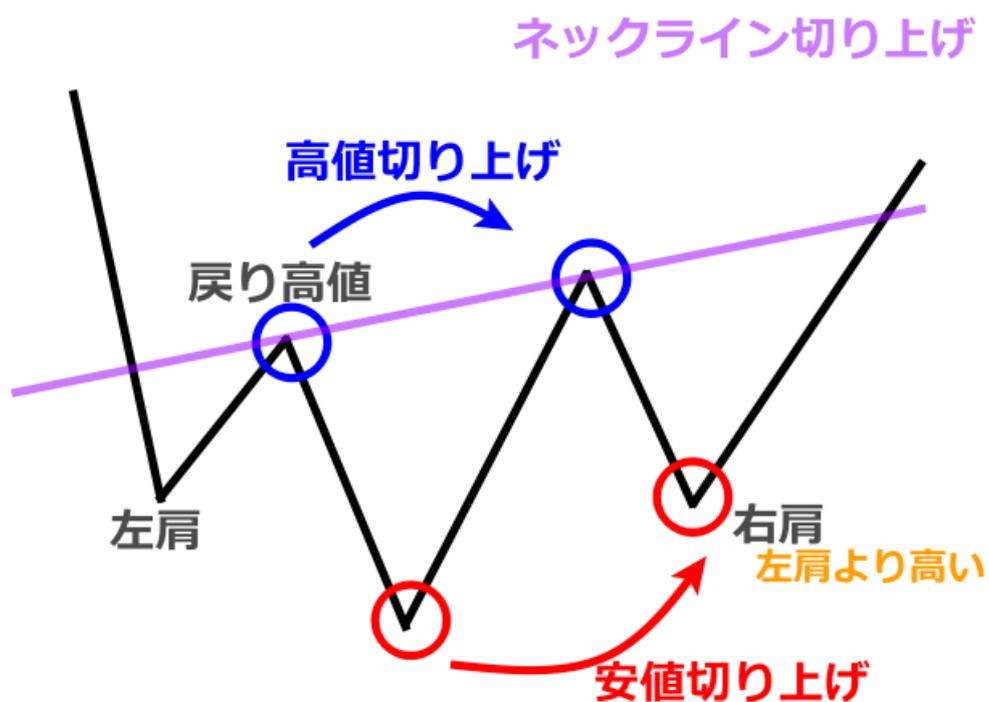
理由は、戻り高値を上抜けてローソク足が確定した段階で、ダウ理論ではダウトレンドが崩れたと判断できるからです。

戻り高値より上でローソク足が確定したならば、右肩部分は左肩よりも上だろうが下だろうが関係なく、最安値よりも上に右肩が来れば、アップトレンドに転換していますね。

斜めのネックラインを引いた場合、切り上げる形です。

以上の観点から、これが出ると上がりやすいというのは、戻り高値を上を抜けていて、尚且つ、右肩が1番高い逆三尊が出ると信頼度の高い転換を示唆するチャートパターンと判断します。

下の図のようにになっている三尊が理想的ということです。

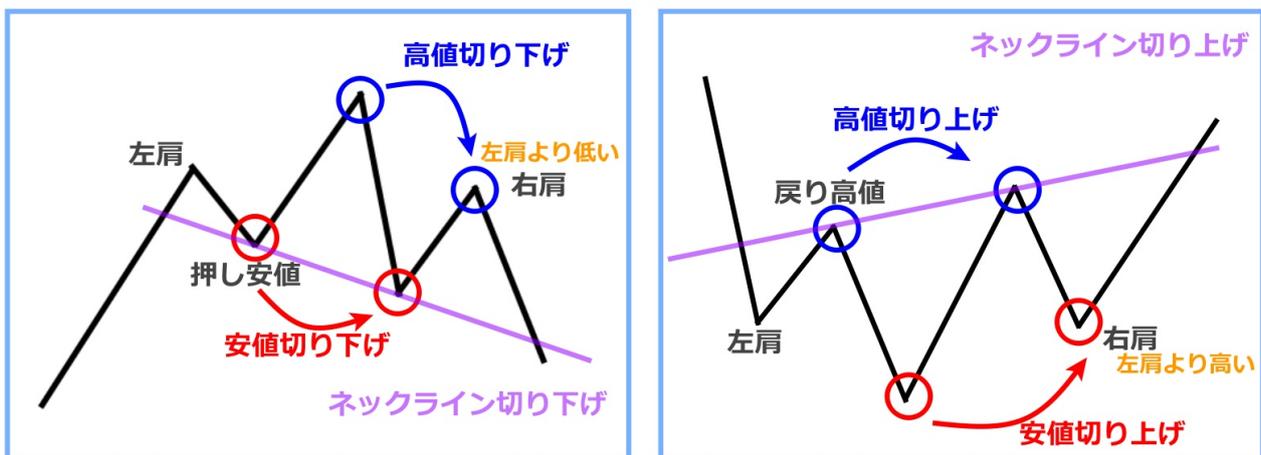


理想的な逆三尊

まとめると

三尊→押し安値下抜け & 右肩が1番低い (ネックラインは切り下げ)
逆三尊→戻り高値上抜け & 右肩が1番高い (ネックラインは切り上げ)

三尊と逆三尊はダウと重ねる



だましに遭いにくいので、このパターンを覚えておくと良いでしょう。
最低限、押し安値や戻り高値が抜けているかの確認が必要です。

そして、これが出たらすぐに売りエントリーや買いエントリーをするのではなく、他の根拠も合わせることを忘れないでください。

⑥プライスアクション

最後に、プライスアクションです。

プライスアクションとは、平たく言うとローソク足単体や複数の組み合わせを見て、この後の動きを予測するものです。

チャートパターン同様に必ずそうなるというものではなく、「そうなりやすい」というものであり、結局最後はその場その場で、相場参加者の気持ちを自分で考えて判断しないとイケないので、丸覚えすれば勝てるというものではないです。

環境認識の1つとして、複合的に捉える材料の1つとして紹介しますね。

リバーサルハイ&リバーサルロー

私はプライスアクションを重要視しているわけではないですが、1つだけみているものがあります。

それがこの、リバーサルです。

何故これを見ているかと言うと、プライスアクションの中でも信頼度が高いからです。

※正直に言うとあともう1つ、意識しているプライスアクションがあります。

「ピンバー」です。

ピンバーはリバーサルと、ほぼ同じ値動きですのでココでは割愛します。

リバーサルハイとリバーサルローは、天井圏や底値圏で出ると反転しやすく、大きな波に繋がればトレンド転換するというもので、エントリーの根拠として使う人もいます。

水平線との相性も良いのも、私が気に入っている理由の1つです。

水平線が引ける場所出ると高確率で反発しやすいです。

「この水平線は効くかなあ？」と思った時に、これが出ると反発しやすいですし、長期足でこれが出た後はトレンドが変わる可能性があるかと、私は環境認識をしています。

リバーサルハイとリバーサルローの違いは、上昇時と下降時のどちらに出るかの違いですが、それぞれ詳しく解説しますね。

まずは上昇時に出るリバーサルハイについてです。

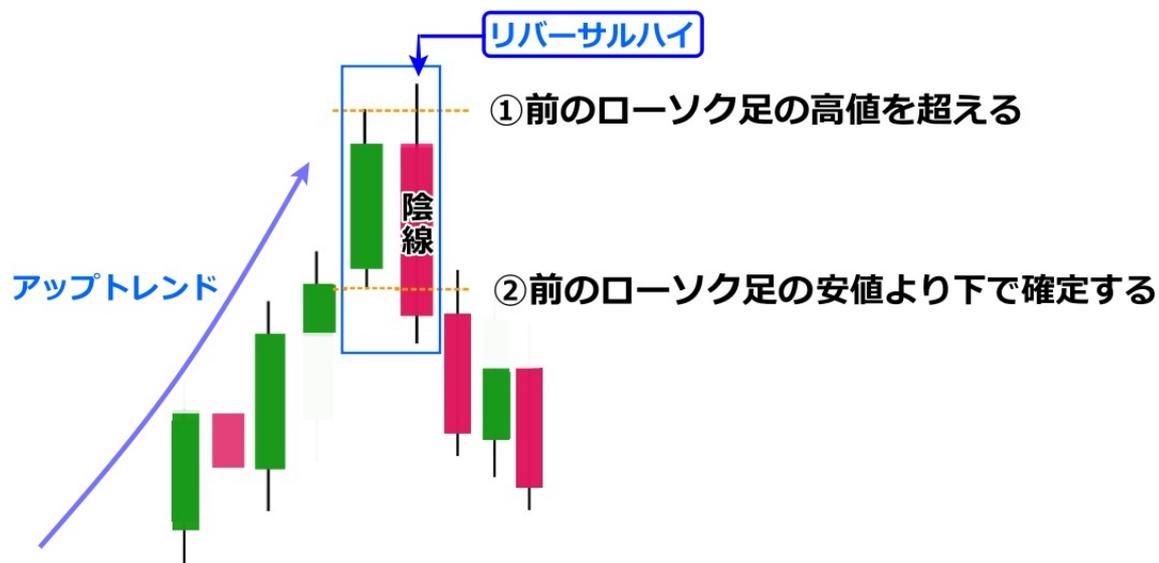
リバーサルハイ

リバーサルハイは2本のローソク足で作られる値動きで、これが出現すると反転して下落しやすいです。

値動き①：1本前のローソク足の高値を、ヒゲで上に抜く

値動き②：1本前のローソク足の安値より下で確定する = 2本目は必ず「陰線」

ポイント：高値圏に出ると反発して下落しやすいです。



これだけの説明ですと、ちょっと難しいと感じたかもしれませんね。

リバーサルハイのを見つけ方のコツ

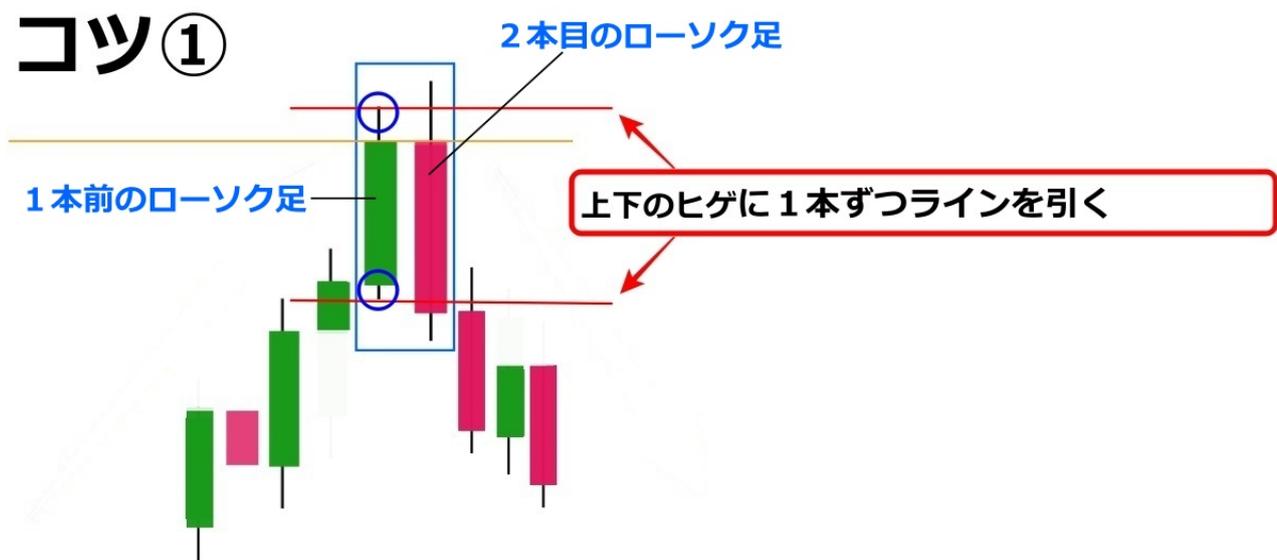
私がやっているリバーサルハイのを見つけ方のコツがありますので紹介しますね。
手順は、以下の通りです。

- ① 1本前のローソク足の上下のヒゲ（無ければ実体部分）にラインを引く
- ② 上のラインを、2本目のローソク足のヒゲで上に抜く
- ③ 下のラインを、2本目のローソク足の実体で下に抜く

この条件が当てはまったら、リバーサルハイです。
この後ローソク足数本で、下落する可能性が高いです。

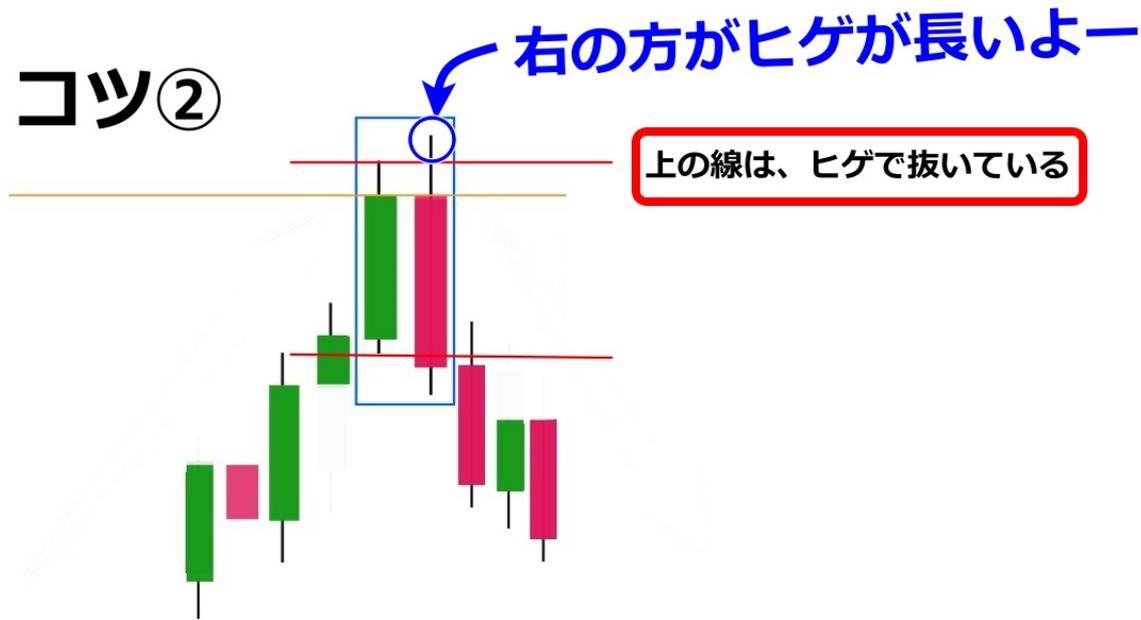
画像で見た方が分かりやすいので、画像で説明します。

まず、1本前のローソク足の上下のヒゲに1本ずつラインを引きます。



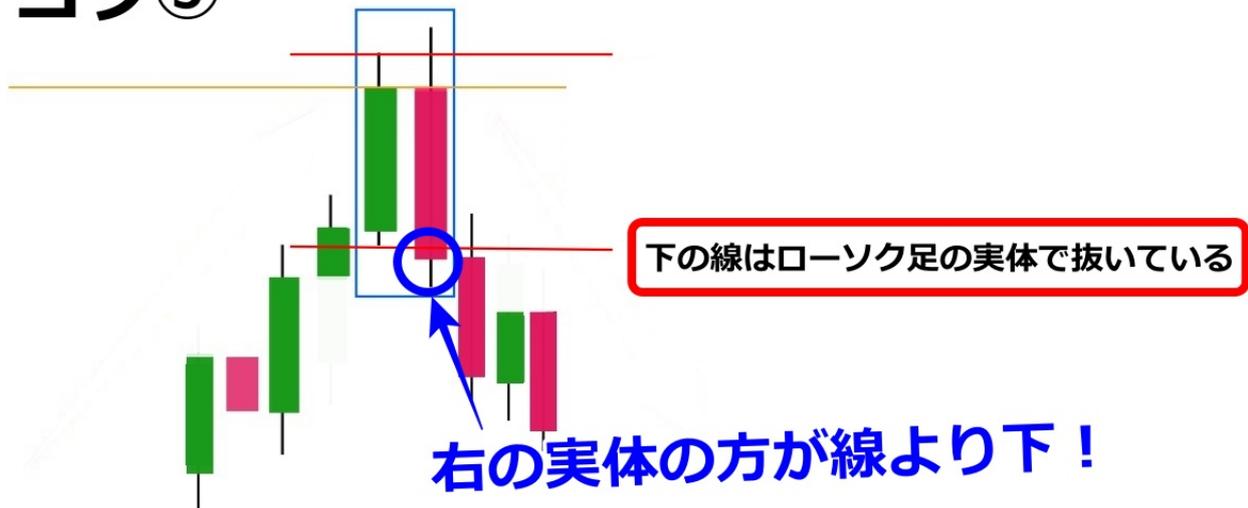
上に引いた線を、2本目のローソク足のヒゲで上に抜いているか確認します。

コツ②



下に引いた線を、2本目のローソク足の「実体」で下に抜いているか確認します。

コツ③

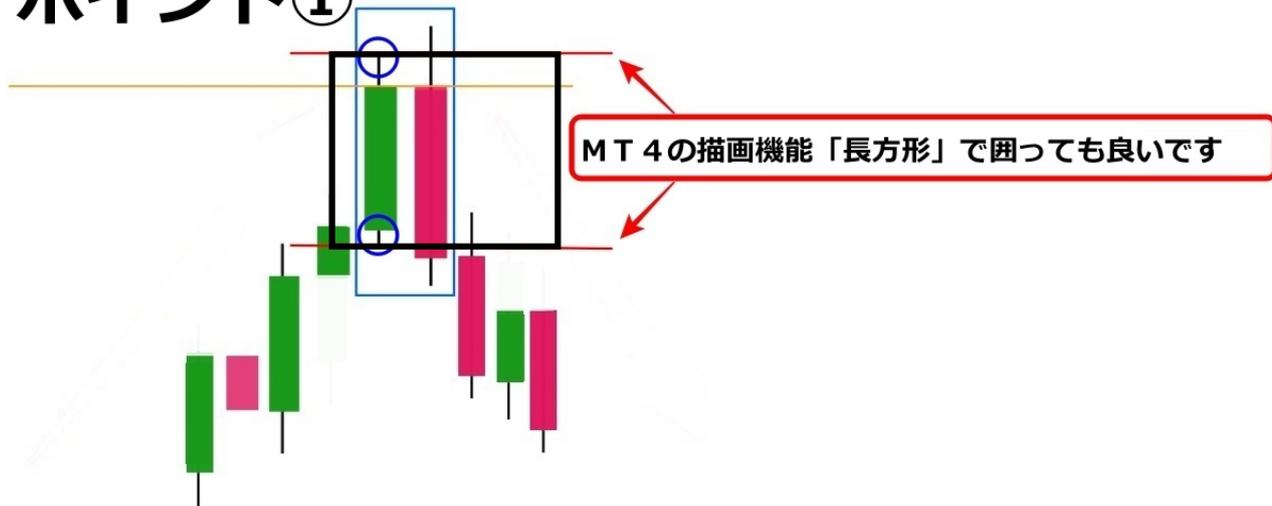


以上3つの工程で、リバーサルハイを簡単に見つける事ができます。

次に、ポイントを2つみていきましょう。

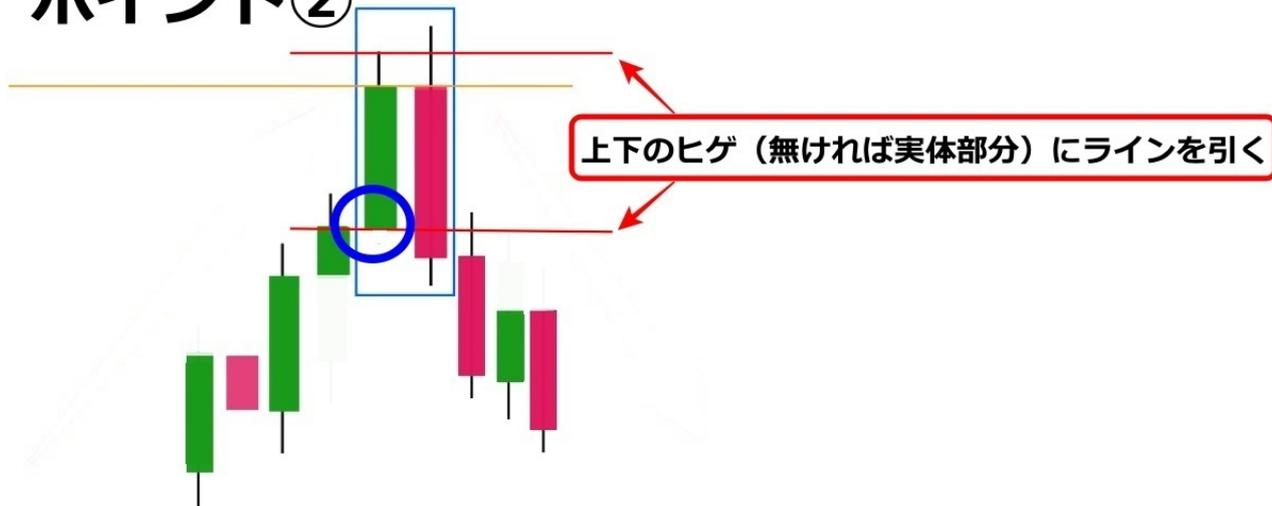
上下に引く線は、「長方形」で囲っても良いです。

ポイント①



ヒゲが無い時は下の青丸のように、実体部分に引きます。

ポイント②



下ヒゲで抜いていても実体で下抜けしていなければダメです。

ポイント③



下の図のように、リバーサルハイの周辺に水平線が引けると、さらに反発下落しやすくなります。



今度は、リバーサルローについて同じように解説していきますね。

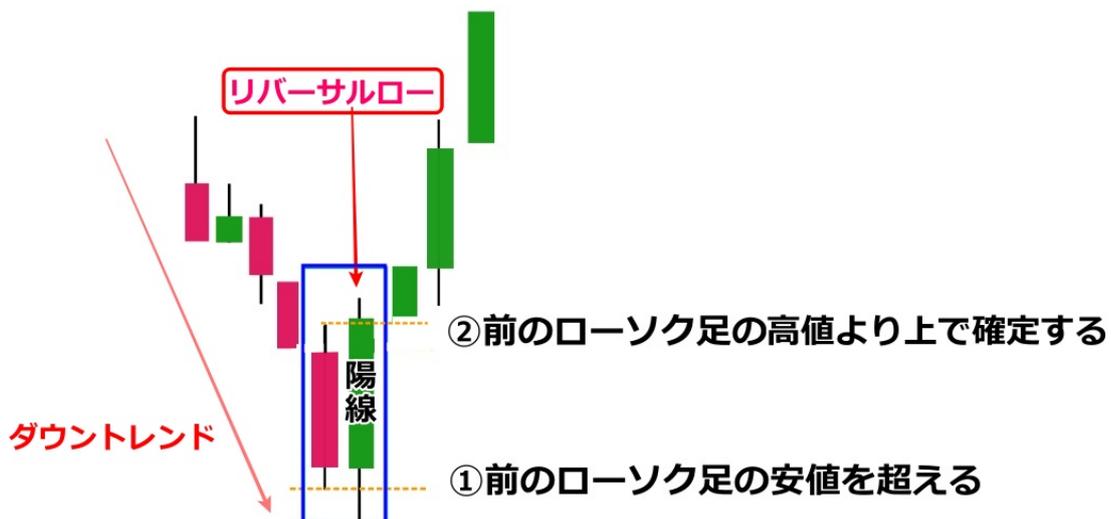
リバーサルロー

リバーサルローも2本のローソク足で作られる値動きで、これが出現すると反転して上昇しやすいです。

値動き①：1本前のローソク足の安値を、ヒゲで下に抜く

値動き②：前のローソク足の高値より上で確定する = 2本目は必ず「陽線」

ポイント：安値圏に出ると反発して上昇しやすいです。



リバーサルローのを見つけ方のコツ

リバーサルローのを見つけ方の手順は、以下の通りです。

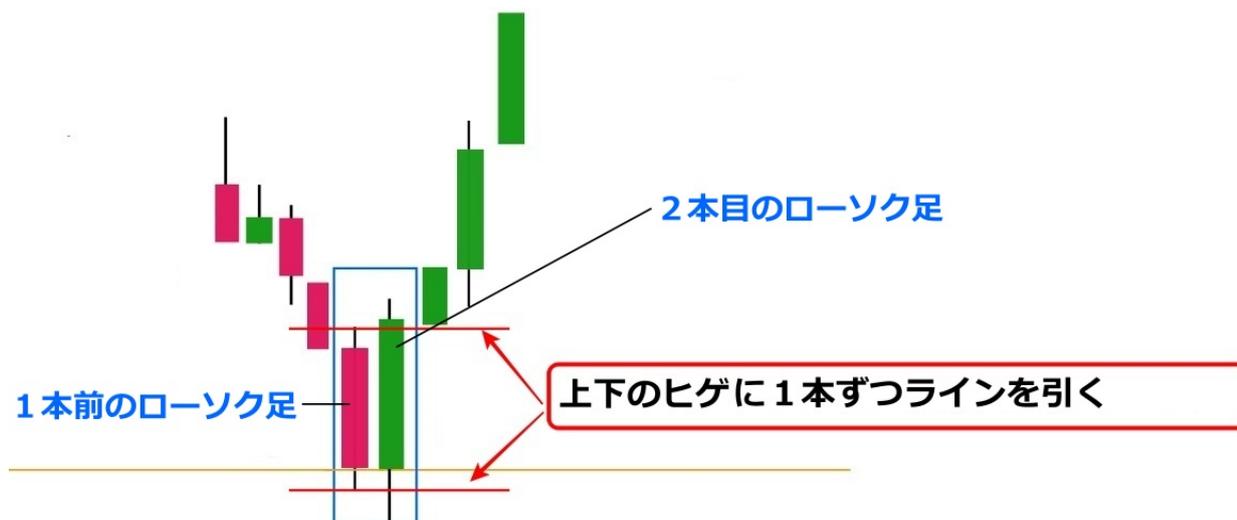
- ① 1本前のローソク足の上下のヒゲ（無ければ実体部分）にラインを引く
- ② 下のラインを、2本目のローソク足のヒゲで下に抜く
- ③ 上のラインを、2本目のローソク足の実体で上に抜く

この条件が当てはまったら、リバーサルローです。
この後ローソク足数本で、上昇する可能性が高いです。

画像で見た方が分かりやすいので、画像で説明します。

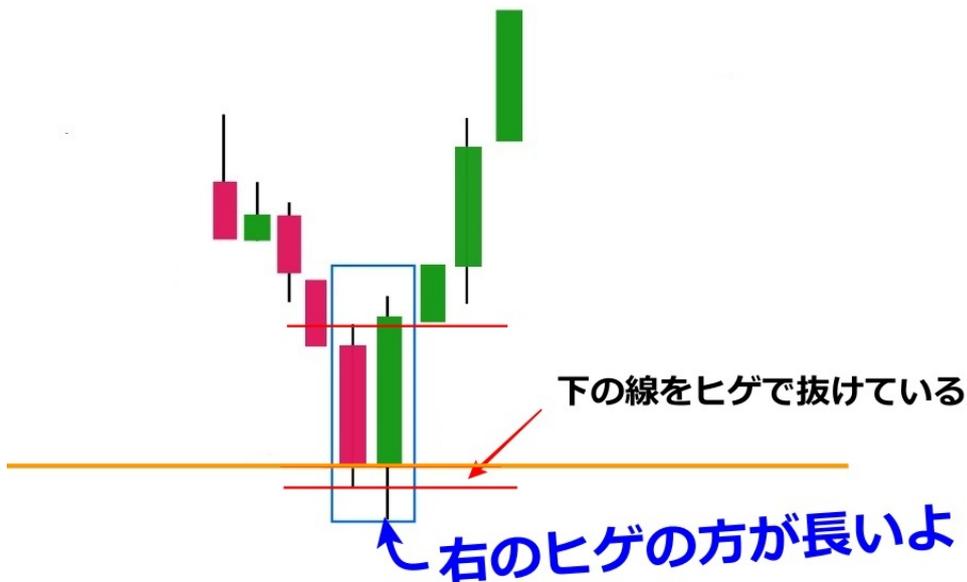
まず、1本前のローソク足の上下のヒゲに1本ずつラインを引きます。

コツ①



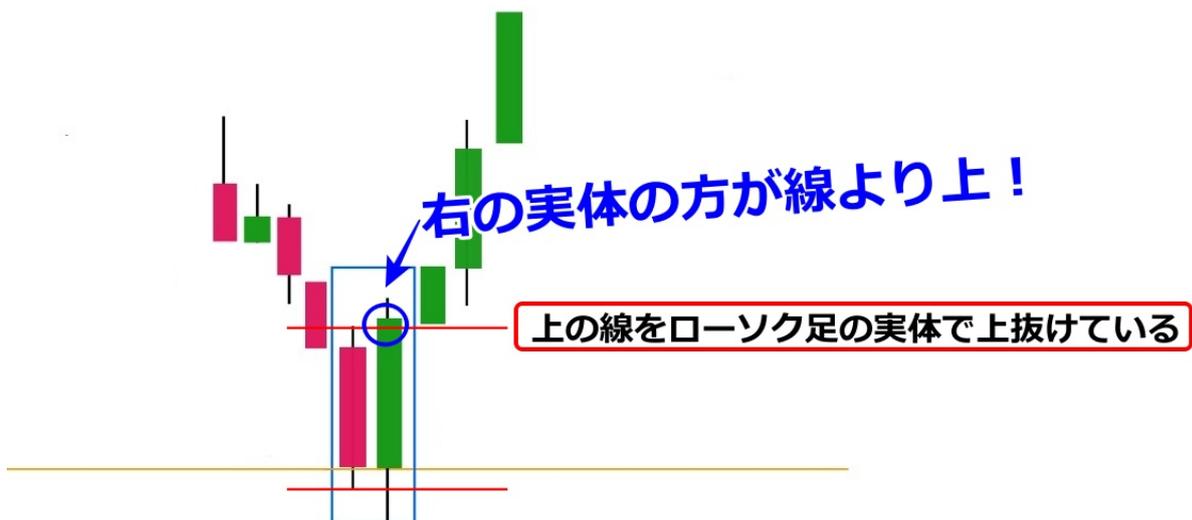
下に引いた線を、2本目のローソク足のヒゲで下に抜いているか確認します。

コツ②



上に引いた線を、2本目のローソク足の「実体」で上に抜いているか確認します。

コツ③

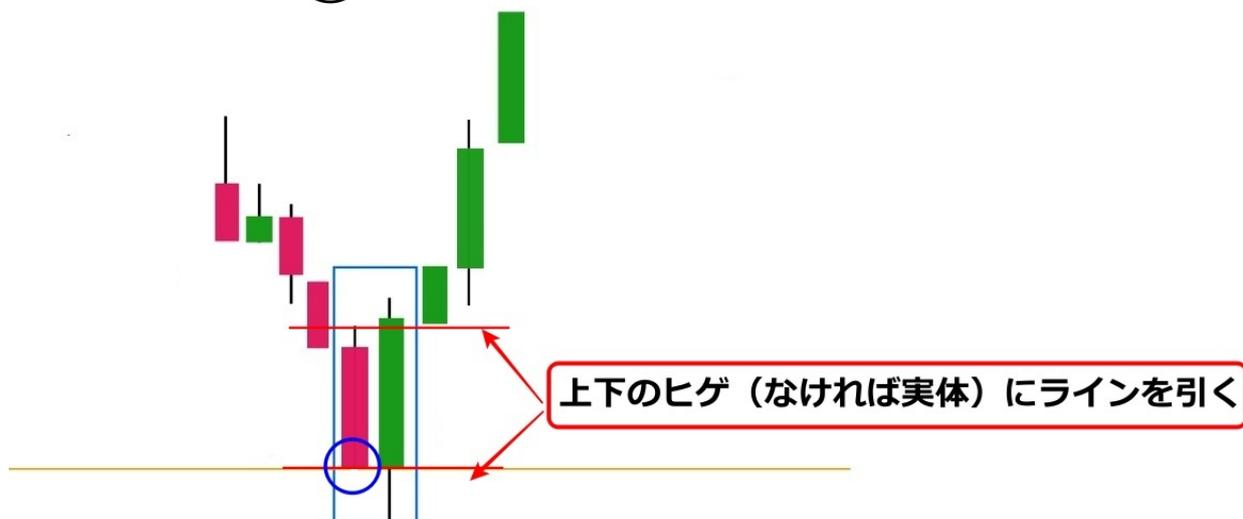


以上3つの工程で、リバーサルローを簡単に見つける事ができます。

次に、ポイントを2つみていきましょう。

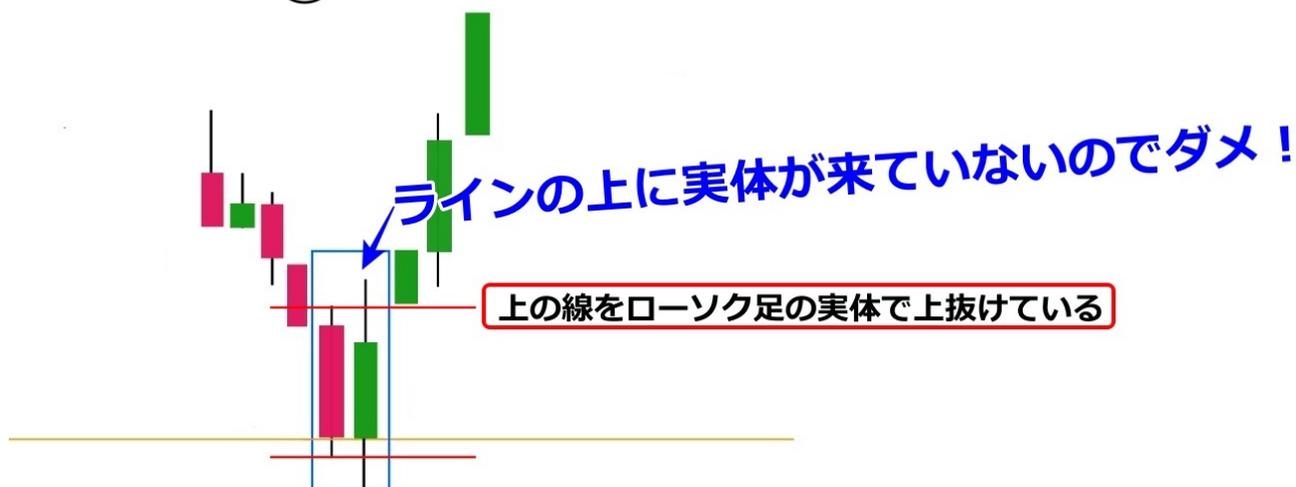
ヒゲが無い時は下の青丸のように、実体部分に引きます。

ポイント①



上ヒゲで抜いていても実体で上抜けしていなければダメです。

ポイント②



下の図のように、リバーサルローの周辺に水平線が引けると、さらに反発上昇しやすくなります。



下のチャートは、ポンド円の1時間足チャートです。

※PDFを拡大すると、見やすいです。



水平線が引ける所で出現していると、見事に反発しているのがお分かりいただけます。

右下のリバーサルローは水平線が引けませんので、出現しても反発して上昇するかは、怪しいと判断するべきでしょう。

もう少し下落して底値圏であったり、水平線が引けると信頼度が高まります。

このように「リバーサル」はプライスアクションの中でもかなり効きます。
あなたに覚えてもらえるように幾つか問題を出しますね！

(1) 次の3つの中で、リバーサルハイはどれでしょうか？

リバーサルハイはどれでしょう？



似たようなものもあるので、間違えずに教えてください。

正解は③です。

この後の値動きは以下のように、下落していきました。



選択肢の①は前のローソク足の実体より下で確定はしていますが、高値を抜けていません。

選択肢の②は前のローソク足の高値が抜けていませんし、下ヒゲを2本目のローソク足の「実体」で抜けていないのでリバーサルハイではありません。

続いての問題です。

(2) 次の3つの中で、リバーサルローはどれでしょうか？

リバーサルローはどれでしょう？



リバーサルハイと同じ要領でやっていきましょう。
印刷してから、赤ペンで上下に線を引いてみるもいいですね。

正解は②です。

この後の値動きは以下のように、上昇していきました。



選択肢の①は前のローソク足の下ヒゲを抜けていますが、上ヒゲを実体で超えていません。

③は前のローソク足の高値を実体で上抜けて確定していますが、下ヒゲは同値となっており下抜けていませんのでリバーサルローではありません。

続いて最後の問題です。

(3) 次のチャートの中で、リバーサルが出ているのはどこでしょうか？



正解は以下の通りです。



いかがでしたでしょうか。

第2章は環境認識について学んできましたが、私が1番大切にしているキモの部分です。

勝つために必要なことを惜しみなく伝えましたので、しっかりと落としこんでくださいね。

さて、次からトレードプランについて入っていきますが、これまでの部分の復習や要点をまとめたり、気になったことなどをメモするのに使ってください。

第2章 メモ

第1章では勝ち組になるためにあなたに必要なものをお手紙を使ってお伝えし、第2章では、勝率を上げるためのエントリー前の準備として環境認識を学びました。

環境認識に使えるテクニカル5選や、だましに遭わないための水平線のプラスアクションなどなど、私が普段使っているトレード技術をそのままお伝えしたのでそっくり真似して頂くだけでも、トレード成績は改善されると思います。

この後は、勝率の高いエントリーポイントやトレード方法に焦点をあてていきますがここまでの内容を読んで頂ければ十分かと思います。

この続きは有料になりますが、もし続きを読まれる場合は目次は以下の通りです。

勝てるようになる要素がたくさん詰まっていますので、トレードに行き詰まっている場合は、読んでください。

受講者の79%が、たった7日で勝率5%アップ！
初心者必見！FXで好成績を上げる秘訣が分かる人教材

【トレ教】

↓

メルマガ特典 限定価格

~~29,800円~~ → **19,800円**

<https://cutt.ly/qFhdfOn>

【投資に係るリスクおよび手数料について】

当商品は、著者と同じような利益が出ることを保証するものではありません。

FXは価格変動リスクを伴うため、場合によっては損失を被る可能性があります。また、FXには取引業者の売買手数料がかかります。

特定商取引法の表記

■ 【トレ教】 目次（第3章～第5章）

あや流「トレード方法の極意」

（一部変更がある場合がございます。）

第3章 トレードシナリオ

トレードシナリオを作らないとどうなるのか
トレードシナリオを作る目的
どんなトレードシナリオを作るのか
順張りとは逆張り
順張りとは逆張りのエントリーポイントの違い
トレードシナリオはいつ作るのか
トレードシナリオを立ててはいけないタイミング
トレードシナリオを立てる時間足
トレードシナリオを書くやり方2種
トレードシナリオを作る手順
トレードシナリオの7つの実例←人気！
シナリオで作ったエントリーポイントに来たら必ずエントリーするの？
環境認識とトレードシナリオを見直

第4章 エントリー方法

エントリーする時間足
手法 = 環境認識 + 執行足のタイミング取り
エントリーのタイミング取り
MAを使ってトレードする
正しいMA反発とは
効いているMAを探すコツ
MAやボリンジャーバンドを使った勝ちやすい2つのエントリーポイント（買い）
MAやボリンジャーバンドを使った勝ちやすい2つのエントリーポイント（売り）
MAやボリンジャーバンドを使った負けやすい2つのエントリーポイント（買い）
MAやボリンジャーバンドを使った負けやすい2つのエントリーポイント（売り）
勝ちやすいエントリーポイントと負けやすいエントリーポイントの一覧
水平線を使ったエントリー方法2種
エントリーを待ち構えるタイミング
水平線でのプライスアクション5種

順張りの2種類

ボックスで勝率の高い3つの厳選エントリーポイント

ボックス手法の3つのまとめ

横軸で分かる成功のコツ

MAを使ったトレード方法

その他の勝率が高いトレード方法

順張りのエントリーポイントのまとめ

負けやすいエントリーポイント

あや流「未来予測法」

第5章 決済方法

損切注文と利確注文を入れるタイミング

利確方法

損切方法

受講者の79%が、たった7日で勝率5%アップ！

初心者必見！FXで好成績を上げる秘訣が分かる人教材

【トレ教】



29,800円

<https://cutt.ly/mZvfZNo>

【投資に係るリスクおよび手数料について】

当商品は、著者と同じような利益が出ることを保証するものではありません。

FXは価格変動リスクを伴うため、場合によっては損失を被る可能性があります。また、FXには取引業者の売買手数料がかかります。

[特定商取引法の表記](#)